

高知県香南市発掘調査報告書 第22集

にわ が ふち
庭ヶ湊遺跡Ⅱ

—市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書—

2024.2

香南市教育委員会

にわ が ふち
庭ヶ渕遺跡Ⅱ

—市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書—

2024. 2

香南市教育委員会

序

本書は、香南市香我美町上分における市道整備事業に伴い、香南市教育委員会が平成23年度に発掘調査を実施した庭ヶ淵遺跡の発掘調査報告書です。

香南市の中央を流れる香宗川では、中流域から下流域に至る範囲において各時代の人々の生活の拠点となってきました。香宗川及びその支流である山南川の流域においても、弥生時代の集落跡が発見された拝原遺跡・稗地遺跡や、古代・中世に有力者が居を構えたと考えられる十万遺跡などが存在します。

これらの遺跡よりやや上流において、縄文時代晩期の土器がまとまって出土する庭ヶ淵遺跡が発見されました。縄文時代から弥生時代へと移る時期に小規模な集落があったことが想定されますが、この時期の遺跡は県内でも例が少なく、当時の集落分布や人・モノの交流を考えるうえで貴重な遺跡といえます。

本書では、この時期に建てられたと考えられる竪穴建物跡を検出した調査地区に焦点を当てつつ、庭ヶ淵遺跡の出土遺物を俯瞰することにより、香南市域でかつて営まれた縄文文化の一端を提示します。

本書を通して多くの方々に地域の歴史を知っていただき、埋蔵文化財を記録保存という形で後世に伝承していくことの一助となることを願います。刊行に至るまでに賜りました地域の方々のご理解と関係諸氏のお力添えに対し敬意を表するとともに、厚くお礼を申し上げます。

令和6年2月

高知県香南市教育委員会
教育長 入野 博

例 言

1. 本書は、香南市香我美町上分における市道整備事業に伴い、平成23年度に香南市教育委員会が実施した庭ヶ渕遺跡の発掘調査報告書である。
2. 庭ヶ渕遺跡は、高知県香南市香我美町上分2974番地他に所在する。
3. 発掘調査は3ヵ月にわたって実施し、発掘調査面積は約300㎡である。
4. 調査期間は、平成23年7月8日から同年10月6日にかけて発掘調査を行い、併せて基礎整理を平成23・24年度に行った。また、本報告書の執筆・編集及び整理業務を令和4年4月1日から令和5年9月30日にかけて実施した。
5. 発掘調査時(平成23年度)の調査体制は以下の通りである。

事務担当	小松 誠	香南市教育委員会	生涯学習課	文化振興保護係	係長
	〃 田中 一也	〃	〃	〃	主任
調査担当	松村 信博	〃	〃	〃	主監調査員
	〃 宮地 啓介	〃	〃	〃	嘱託職員
6. 報告書執筆・編集時の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。

令和4年度	課 長	猪原 加江	会計年度 任用職員	齋藤 美幸
	係 長	竹中 ちか		高橋 加奈
	主幹調査員	横山 藍		高橋 由香
		松井 喬行		藤原 ゆみ
	会計年度 任用職員	澤田 秀幸		山崎 佐世
		岡林 真史		依光 美佐子
		小松 雅子		
令和5年度	課 長	山崎 正博	会計年度 任用職員	齋藤 美幸
	係 長	竹中 ちか		高橋 加奈
	主幹調査員	横山 藍		高橋 由香
		松井 喬行		藤原 ゆみ
	会計年度 任用職員	澤田 秀幸		山崎 佐世
		岡林 真史		依光 美佐子
		森 信輔		
7. 本書の刊行に係る作業につき、平成23年度の発掘調査における土層の観察及び写真撮影、遺構の実測は松村・宮地が行った。令和4・5年度に遺物実測図の点検、本文の執筆・編集は松井が行った。
8. 発掘調査及び遺物整理・実測等は、以下の方々が携わった。
小松経子 齋藤美幸 藤方正治 水田紀子 宮本幸子 山崎佐世 (敬称略)
9. 遺構については、ST(竪穴建物跡)、SK(土坑)、SD(溝跡)、SX(性格不明遺構)、P(ピット)と略号を付し、遺構番号は通し番号を付した。掲載している遺構図の縮尺は、S=1/60で作成した。方位(N)は世界標準座標方眼北(真北)である。
10. 各種遺構図・土層図、及び本文中に記載された高さを示す数値は、T.P.(東京湾平均海面)を基準とする標高値である。

11. 遺物については、土器及び土製品は縮尺1/3を基本として掲載し、石製品は各々適切な縮尺で掲載した。各挿図にはスケールを表記している。
12. 第Ⅳ章については、遠部慎氏（中央大学人文科学研究所）の玉稿を賜った。
13. 第Ⅴ章については、早田勉氏（株式会社 火山灰考古学研究所）の玉稿を賜った。
14. 庭ヶ淵遺跡Ⅰ区出土遺物（宮地啓介、2012、『高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ淵遺跡』、香南市教育委員会）の遺物観察表及び写真図版について、本報告書内に掲載している。
15. 写真図版掲載の出土遺物は、原寸の概ね1/2の縮尺に揃えて掲載している。Ⅰ区の遺物については、図版番号の前に「Ⅰ」を付している。
16. 発掘調査作業及び整理作業を行っていただいた方々に感謝する。また、報告書作成にあたっては、香南市文化財センター諸氏の協力と援助を得た。
17. 出土遺物の考察にあたっては、松村信博氏の多大なご教示を賜った。記して謝意を表す。
18. 宮里修氏に出土遺物についての助言を賜った。また、第Ⅵ章の執筆にあたり研究論文の引用を快諾いただいた。記して謝意を表す。
19. 調査の実施にあたっては、地域の方々の多大な協力と援助を得た。
20. 出土遺物の註記は、出土略号を「11 - NW」とし、実測図・写真資料ともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯.....	1
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境.....	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第Ⅲ章 調査成果.....	5
第1節 調査の方法と基本層序.....	5
1. 調査の方法.....	5
2. 遺構平面図.....	6
3. 基本層序.....	7
第2節 Ⅱ区.....	8
1. 竪穴建物跡.....	8
2. 土坑.....	12
3. 溝跡.....	12
4. 性格不明遺構.....	13
5. ピット.....	15
6. 遺物包含層出土遺物・表面採集遺物.....	15
第Ⅳ章 庭ヶ渚遺跡出土試料の14C年代測定.....	23
概要.....	23
1. 測定試料と観察所見.....	23
2. 炭化物の処理.....	23
3. 測定結果と暦年較正.....	24
4. 測定結果について.....	25
第Ⅴ章 庭ヶ渚遺跡の火山灰分析.....	29
1. はじめに.....	29
2. 火山ガラス比分析.....	29
3. 屈折率測定.....	31
4. 考察.....	31
5. まとめ.....	31
第Ⅵ章 総括.....	33
第1節 庭ヶ渚遺跡出土土器.....	33
1. 器種組成.....	33
2. 縄文土器の所属時期.....	33
第2節 庭ヶ渚遺跡の位置付け.....	35

挿図目次

図1	四国における庭ヶ渚遺跡.....	1
図2	庭ヶ渚遺跡調査地位置図.....	2
図3	庭ヶ渚遺跡周辺の地形分類.....	3
図4	庭ヶ渚遺跡周辺の遺跡.....	4
図5	調査区遺構平面図 (S=1/200).....	5
図6	Ⅱ区遺構平面図 (S=1/80).....	6
図7	Ⅱ区東壁 セクション図.....	7
図8	Ⅱ区南壁 セクション図.....	7
図9	ST1 平面図・断面図.....	8
図10	ST1 出土遺物実測図1.....	9
図11	ST1 出土遺物実測図2.....	10
図12	ST1 出土遺物実測図3.....	11
図13	SK1 平面図・断面図.....	12
図14	SK1 出土遺物実測図.....	12
図15	SD2 出土遺物実測図.....	12
図16	SX1 出土遺物実測図.....	13
図17	SX2 出土遺物実測図.....	14
図18	SX3 出土遺物実測図.....	14
図19	SX4 出土遺物実測図.....	14
図20	ピット 出土遺物実測図.....	15
図21	V層 出土遺物実測図1.....	15
図22	V層 出土遺物実測図2.....	16
図23	V層 出土遺物実測図3.....	17
図24	V・VI層 出土遺物実測図.....	18
図25	VI層 出土遺物実測図1.....	18
図26	VI層 出土遺物実測図2.....	19
図27	VI層 出土遺物実測図3.....	20
図28	VI層 出土遺物実測図4.....	21
図29	包含層 出土遺物実測図.....	21
図30	表面採集遺物実測図.....	22
図31	分析試料の付着状況.....	23
図32	AAA 処理前／後の状況.....	24
図33	測定試料の較正年代.....	26
図34	付着炭化物の炭素・窒素同位体比及び炭素同位体比と C/N 比.....	26
図35	庭ヶ渚遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム.....	30
図36	庭ヶ渚遺跡 TR1 南 火山灰試料の透過光顕微鏡写真.....	30

図37	庭ヶ渚遺跡出土縄文・弥生土器器種組成.....	33
図38	庭ヶ渚遺跡出土縄文土器の時期概念図.....	34
図39	高知県における縄文時代の可能性のある竪穴建物跡.....	36

表目次

表1	ST1床面ピット計測表.....	9
表2	ピット計測表.....	15
表3	分析試料.....	23
表4	庭ヶ渚遺跡の14C炭素年代(BP)と暦年較正年代(cal BC).....	25
表5	庭ヶ渚遺跡の安定同位体比.....	25
表6	テフラ検出分析結果.....	30
表7	火山ガラス比分析結果.....	30
表8	屈折率測定結果.....	31
	II区遺物観察表.....	39
	I区遺物観察表.....	53

写真図版目次

図版1	II区 ST1 上面 礫検出状態(北より)
	II区 東壁(西より)
図版2	II区 南壁(北東より)
	I区・II区 遺構完掘状態(西より)
図版3	II区 ST1 東西バンク 西半部 セクション(南より)
	II区 ST1 東西バンク 東半部 セクション(南より)
図版4	II区 ST1 完掘状態(南東より)
	II区 ST1 掘削作業風景(南西より)
図版5	II区 ST1 出土遺物
図版6	II区 ST1/SK1/SD2/SX1~4/P15 出土遺物
図版7	II区 P16/V層 出土遺物
図版8	II区 V層 出土遺物
図版9	II区 V層/V・VI層 出土遺物
図版10	II区 VI層 出土遺物
図版11	II区 VI層 出土遺物
図版12	II区 VI層/包含層 出土遺物
図版13	II区 包含層/表採 出土遺物

- 図版14 TR2 II層／I区 SK1・2・4／SX4・5 出土遺物
図版15 I区 SX5～7 出土遺物
図版16 I区 SX7・9～11・13・15～17／P8・14・30・45・70・71／火処4 出土遺物
図版17 I区 火処4／包含層／V層／V・VI層／VI層 出土遺物
図版18 I区 V・VI層／VI層 出土遺物
図版19 I区 VI層／包含層 出土遺物
図版20 I区 V・VI層／VI層／包含層 出土遺物
図版21 I区 V・VI層／VI層 出土遺物
図版22 I区 V層／V・VI層／VI層／包含層 出土遺物

第 I 章 調査に至る経緯

高知県香南市香我美町上分における市道堀ノ内南北線整備事業に伴い、平成 23 年 3 月に香南市教育委員会が主体となり埋蔵文化財試掘確認調査（以下、試掘調査）を実施した。調査対象地は二級河川である香宗川の支流、山南川右岸に位置し、石垣を築き 3 段に造成された旧耕作地である。試掘調査の結果、旧耕作土下において縄文土器、弥生土器、土師質土器等を含む遺物包含層（以下、包含層）及びピット状遺構が確認された。試掘調査結果の詳細については、『香南市香我美町上分堀ノ内地区試掘確認調査概報』（香南市教育委員会 2011）及び『高知県香南市発掘調査報告書 第 8 集 庭ヶ淵遺跡』（香南市教育委員会 2012）に記載している。この結果を受け、「庭ヶ淵遺跡」として埋蔵文化財包蔵地を新設し、関係機関と協議の上、香南市教育委員会が主体となり記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなった。調査期間は平成 23 年 7 月 8 日から同年 10 月 6 日であり、調査対象面積約 1,025㎡のうち約 300㎡につき発掘調査を実施した。

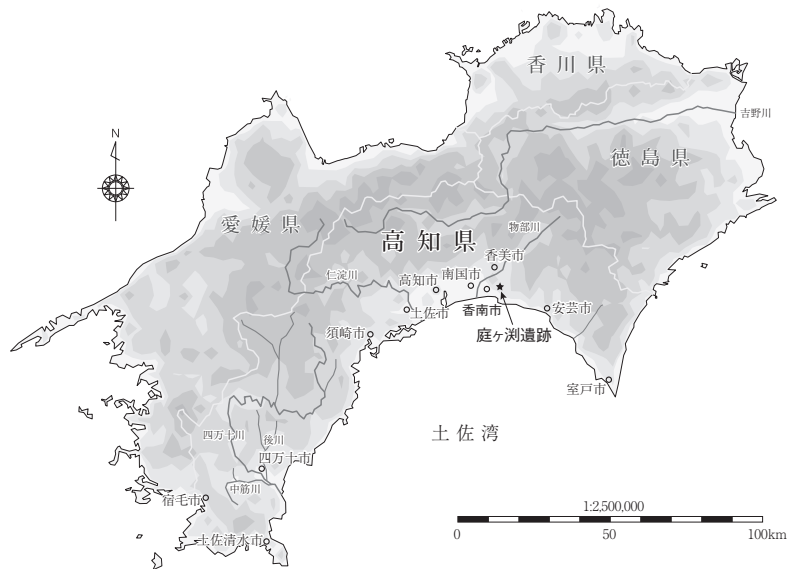


図 1 四国における庭ヶ淵遺跡

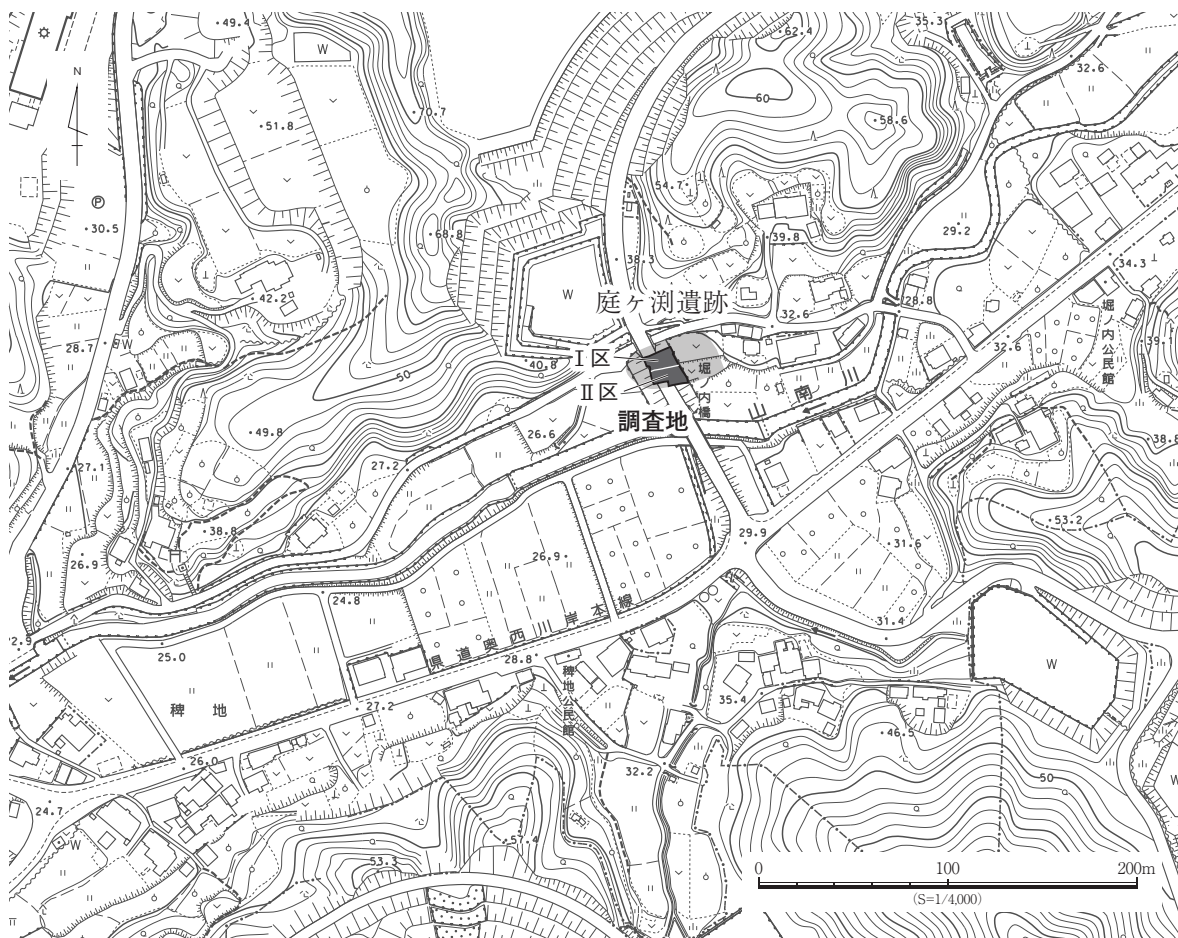


図2 庭ヶ淵遺跡調査地位置図

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

庭ヶ測遺跡は、海岸線から直線距離約3.5km内陸の谷底低地に所在する。調査地は山南川右岸の河岸段丘上に位置し、調査前の現状は石垣を築いた3段の耕作地であった。山南川は、二級河川である香宗川の支流であり、香我美町上分・山川に所在するカブリ石峠の南西斜面（安尾谷）の源流点から上分・下分境界付近の合流点まで約2.6kmを流下する。調査地周辺の標高は約30mであり、山南川中流域の山地から平野に移行する付近に位置する。調査地が所在する右岸段丘は、耕作地化される以前には山南川河道に向かい緩やかに標高を減じる地形であった。また、調査地西側には、北側低丘陵に由来する小規模な谷地形が形成されている。

四国南部の地質は、北から三波川^{さんぱがわ}変成帯、秩父累帯、四万十帯に分類され、フィリピン海プレートの沈み込みによる付加作用により、幅の狭い東西帯状構造をなす地質帯が時代を経るに従い南向に形成されたと考えられている。秩父累帯南帯の三宝山層群はジュラ紀に形成された地層であることが、放散虫化石等の分析から明らかになっている。その地質構造は仏像構造線を隔てて南接する四万十帯の構造と類似し、砂泥互層や枕状溶岩を主体とする緑色岩・チャート・石灰岩を含むメラング層が交互に累重する。調査地は四万十帯北帯に属し、密な間隔で断層が並走する白亜紀前期の付加体由来する地層をなす。

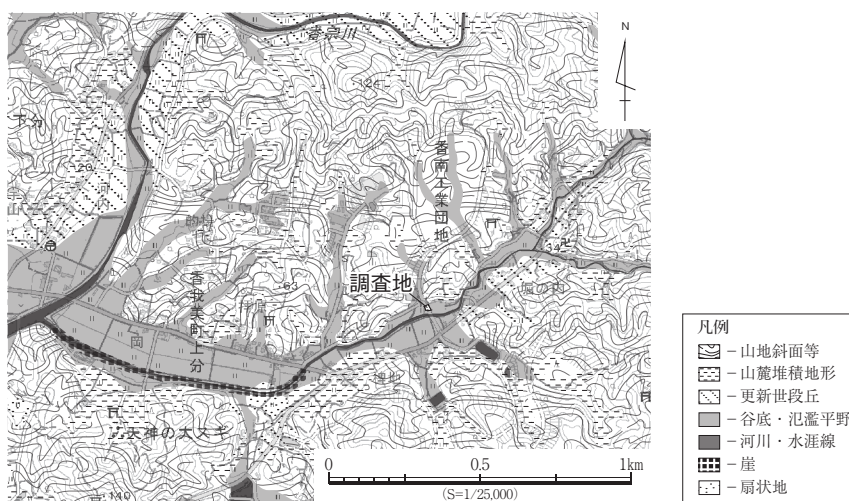


図3 庭ヶ測遺跡周辺の地形分類

第2節 歴史的環境

庭ヶ測遺跡が所在する香南市香我美町には、当遺跡付近を流れる山南川の他、香宗川、山北川が流れる。これらの流域には、縄文時代から中世まで多くの遺跡が知られており、昭和期からの発掘調査によって集落等の分布及び変遷が明らかになりつつある。

山南川流域の遺跡は、稗地遺跡、拝原遺跡が発掘調査され、香宗川流域では幅山遺跡、十萬遺跡、久保田遺跡、下分遠崎遺跡、曾我遺跡などが発掘調査されている。また、山南川兩岸の低丘陵上には、堀の内城跡、岩神城跡、拝原城跡など中世の山城が多く所在することも知られる。

庭ヶ測遺跡周辺の各時代の様相については、『高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ測遺跡』で詳細が記述されているため、本書では省略する。

第2節 歴史的環境



遺跡名	時代/種別	遺跡名	時代/種別	遺跡名	時代/種別
1. 庭ヶ淵遺跡	縄文～中世/集落跡	32. 下分遠崎遺跡	弥生/集落跡	63. 徳王子広本遺跡	弥生～中世/集落跡
2. 堀の内城跡	中世/城跡	33. 曾我遺跡	弥生～中世/集落跡	64. 徳王子前島遺跡	弥生・中世/集落跡
3. 的場遺跡	弥生/集落跡	34. 池の本古墳	古墳/古墳	65. 徳善天皇古墳	古墳/古墳
4. 岩神城跡	中世/城跡	35. 立花遺跡	古墳～古代/散布地	66. 徳善古窯跡群	古代/窯跡
5. 稗地遺跡	弥生～古墳・中世/集落跡	36. 北川原遺跡	弥生～中世/散布地	67. 徳善城跡	近世/城跡
6. 拝原遺跡	縄文～中世/集落跡	37. 仁王堂遺跡	弥生～中世/散布地	68. 猿野古墳	古墳/古墳
7. 拝原城跡	中世/城跡	38. 宮ノ前遺跡	弥生～中世/散布地	69. 西峰城跡	中世/城跡
8. 岡城跡	中世/城跡	39. 宮の西遺跡	弥生・古墳/集落跡	70. 坪井遺跡	古代・中世/集落跡
9. 山川土居城跡	中世/城跡	40. 城山城跡	中世/城跡	71. 道林寺五輪塔群	中世・近世/寺跡
10. 清遠遺跡	中世/散布地	41. 岡ノ芝遺跡	古墳～中世/散布地	72. 大屋敷・岡塚群	中世・近世/塚
11. 平見城跡	中世/城跡	42. 前田城跡	中世/城跡	73. 観音寺跡	中世・近世/寺跡
12. 福万遺跡	中世/散布地	43. 四坊遺跡	中世/散布地	74. 中村遺跡	弥生/散布地
13. 福万城跡	中世/城跡	44. 安岡家住宅	近世/屋敷跡	75. 土居山古墳	古墳/古墳
14. 八王子神社遺跡	中世/祭祀跡	45. 富家城跡	中世/城跡	76. 麓ヶ内塚	中世・近世/塚
15. 八王子神社古墳	古墳/古墳	46. 本村遺跡	弥生～中世/集落跡	77. 野神古墓	古代/墳墓
16. 野神古墳	古墳/古墳	47. 本村アンノヤシキ遺跡	古代～中世/集落跡	78. 樫ノ城跡	中世/城跡
17. 幅山遺跡	弥生/集落跡	48. 大崎山古墳	古墳/古墳	79. 陣ヶ森城跡	中世/城跡
18. 中幅遺跡	弥生・古墳/集落跡	49. 西ノ谷遺跡	古代/散布地	80. ノツゴ古墳	古墳/古墳
19. 下幅遺跡	弥生・古墳/集落跡	50. 笹ヶ峰遺跡	弥生/散布地	81. 寺尾遺跡	弥生～中世/集落跡
20. 十万遺跡	縄文～中世/集落跡	51. 兎田柳ヶ本遺跡	弥生・古墳/祭祀跡	82. お伊気神社塚	中世/塚
21. 東十万城跡	中世/城跡	52. 兎田八幡宮遺跡	中世/散布地	83. 常住寺五輪塔群	中世・近世/寺跡
22. 十万城跡	中世/城跡	53. 香宗遺跡	中世/散布地	84. 尼ヶ森城跡	中世/城跡
23. 国吉城跡	中世/城跡	54. 香宗城跡	中世/城跡	85. 上夜須五輪塔	中世/寺跡
24. 刈谷城跡	中世/城跡	55. 東野土居遺跡	弥生～近世/集落跡	86. ツリガネが森城跡	中世/城跡
25. 棒ヶ谷遺跡	弥生/散布地	56. 宝鏡寺跡	中世/寺跡	87. 執行坊跡	中世/寺跡
26. 棒ヶ谷古墳	古墳/古墳	57. ハザマ遺跡	古代～中世/集落跡	88. 中夜須遺跡	弥生～中世/散布地
27. 鳴子遺跡	古墳～古代/散布地	58. 須留田城跡	中世/城跡	89. 月林寺跡	中世/寺跡
28. 鳴子1号墳	古墳/古墳	59. 御所の前遺跡	古代～中世/散布地	90. 伝大野城跡	中世/城跡
29. 久保田遺跡	中世/集落跡	60. 大東遺跡	古墳～中世/散布地	91. ホテ古墓群	中世・近世/墳墓
30. 久保田庵免遺跡	古代・中世/集落跡	61. 花宴遺跡	弥生/集落跡	92. 宗円城跡	中世/城跡
31. 中城跡	中世/城跡	62. 徳王子大崎遺跡	弥生・中世/集落跡	93. 大日堂跡	中世・近世/寺跡

図4 庭ヶ淵遺跡周辺の遺跡

第Ⅲ章 調査成果

第1節 調査の方法と基本層序

1. 調査の方法

試掘調査の結果に基づき、段丘の上段をⅠ区、中段をⅡ区として調査区を設定した。調査はⅡ区から着手し、続いてⅠ区を掘削、調査区全体を完掘して記録を取った後、埋め戻した。調査の方法は、重機を用いて表土を掘削した後、手作業による包含層の層位的な掘り下げ、遺構の検出及び掘削という手順により行った。

調査区の測量及び作図に際しては世界測地系第Ⅳ系の座標軸を基準とし、図6に示すような方眼を設けて遺構の検出・掘削及び測量、遺物の取り上げを行った。遺物の取り上げに際しては、本書掲載分以外の土器細片等も含め、可能な限り出土地点と層位を記録した。

基本層序については、調査区縁辺部の任意の地点で土層の観察、断面図作成及び写真撮影による記録を行った。個別の遺構の調査については、平面実測及び水準測量、写真撮影、必要に応じて断面図作成による記録を行った。遺構平面図及び土層断面図は、縮尺20分の1を基本として作図を行った。

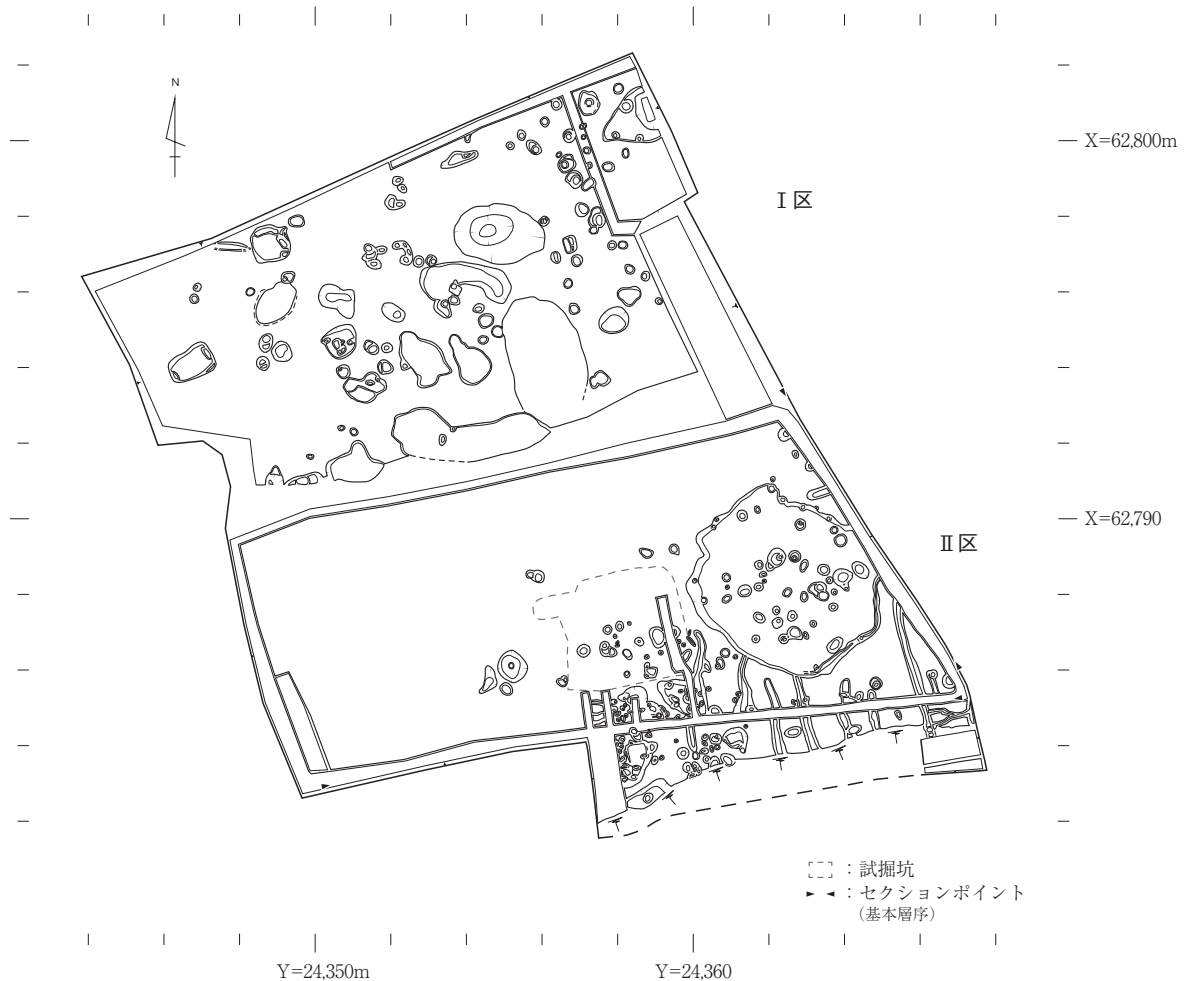


図5 調査区遺構平面図 (S = 1/200)

2. 遺構平面図

本書で報告するⅡ区において検出した遺構の完掘平面図を以下に示す。



図6 Ⅱ区遺構平面図 (S = 1/80)

3. 基本層序

II区の基本層序は、調査区東壁及び南壁において観察・図化した(図7・8)。耕作地造成に伴い形成された段の中段であるII区は、上段であるI区より標高が1.2m程度低い。また、II区内における地形は、北側から南側に向かい僅かに傾斜して低くなり、南端部において下段に向かい急傾斜する。II区の地表面標高は28.8～28.9m程度である。標高28.2～28.6m程度に堆積するV層及びVI層が包含層である。III層はI区のみでの堆積である。包含層を含めた土層は概ね水平堆積をなすが、図7に示すように、造成後の堆積層を除去したV層以下は南に向かい緩やかに傾斜する。V層は暗

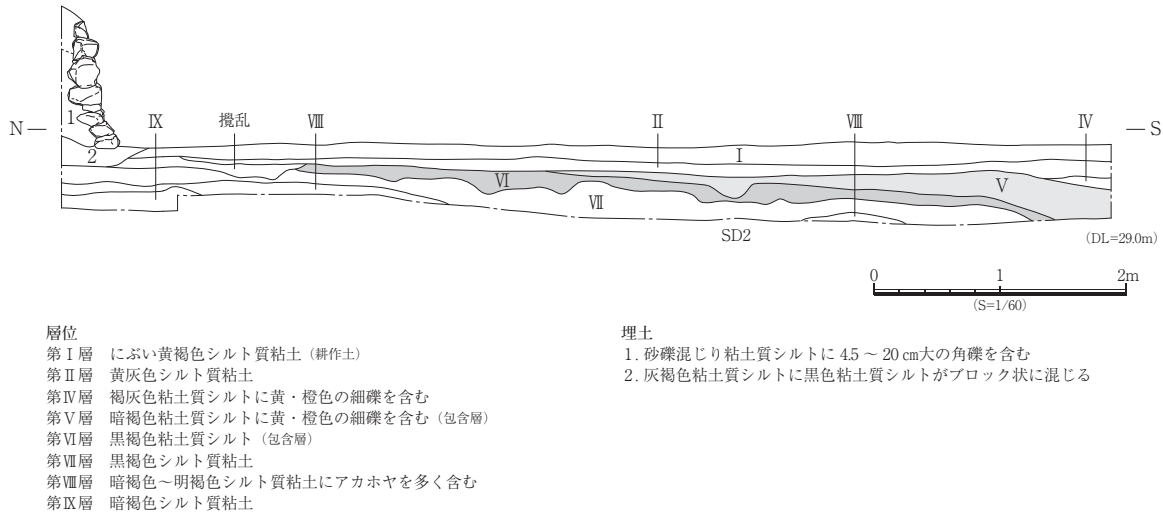


図7 II区東壁 セクション図

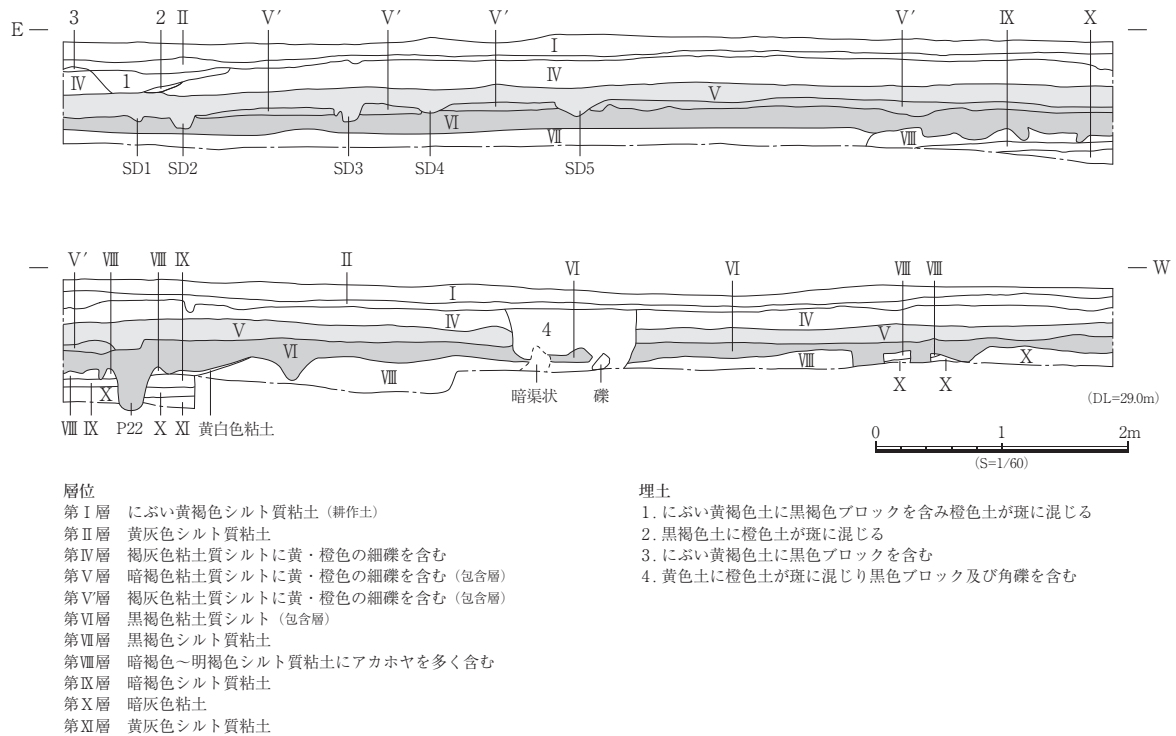


図8 II区南壁 セクション図

褐色粘土質シルト層に黄・橙色の細礫を含む。VI層は黒褐色粘土質シルト層である。また、調査区南壁においてV層とVI層の間に堆積する褐灰色粘土質シルト層を確認した（V'層）。

包含層以下は概ね旧地形に即した自然堆積をなすものと考えられ、上段のI区から南の河川流路に向けて連続的に緩やかに標高を減ずる。このような地形に堆積した層厚30cm程度の包含層は、細礫を含む火山灰由来と考えられる土が土壌化した土層であり、粒径が小さく柔らかい性質である。包含層以下は黒褐色あるいは暗褐色～暗灰色のシルト質粘土が主体の無遺物層である。VII層及びVIII層は火山灰土を含み、粒径が小さく柔らかい性質は包含層と共通する。

なお、VIII層の土壌サンプルにつき、火山灰分析を行った（第V章）。

第2節 II区

1. 竪穴建物跡

ST1

ST1は、調査区東端で検出した平面形が多角形（六角形か）の竪穴建物跡と考えられる遺構である。長軸4.90m、短軸4.40mを測り、検出面からの深さは10～20cm、概ね15cm前後である。床面積は約16.2㎡、主軸方向はN-37°-Wとみられる。遺構南側の上端は廃絶後の削平により原形を保存していない。断面形はやや不整な逆台形である。床面は基本的に概ね平坦であるが、多くのピットにより凹凸を呈する。埋土は2層で、暗褐色シルト質粘土他である。調査区の地形を反映し、床面は南に向かい緩やかに低くなる。床面標高は北側が28.45m、南側が28.20m程度であり、床面の標高差は南北で約25cmである。床面

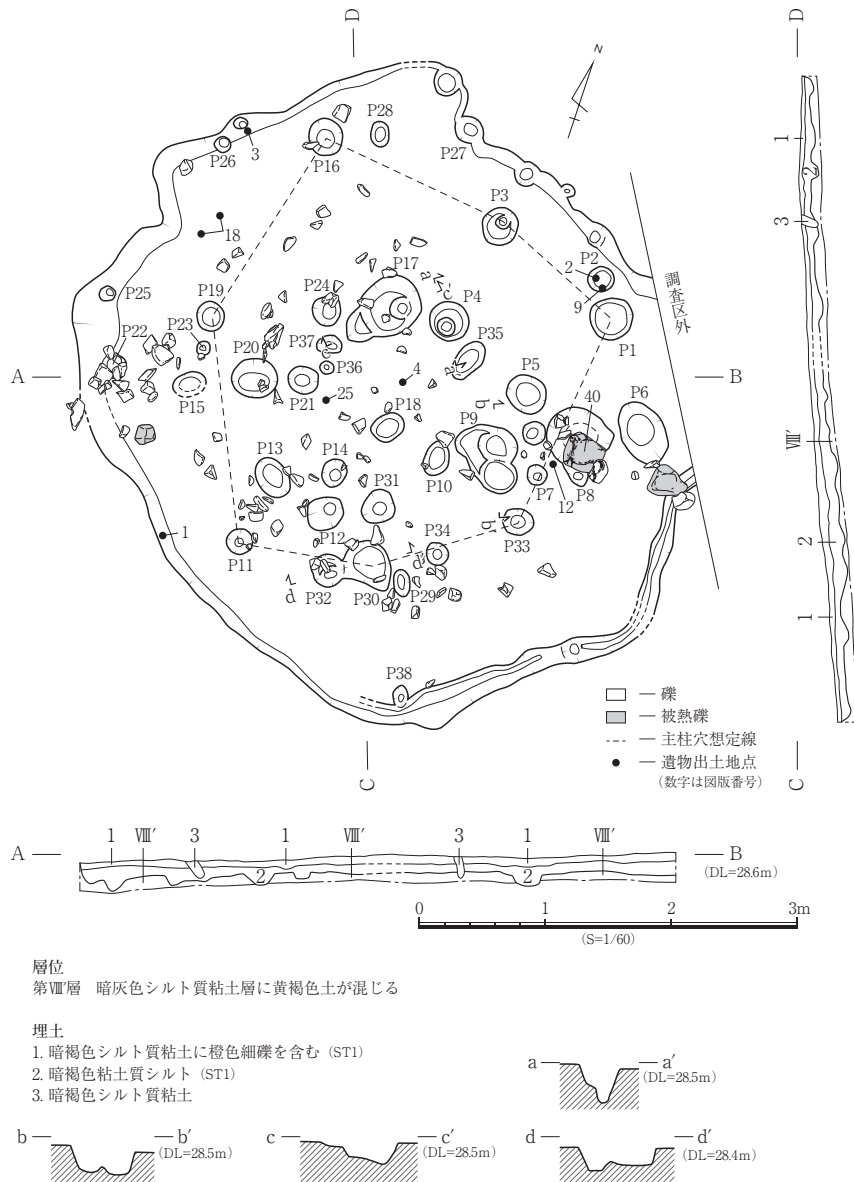


図9 ST1 平面図・断面図

において 38 個のピットを確認した。図 9 の平面図に記載の P 番号は、床面ピットの番号である。床面ピットの規模は表 1 に示す通りであり、深さは 10 ～ 20cm 程度が主体であるが、一部 25 ～ 30 cm の深いものもある。埋土はいずれも暗褐色粘土質シルトである。主柱穴は不明であるが、P1・P3・P16・P19 等が可能性として考えられる。中央ピットは確認できないが、P9・P17 等は比較的規模が大きい。図 9 の平面図中に示す礫は、ほぼ全てが検出面及び埋土上層で検出したものであるが、P8 付近の 30cm 大の被熱礫 (40) は、床面において検出したものであり、ST1 に関連する可能性がある。埋土中から縄文晩期の土器をはじめとする遺物が出土した。

図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢 (1～22)・浅鉢 (23～25)、弥生土器の壺 (26～29)・甕 (30～33)・鉢 (34)、楔形石器 (35)・石錐 (36)・石錘 (37)・叩石 (38)・台石 (39)・被熱礫 (40) である。

表 1 ST1 床面ピット計測表

遺構名	平面形状	規模	
		直径 (m)	深さ (cm)
ST1 - P1	円形	0.34 × 0.32	14
ST1 - P2	円形	0.20	11
ST1 - P3	円形	0.31 × 0.28	21
ST1 - P4	円形	0.31	31
ST1 - P5	円形	0.34 × 0.30	17
ST1 - P6	楕円形	0.60 × 0.54	9
ST1 - P7	円形	0.16	7
ST1 - P8	円形	0.18 × 0.16	8
ST1 - P9	楕円形	0.53 × 0.48	17
ST1 - P10	楕円形	0.26 × 0.20	25
ST1 - P11	円形	0.22	14
ST1 - P12	不整円形	0.30 × 0.26	12
ST1 - P13	楕円形	0.34 × 0.24	12
ST1 - P14	円形	0.23 × 0.19	25
ST1 - P15	円形	0.28 × 0.24	8
ST1 - P16	円形	0.28 × 0.26	10
ST1 - P17	楕円形	0.50 × 0.44	18
ST1 - P18	楕円形	0.26 × 0.20	19
ST1 - P19	円形	0.24 × 0.22	19

遺構名	平面形状	規模	
		直径 (m)	深さ (cm)
ST1 - P20	円形	0.40 × 0.38	15
ST1 - P21	円形	0.30 × 0.26	12
ST1 - P22	円形	0.20 × 0.18	11
ST1 - P23	円形	0.12	11
ST1 - P24	円形	0.24	17
ST1 - P25	円形	0.12	9
ST1 - P26	円形	0.12 × 0.09	6
ST1 - P27	円形	0.24 × 0.20	14
ST1 - P28	楕円形	0.21 × 0.15	7
ST1 - P29	楕円形	0.20 × 0.12	4
ST1 - P30	不整円形	0.40 × 0.32	14
ST1 - P31	不整円形	0.28 × 0.24	12
ST1 - P32	円形	0.26	17
ST1 - P33	円形	0.24 × 0.20	5
ST1 - P34	円形	0.20 × 0.12	6
ST1 - P35	楕円形	0.34 × 0.20	10
ST1 - P36	円形	0.10	4
ST1 - P37	楕円形	0.20 × 0.14	4
ST1 - P38	楕円形	0.18 × 0.12	5

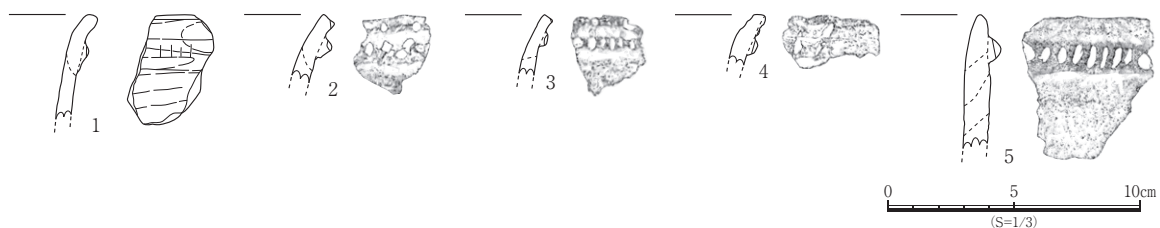


図 10 ST1 出土遺物実測図 1



图11 ST1 出土遺物実測図2

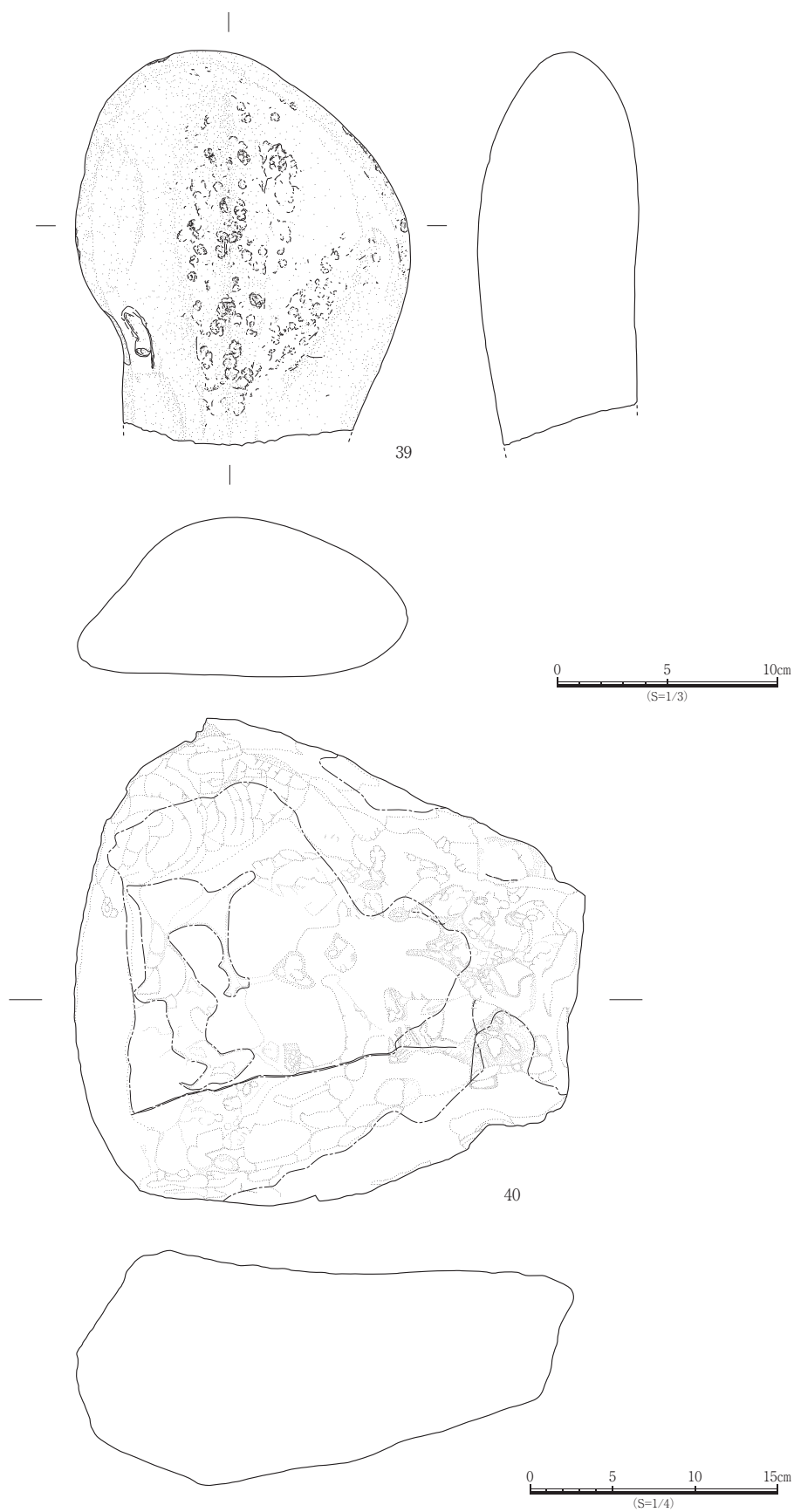


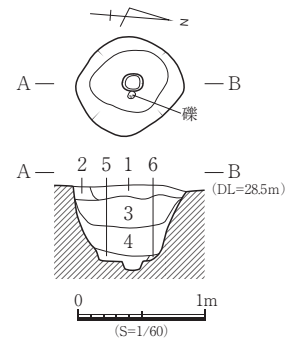
图12 ST1 出土遺物実測図3

2. 土坑

SK1

SK1 は、調査区西部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 0.80m、短軸 0.73m を測り、検出面からの深さは 61cm（最深部 68cm）である。断面形は逆台形である。主軸方向は $N - 0^\circ$ である。埋土は黒褐色シルト他であり、下層は粘性が高い。床面に直径 16cm 程度、深さ 7cm のピット状の掘り込みがある。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕（41）である。



1. 黒褐色シルトに灰色粒及び土器片を含む
2. 黒褐色シルトに灰色粒をやや多く含む
3. 黒色粘土質シルトに灰色粘土質粒を多く含む
4. 暗褐色粘土質シルトに灰色粘土質粒を含む
5. 黒褐色粘土質シルト（粘性高い）
6. 黒褐色粘土質シルトに黄褐色粒を多く含む

図13 SK1 平面図・断面図

3. 溝跡

SD1

SD1 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。北側をピットに切られる。確認長は 0.60m、幅 18cm を測り、検出面からの深さは 4cm である。主軸方向は $N - 16^\circ - W$ である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

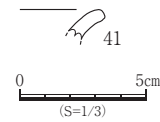


図14 SK1 出土遺物実測図

SD2

SD2 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。北側及び南側は調査区外に延長するとみられる。確認長は 3.65m、幅 24cm を測り、検出面からの深さは 6～10cm である。主軸方向は $N - 15^\circ - W$ である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕（42）である。

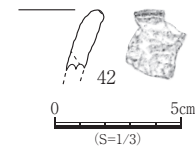


図15 SD2 出土遺物実測図

SD3

SD3 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。南側は造成により削られる。確認長は 1.06m、幅 22cm を測り、検出面からの深さは 7cm である。主軸方向は $N - 9^\circ - W$ である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD4

SD4 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。くの字状にやや屈曲する。P19 に切られ、南側は造成により削られる。確認長は 1.30m、幅 28cm を測り、検出面からの深さは 5～7cm である。主軸方向は北側が $N - 0^\circ$ 、南側が $N - 18^\circ - W$ である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD5

SD5 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。ピットに切られ、南側は造成により

削られる。確認長は 1.98m、幅 30cm を測り、検出面からの深さは 5～7cm である。主軸方向は N - 14° - W である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD6

SD6 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。僅かに屈曲する。南側は造成により削られる。確認長は 1.74m、幅 24～30cm を測り、検出面からの深さは 3～5cm である。主軸方向は北側が N - 17° - W、南側が N - 8° - W である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

SD7

SD7 は、調査区東南部で検出した南北方向の溝跡である。やや不整な形状を呈する。確認長は 1.47m、幅 16～55cm を測り、検出面からの深さは 3cm と浅い。主軸方向は概ね N - 0° である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD8

SD8 は、調査区東端で検出した東西方向の溝跡である。確認長は 0.58m、幅 27cm を測り、検出面からの深さは 4cm である。主軸方向は北側が N - 71° - E である。埋土は暗褐色粘土質シルトである。

遺物は土器細片が出土した。

4. 性格不明遺構

SX1

SX1 は、調査区南部で検出した平面形が不整形の遺構である。SX3 の上面で検出した遺構であり、全体の形状は判然としない。長軸 1.80m（確認長）、短軸 1.00m（確認長）を測り、検出面からの深さは 19cm である。埋土は暗褐色シルト質粘土層である。

図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢（43・44）、弥生土器の壺（45）・甕（46）、土製品（47）である。

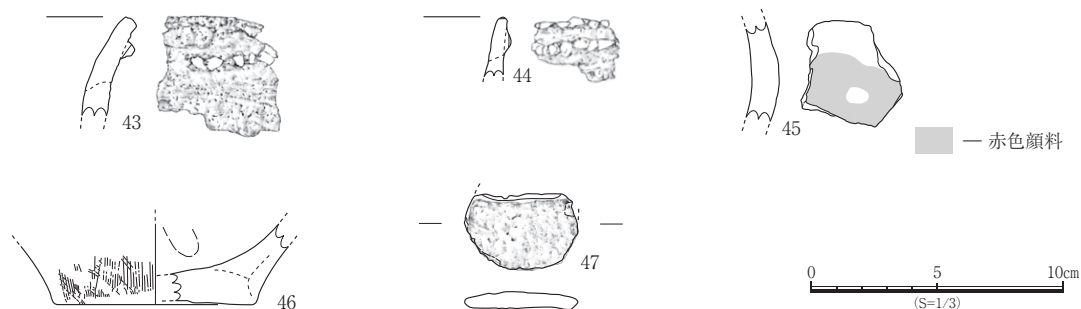
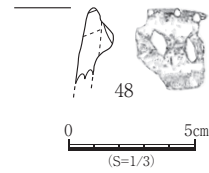


図 16 SX1 出土遺物実測図

SX2

SX2は、調査区中南部で検出した平面形が不整楕円形の遺構である。溝状の遺構に切れ、東側の立ち上がりは確認できない。長軸0.94m(確認長)、短軸0.84m(確認長)を測り、検出面からの深さは12cmである。主軸方向はN-73°-Wである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。



図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(48)である

図17 SX2 出土遺物実測図

SX3

SX3は、調査区南部で検出した平面形が不整形の遺構である。長軸0.58m、短軸0.50mを測り、検出面からの深さは11cmである。主軸方向はN-78°-Eである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(49・50)である。

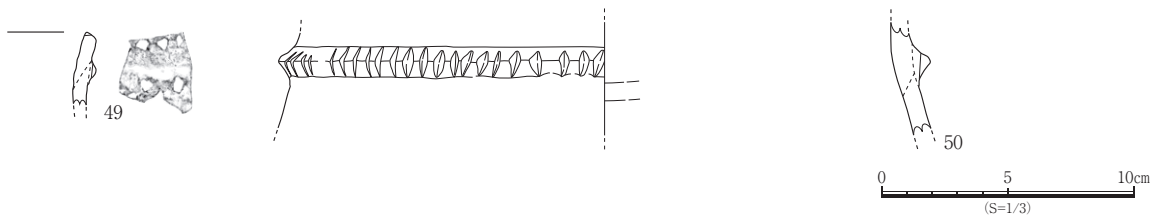


図18 SX3 出土遺物実測図

SX4

SX4は、調査区南部で検出した平面形が楕円形とみられる遺構である。包含層下層で検出し、平面形は判然としない。南側は造成により削られる。長軸1.32m(確認長)、短軸0.41m(確認長)を測り、検出面からの深さは7cmである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。図示した出土遺物は、縄文土器の深鉢(51)、叩石(52)である。

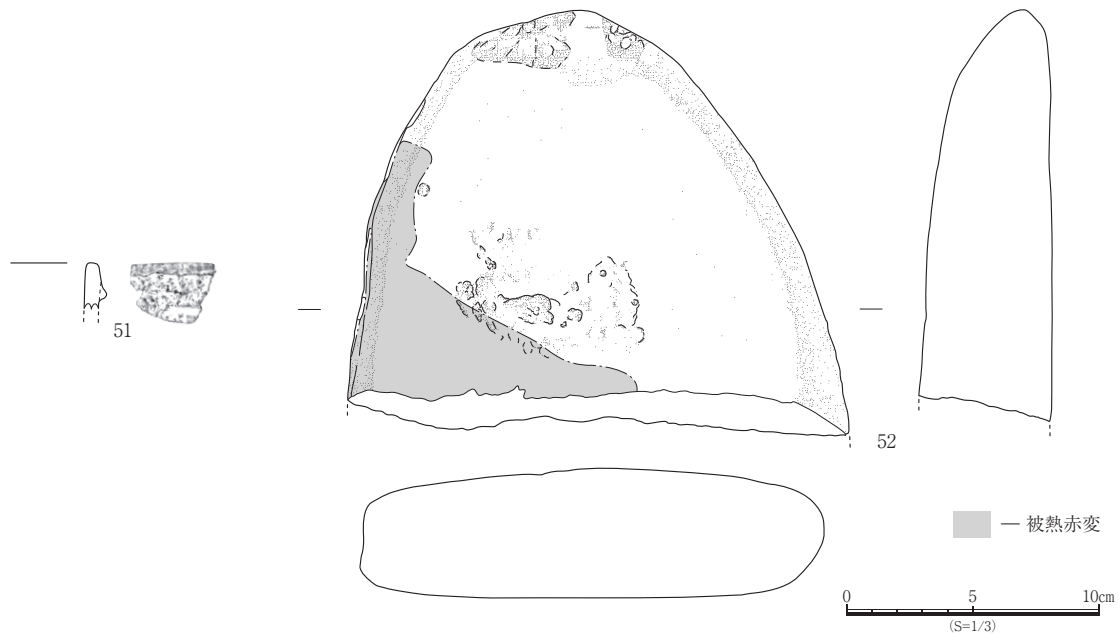


図19 SX4 出土遺物実測図

5. ピット

Ⅱ区で検出したピットのうち、遺物の出土がみられたものにつき、以下の表2にまとめて掲載する。これらのピットの埋土はいずれも黒褐色粘土質シルトである。P18は埋土に角礫を多く含む。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕（53・54）である。

表2 ピット計測表

遺構名	平面形状	規模	
		直径 (m)	深さ (cm)
P1	楕円形	0.30 × 0.20	15
P2	楕円形	0.40 × 0.24	20
P3	楕円形	0.24 × 0.20	6
P4	円形	0.24	17
P5	円形	0.32	18
P6	楕円形	0.54 × 0.36	18
P7	不整円形	0.34 × 0.28	16
P8	円形	0.30	11
P9	円形	0.14	7
P10	楕円形	0.18 × 0.14	4
P11	円形	0.16	7

遺構名	平面形状	規模	
		直径 (m)	深さ (cm)
P12	楕円形	0.34 × 0.20	7
P13	円形	0.25	6
P14	円形	0.12	5
P15	不整円形	0.30 × 0.24	10
P16	不整円形	0.40 × 0.24	7
P17	円形	0.32	24
P18	楕円形	0.50 × 0.30	9
P19	楕円形	0.41 × 0.24	7
P20	楕円形	0.40 × 0.26	6
P21	楕円形	0.30 × 0.24	9
P22	円形	0.30	27

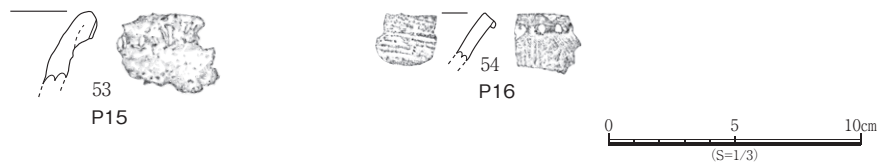


図20 ピット 出土遺物実測図

6. 遺物包含層出土遺物・表面採集遺物

Ⅱ区の包含層で出土した遺物、及び表面採集遺物を以下に掲載する。出土層位は、Ⅴ層及びⅥ層が主体である（図7・8参照）。Ⅴ層とⅥ層を分けえないもの、及び層境界付近出土のものは「Ⅴ・Ⅵ層」とし、出土層位不明のものは「包含層」としている。

図示した出土遺物は、55～247である。器種は、縄文土器の深鉢・浅鉢・壺、弥生土器の壺・甕・鉢、土師器の杯・椀・羽釜、須恵器の壺・甕・捏鉢・高杯・杯・椀、瓦器の椀、陶器の瓶、青磁の碗、土製品、石製品である。

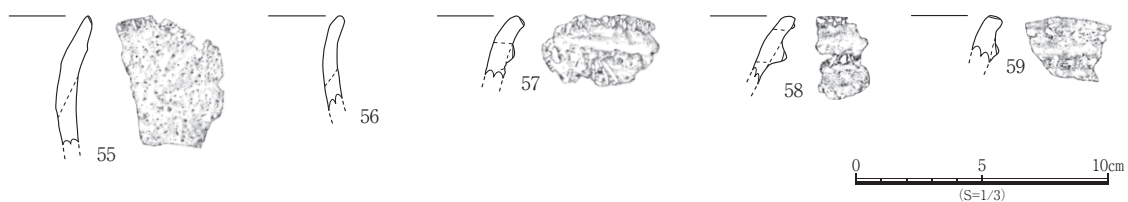


図21 Ⅴ層 出土遺物実測図1



图22 V層 出土遺物実測图2

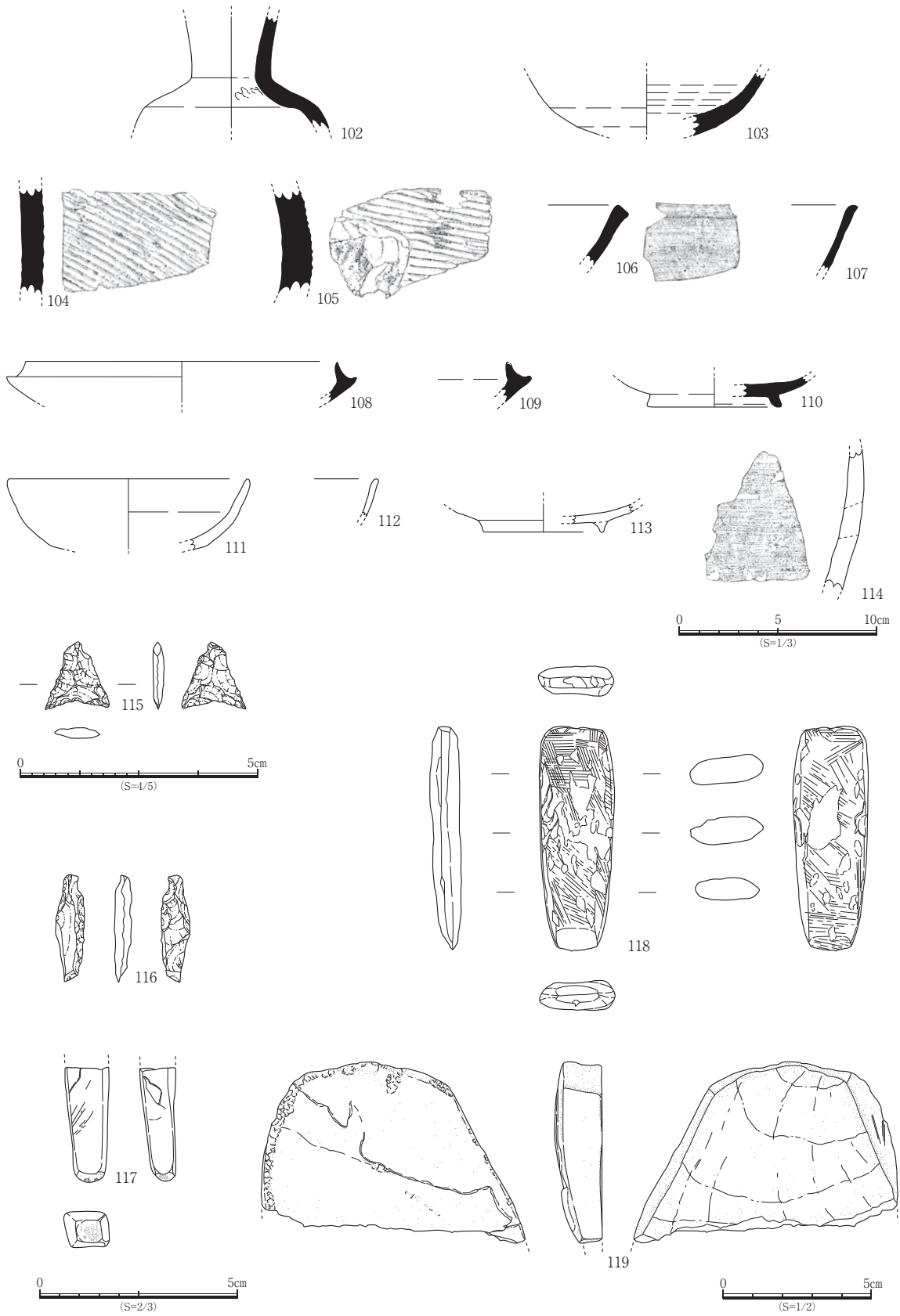


图 23 V層 出土遺物実測図 3

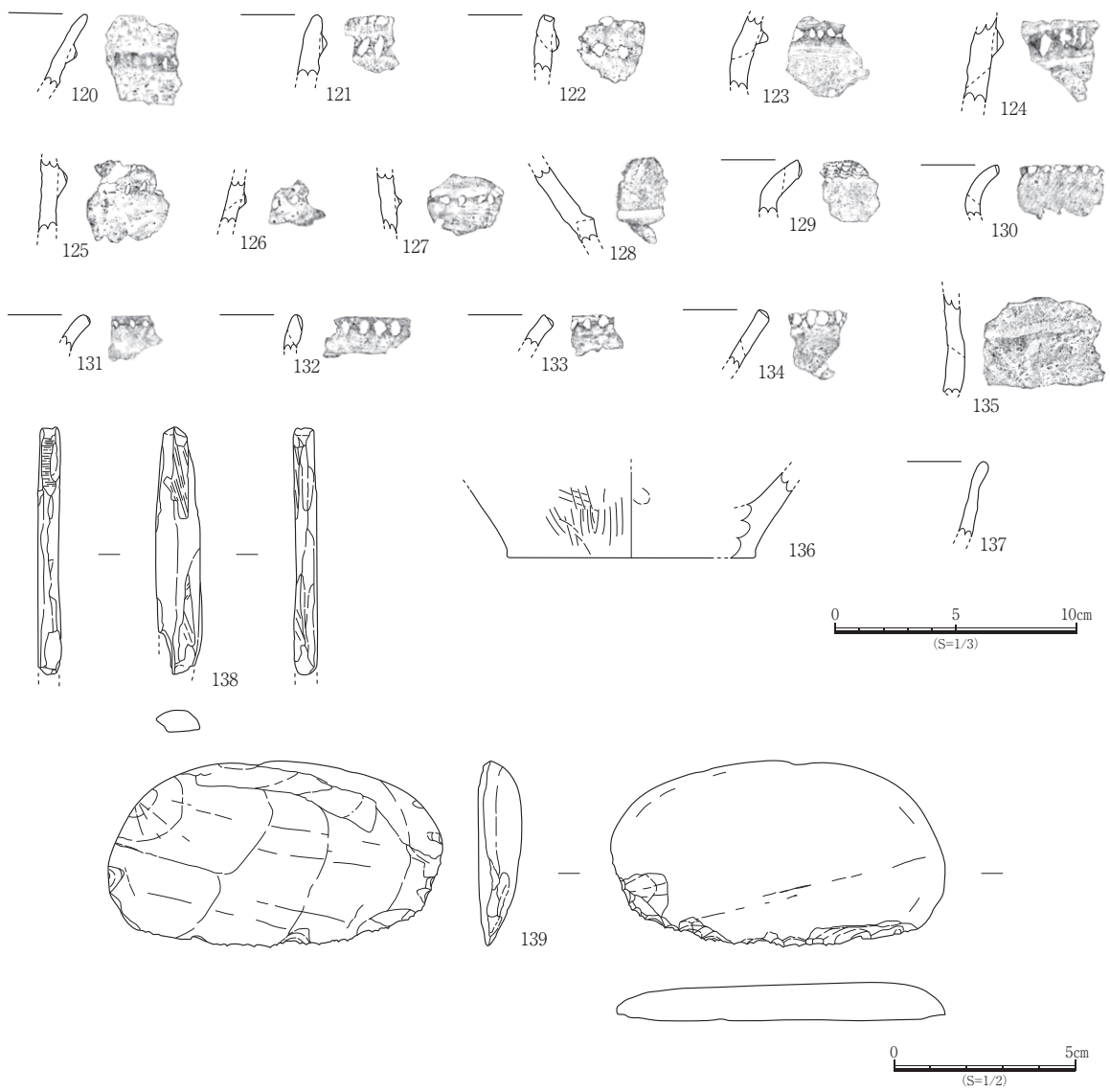


图24 V·VI層 出土遺物実測図

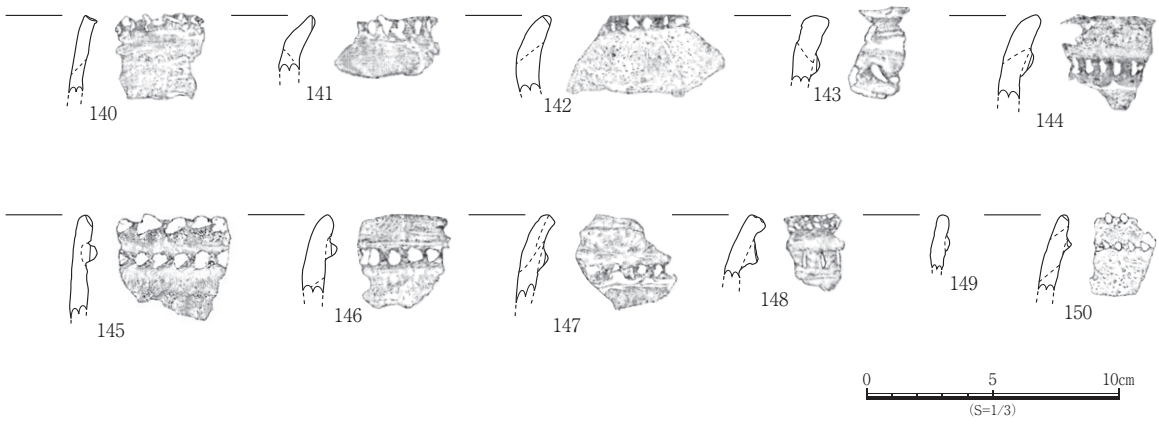


图25 VI層 出土遺物実測図1



图 26 VI層 出土遺物実測図 2

第2節 II区

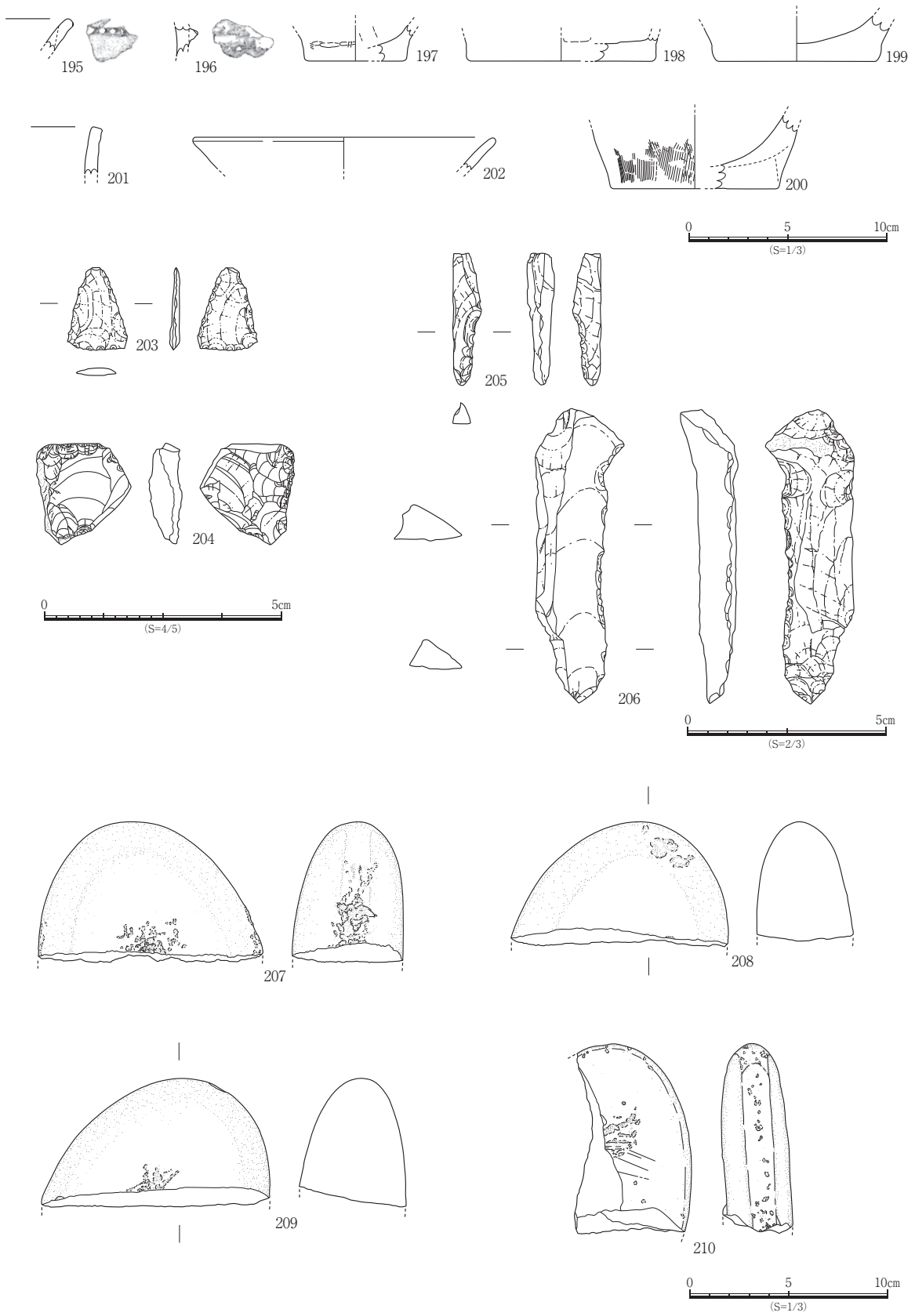


图 27 VI層 出土遺物実測图 3

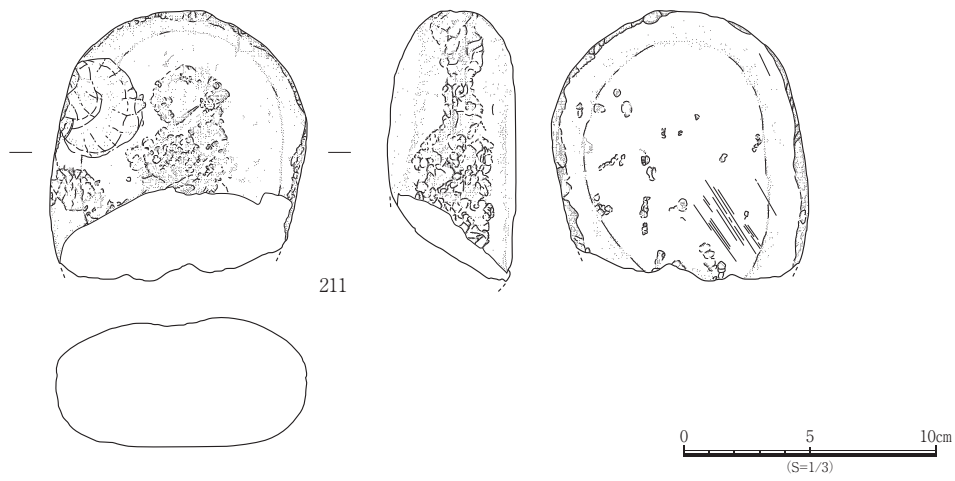


図 28 VI層 出土遺物実測図 4

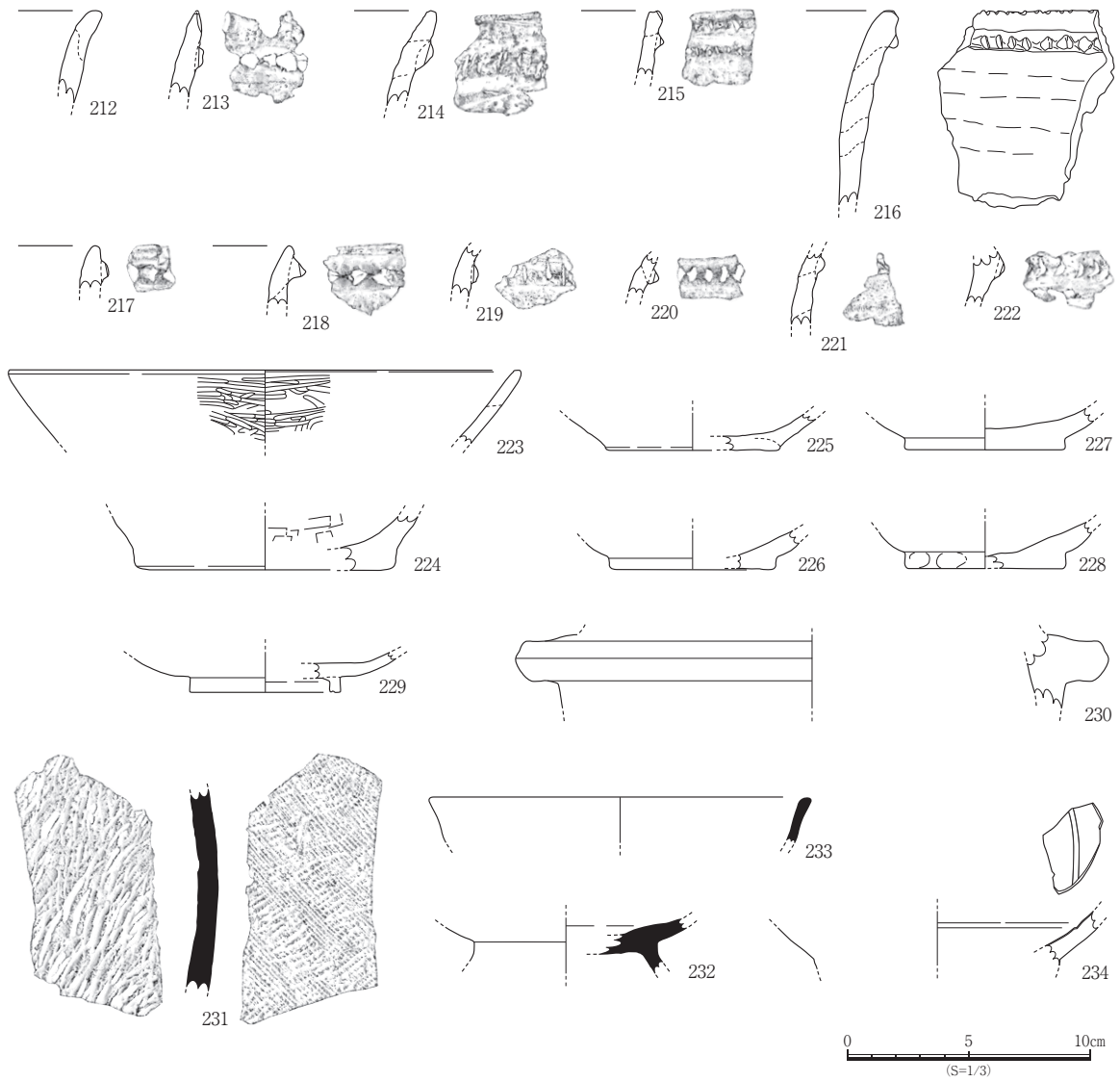


図 29 包含層 出土遺物実測図

第2節 II区

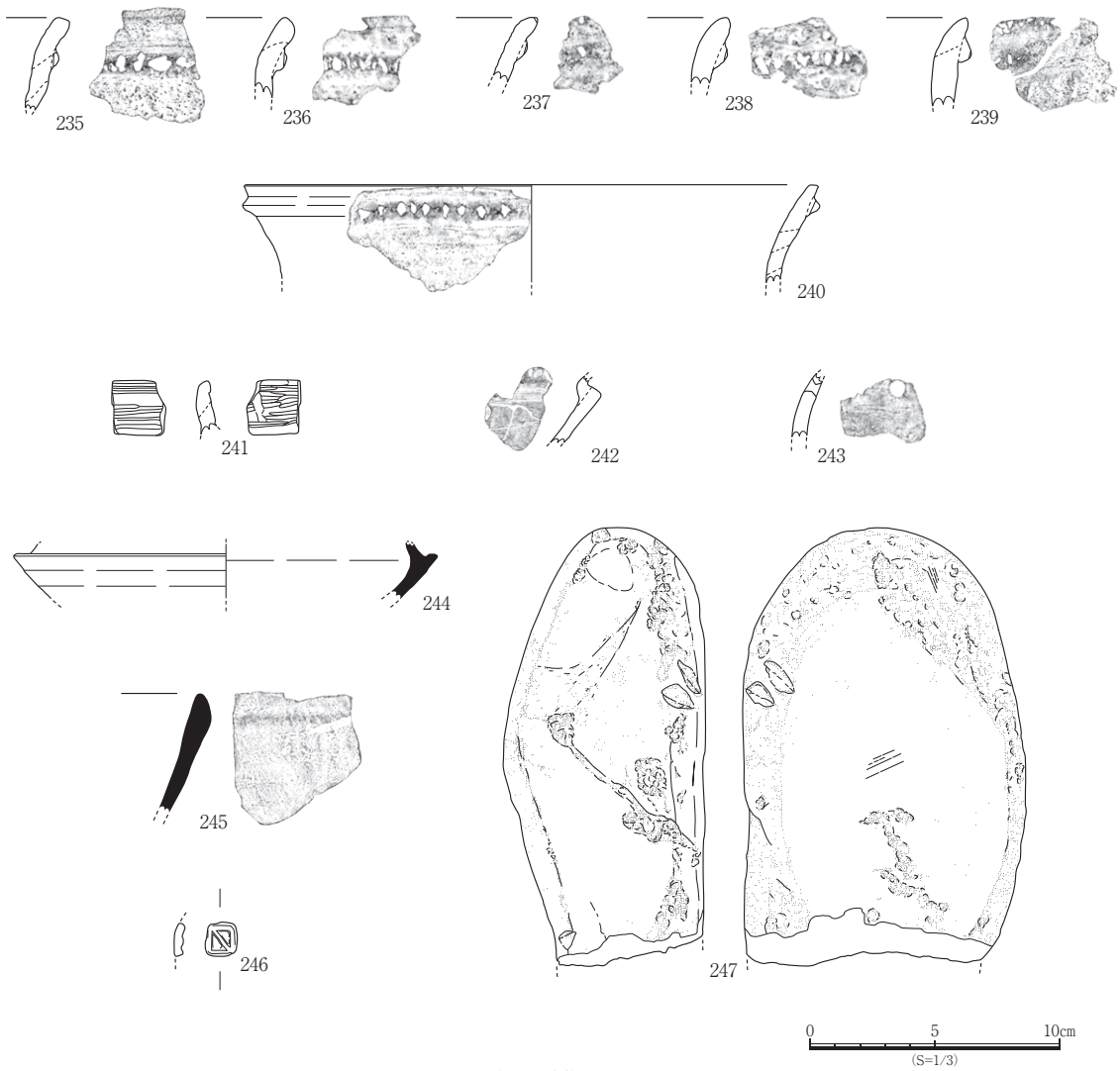


图30 表面采集遺物实测图

第IV章 庭ヶ渚遺跡出土試料の 14C 年代測定

遠部 慎（中央大学人文科学研究所）

概要

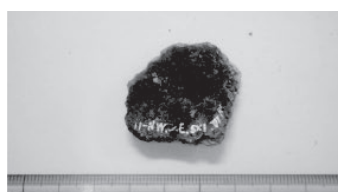
高知県香南市庭ヶ渚遺跡から出土した炭化物の年代測定を行ったので、その結果を報告する。試料の採取は遠部（当時：北海道大学埋蔵文化財調査室）が採取した。試料の前処理は国立歴史民俗博物館で行い、測定は山形大学（YU）によるものである。測定結果は計測値（補正）とともに、実年代の確率を示す較正年代値を示した。また、その根拠となった較正曲線を示した。これまで、四国で測定例の少ない縄文時代晩期土器に付着した炭化物の分析例であり、遺跡の年代や利用を考えるうえで、重要な値が得られたと考える。

1. 測定試料と観察所見

測定対象とした試料は、遠部が採取した土器付着物 7 点のうち、測定可能であった 3 点（3 個体）である（表 3）。外面胴部下半に付着した炭化物で煮炊きに伴う煤と焦げだと判断している。試料番号 KOKO である（図 31）。

表 3 分析試料

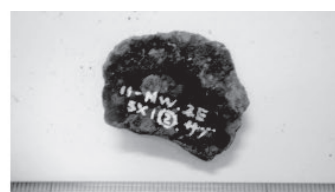
No.	遺跡名	出土地点	採取位置	種類
KOKO-2	庭ヶ渚	ST1 VI層	胴部内面	焦げ
KOKO-6	庭ヶ渚	SX7 (I区)	胴部外面	煤
KOKO-7	庭ヶ渚	ST1 VI層	胴部内面	焦げ



KOKO-2



KOKO-6



KOKO-7

※1 ST1 は、調査段階においては SX1 として整理した。
※2 いずれの試料も胴部の破片のため、図示していない。

図 31 分析試料の付着状況

2. 炭化物の処理

炭化物試料については、註 1 に記した手順で試料処理を行った。本試料はバインダー処理等による汚染が懸念されたため、アセトンによる処理を入念に繰り返し、溶解がなくなったことを確認したうえで試料処理を行った。ガス化率、グラファイト化率とも十分な炭素量が得られた。(1) (2) (3) の作業は、(1) は遠部、(2) (3) は山形大学に依頼し、測定は山形大学（YU）で行った。(1) で得られた AAA 処理後の試料を用い、炭素含有量及び窒素含有量の測定には（株）SIサイエンスに分析を依頼した。EA（ガス化前処理装置）である Flash EA1112（Thermo Fisher Scientific 社製）を用い、スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比を算出し、表 5 に、試料情報と炭素含有量、窒素含有量、C/N 比を示す。

3. 測定結果と暦年較正

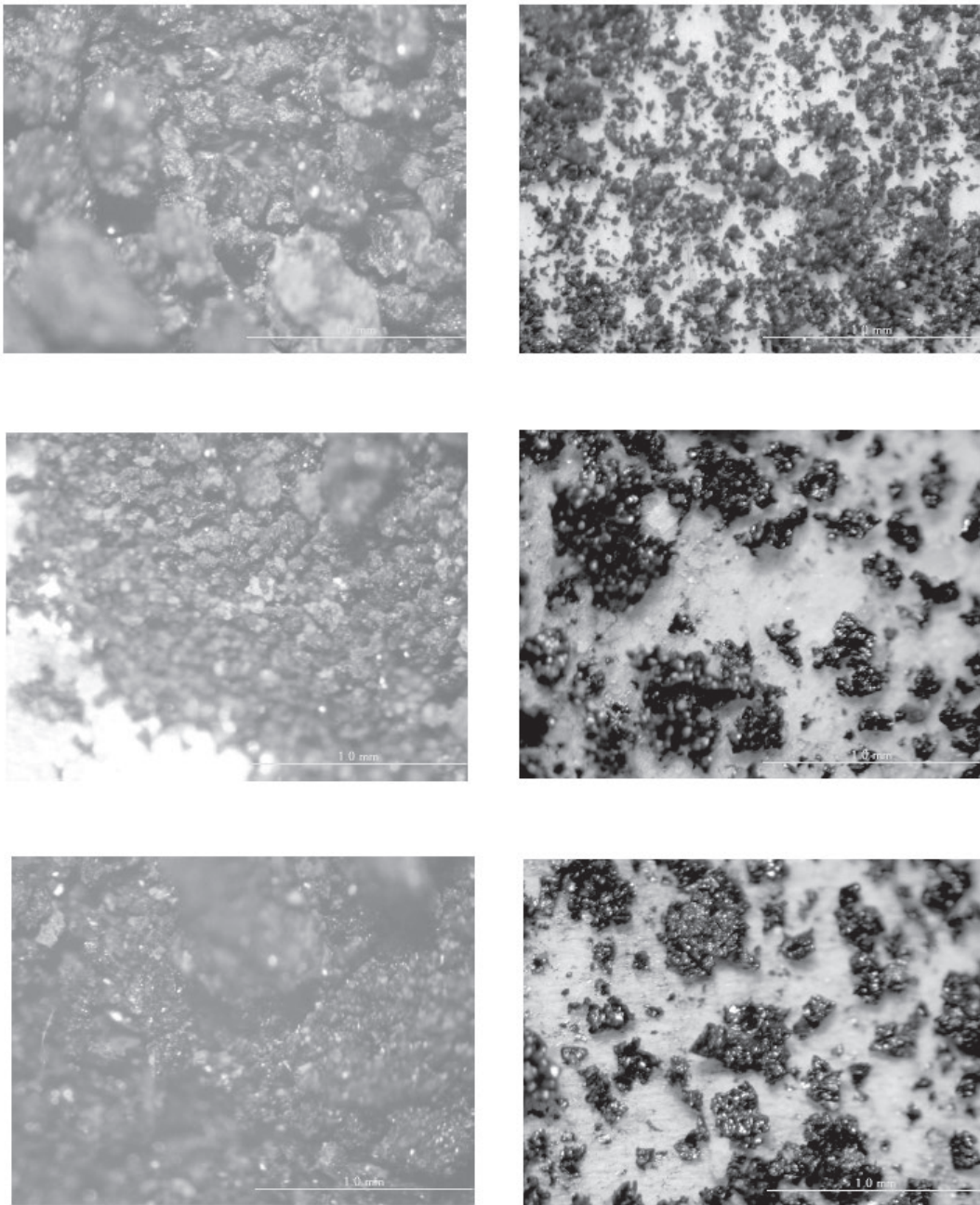


図 32 AAA 処理前／後の状況

3. 測定結果と暦年較正

測定結果は、註 2 に示す方法で、同位体効果を補正し ^{14}C 年代、較正年代を算出した。年代測定結果は、KOKO-2 は $2630 \pm 20\text{BP}$ 、KOKO-6 は $2725 \pm 20\text{BP}$ 、KOKO-7 は $2540 \pm 20\text{BP}$ であった。これを 2σ で暦年較正すると、KOKO-2 は $820 - 790\text{calBC}$ (95.4%)、KOKO-6 は $909 - 822\text{calBC}$ (95.4%)、KOKO-7 は $795 - 747\text{calBC}$ (47.5%)、 $689 - 665\text{calBC}$ (22.1%)、 $644 - 589\text{calBC}$ (20.7%)、 $581 - 556\text{calBC}$ (5.2%) である (表 4、図 33)。 $\delta^{13}\text{C}$ 値の測定は陸上生物を利用した可能性が高いと考えられる (表 5、図 34)。

表4 庭ヶ測遺跡の14C炭素年代(BP)と暦年較正年代(cal BC)

試料番号	測定機関番号	$\sigma^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 炭素年代(BP)	暦年較正年代(cal BC)	確率分布(%)
KOKO-2	YU-1936	(- 22.73 ± 0.35)	2630 ± 20	820 - 790	95.4%
KOKO-6	YU-1937	(- 22.80 ± 0.30)	2725 ± 20	909 - 822	95.4%
KOKO-7	YU-1938	(- 29.08 ± 0.44)	2540 ± 20	795 - 747 689 - 665 644 - 589 581 - 556	47.5% 22.1% 20.7% 5.2%

表5 庭ヶ測遺跡の安定同位体比

試料番号	$\sigma^{13}\text{C}$ (‰)	$\sigma^{15}\text{N}$ (‰)	Total N (%)	Total C (%)	C/N (mol)
KOKO-2	- 24.8	2.1	4	52.9	13.1
KOKO-6	- 26.5	8.4	1.3	39	29.5
KOKO-7	- 26.3	10.1	2.6	52.8	20.6

4. 測定結果について

庭ヶ測遺跡の土器付着炭化物から得られた年代値はSX7 (2725 ± 20BP) とST1 (2630 ± 20BP、2540 ± 20BP) である。庭ヶ測遺跡のST1では沢田式(第VI章参照)が主体と考えられた。縄文晩期土器付着炭化物の年代測定は比較的多く実施されており、それらと比較することでその年代値を評価したい。

高知県域では、土佐市上ノ村遺跡で、3055 ± 45BP (MTC-11520: 無刻目突帯文)、3160 ± 40BP (MTC-11504)、3180 ± 50BP (MTC-11505)・2945 ± 35BP (MTC-07428) の測定例がある(藤尾・坂本2012)。また、晩期の一括性の高い資料で年代測定値を行われた例として香美市美良布遺跡 Pit1 の資料がある。そこでは2880 ± 40BP (- 18.2%)、2940 ± 40BP (- 23.6%) という測定値が得られている(松本編2006)。高知県に近い愛媛県久万高原町猿楽遺跡の突帯文土器以前の土器群からは、2950 ± 30BP (TKA-17459)、2919 ± 30BP (TKA-17460)、2895 ± 29BP (TKA-17461) (柴田・遠部編2017) という測定値が得られている。また、後続する土佐市居徳遺跡の前池式が2810 ± 40BP (- 25.1%) である(藤尾2013)。こういった状況と、庭ヶ測遺跡ST1の状況は矛盾しない測定値と判断される。

本稿の測定結果は、「基盤研究(B)25284153炭素14年代測定による縄文文化の枠組みの再構築—環境変動と文化変化の実年代体系化」(代表小林謙一)の成果の一部である。本実験にあたり松村信博氏には資料調査から分析まで、さまざまご配慮をいただいた。また、国立歴史民俗博物館・学術創成研究グループ、北海道大学埋蔵文化財調査室、犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム、小林謙一、坂本稔、柴田昌児の諸先生、諸氏には資料調査や位置付けについて、ご教示、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

4. 測定結果について

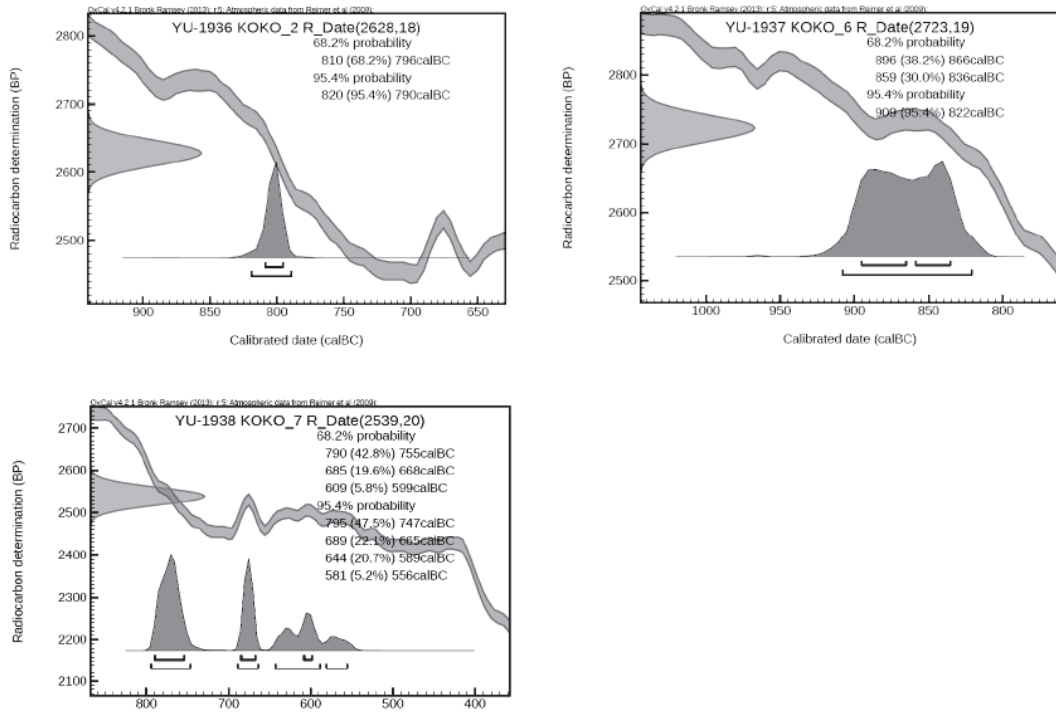


図 33 測定試料の較正年代

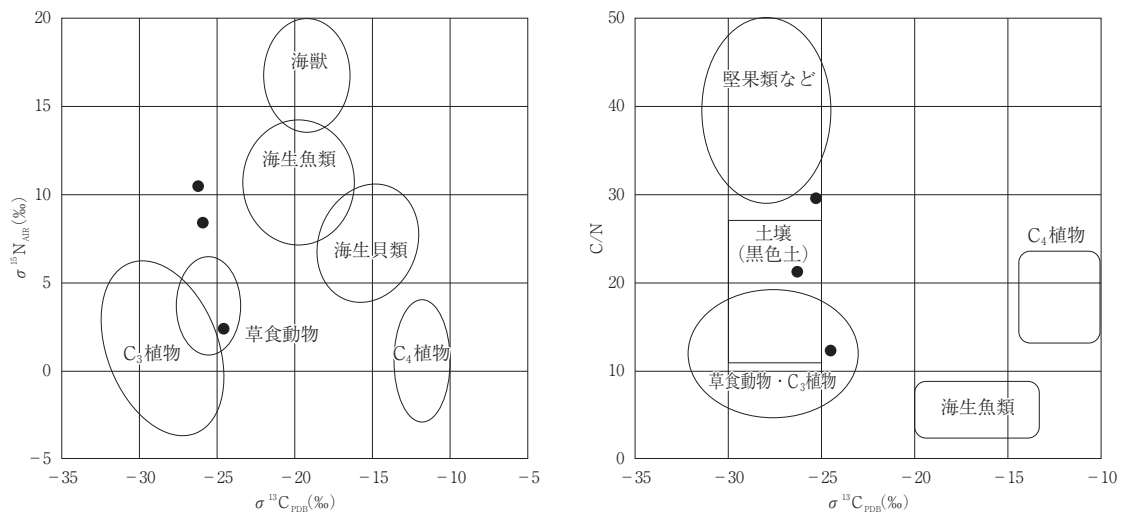


図 34 付着炭化物の炭素・窒素同位体比及び炭素同位体比と C/N 比 (吉田・宮崎 2007 をもとに作成)

註1 土器付着物については下記の方法で処理した。

(1) 前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄

AAA 処理に先立ち、土器付着物については、顕微鏡等で確認し、不純物を除去した。さらに、アセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(2回)。AAA 処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(NaOH、1回目0.1N、3回目以降1N)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、5回以上行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理2回(1N-HCl 1時間)を行いアルカリ分を除いた後、純水により洗浄した(4回)。

(2) 二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA 処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で、850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス製真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

(3) グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。1.5mgの炭素量を目標に二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で、およそ600℃で12時間加熱してグラファイトを得た。ガラス管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合させた後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

註2 測定値について、以下の方法で較正年代を算出した。

年代データの¹⁴CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した¹⁴C年代(モデル年代)であることを示す。¹⁴C年代を算出する際の半減期は、5568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の¹⁴C/¹²C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した¹³C/¹²C比により、¹⁴C/¹²C比に対する同位体効果を調べ補正する。¹³C/¹²C比は、標準体(古生物 belemnite 化石の炭酸カルシウムの¹³C/¹²C比)に対する千分率偏差 $\delta^{13}\text{C}$ (パーミル;‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる¹⁴C/¹²C比によって補正する。補正した¹⁴C/¹²C比から、¹⁴C年代値(モデル年代)が得られる。加速器による測定は同位体補正効果のためであり、必ずしも¹⁴C/¹³C/¹²C比を正確に反映しないこともあるため、加速器による測定を参考として付す。

測定値を較正曲線 IntCal13(¹⁴C年代を暦年代に修正するためのデータベース、2013年版)(Reimer et al 2013)と比較することによって暦年代(実年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BC で示す。()内は推定確率である。

参考文献

- 柴田昌兎・遠部慎編 2017『猿楽遺跡-山稜の弥生集落確認調査概要報告書-』久万高原町教育委員会
 藤尾慎一郎 2013『弥生文化像の新構築』雄山閣
 藤尾慎一郎 2014「西日本の弥生稲作開始年代」『国立歴史民俗博物館研究報告』第183集、113-143頁、国立歴史民俗博物館
 藤尾慎一郎・坂本稔 2012「上ノ村遺跡出土土器の年代学的調査」『高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第127集 上ノ村遺跡Ⅲ』208-212頁、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
 西本豊弘編 2009『弥生農耕の起源と東アジア』国立歴史民俗博物館
 松本安紀彦編 2006『仁井田遺跡』香北町教育委員会

山本直人 2007 『文理融合の考古学』 高志書院

吉田邦夫・宮崎ゆみ子 2007 「煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究」『平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B（課題番号16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究』』 85-95頁

Reimer Paula J et al. (2004) IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).

Stuiver M, Reimer P J, Bard E, Beck J W, Burr G S, Hughen K A, Kromer B, McCormac F G, v d Plicht J and Spurk M. (1998) IntCal98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon,40(1), 1041-1083

Reimer P J, William E N Austin, Edouard Bard, Alex Bayliss, Paul G Blackwell, Christopher Bronk Ramsey, Martin Butzin, HaiCheng, R Lawrence Edwards, Michael Friedrich, Pieter M Grootes, Thomas P Guilderson, Irka Hajdas, Timothy J Heaton, Alan G Hogg, Konrad A Hughen, Bernd Kromer, Sturt W Manning, Raimund Muscheler, Jonathan G Palmer, Charlotte Pearson, Johannes van der Plicht, Ron W Reimer, David A Richards, E Marian Scott, John R Southon, Christian S M Turney, Lukas Wacker, Florian Adolphi, Ulf Büntgen, Manuela Capano, Simon M Fahrni, Alexandra Fogtmann-Schulz, Ronny Friedrich, Peter Köhler, Sabrina Kudsk, Fusa Miyake, Jesper Olsen, Frederick Reinig, Minoru Sakamoto, Adam Sookdeo and Sahra Talamo. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757

第V章 庭ヶ淵遺跡の火山灰分析

早田 勉 (株式会社 火山灰考古学研究所)

1. はじめに

四国地方南部に位置する香南市とその周辺には、始良、鬼界、阿多、阿蘇など、南九州や中九州のカルデラ火山に由来するテフラ（いわゆる火山灰）が分布している。また、中国地方や中部地方などに位置する火山からテフラが降灰している可能性もある。それらの多くは、すでに年代や岩石記載的特徴が明らかにされており、層位関係を把握することで、地形や地層の形成年代のみならず、遺構や遺物包含層の年代などについてもわかるようになってきている。この火山灰編年学（tephrochronology, テフロクロロジー）は、わが国の第四紀研究を特徴づける方法となっている。

香南市庭ヶ淵遺跡の発掘調査でも、テフラを含む可能性が高い土層（TR1 南¹⁾-Ⅷ層）が検出されたことから、その中に含まれるテフラの起源についてのテフラ検出分析を実施し、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。分析としては、火山ガラス比分析（テフラ検出分析を含む）と、火山ガラスの屈折率測定を実施した。

2. 火山ガラス比分析

(1) 分析方法

TR1 南のⅧ層を対象にテフラ検出分析と火山ガラス比分析を実施して、試料に含まれるテフラ粒子の量や特徴の把握を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) とくに純度が高い部分から試料 12g を採取。
- 2) 超音波洗浄装置を用いながら、丁寧に泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡でテフラ粒子の量や特徴を観察（テフラ検出分析）。
- 5) 分析篩により、1/4～1/8mm及び1/8～1/16mmの粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で、1/4～1/8mmの250粒子に含まれる火山ガラスの色調形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。

(2) 分析結果

テフラ検出分析と火山ガラス比分析の結果を表6と表7に示す。また、火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図35に示す。

TR1 南のⅧ層には、軽石やスコリアなど比較的粗粒のテフラ粒子は含まれていない。その一方で、多くの火山ガラスが認められる。火山ガラスには、平板状のいわゆるバブル型や、繊維束状に発泡した軽石型ガラスが多い。それらの色調は、無色透明、淡褐色、褐色である。厳密には、透明でもごくわずかに褐色がかかった色調のものが多い。鉄鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石がほぼ同率で含まれている。

また、定量的な火山ガラス比分析を実施した結果、TR1 南のⅧ層に含まれる火山ガラス（1/4～1/8mm）の比率は85.2%と高率であることが明らかになった。その内訳を色調形態別にみると、比率が高い順に無色透明のバブル型（58.8%）、繊維束状に発泡した軽石型（12.4%）、淡褐色のバブル型（10.8%）、褐色のバブル型（2.8%）等である。

2. 火山ガラス比分析

表6 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鋇物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
TR1 南	Ⅷ層	-	-	-	多量	bw>pm	cl, pb, br	opx, cpx

形態 bw：バブル型, md：中間型, pm：軽石型, 色調 cl：無色透明, pb：淡褐色, br：褐色, 重鋇物 opx：斜方輝石, cpx：単斜輝石

表7 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
TR1 南	Ⅷ層	147	27	7	1	0	31	37	250

数字は粒子数, 形態 bw：バブル型, md：中間型, pm：軽石型, sp：スポンジ状, fb：繊維束状, 色調 cl：無色透明, pb：淡褐色, br：褐色

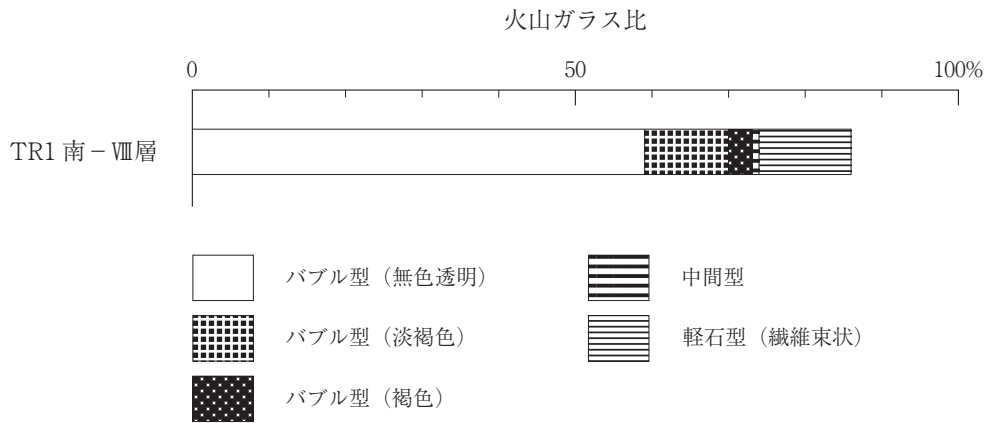


図35 庭ヶ淵遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム

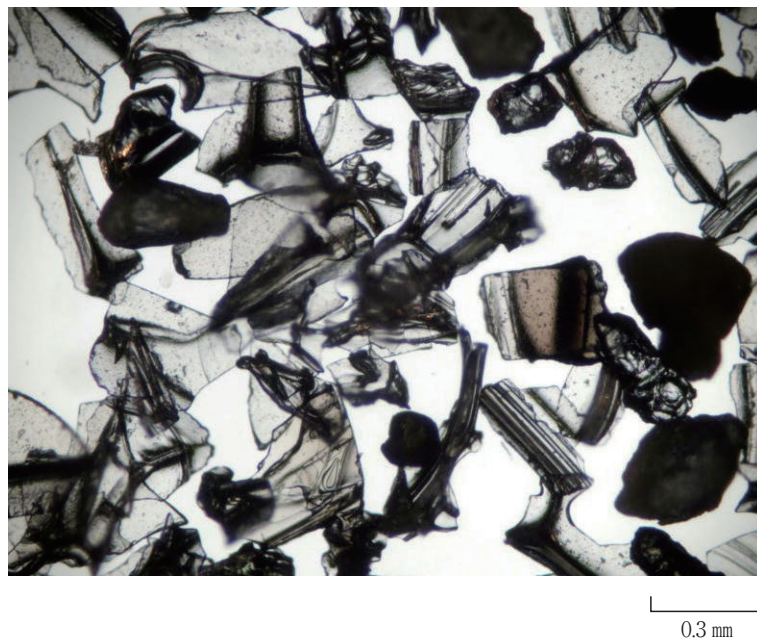


図36 庭ヶ淵遺跡 TR1 南 火山灰試料の透過光顕微鏡写真

3. 屈折率測定

(1) 測定方法

TR1 南のⅧ層に含まれる火山ガラス (1/8 - 1/16mm) を対象に、屈折率 (n) の測定を実施した。測定には、温度変化型屈折率測定装置 (京都フィッション・トラック社製 RIMS2000) を使用した。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表8に示す。TR1 南のⅧ層に含まれる火山ガラス (33 粒子) の屈折率 (n) は、1.509 - 1.514 である。なお、水和 (風化) がさほど進んでいないものが多いことが特徴である。

表8 屈折率測定結果

地点・試料・テフラ	火山ガラスの屈折率 (n)	測定粒子数	文献
庭ヶ淵遺跡 TR1 南-Ⅷ層	1.509 - 1.514	33	本報告
鬼界アカホヤ (K-Ah, 7.3 ka)	1.508 - 1.516	-	町田・新井 (2003)
始良 Tn (AT, 28-30 ka)	1.499 - 1.501	-	町田・新井 (2003)

屈折率測定は、温度変化型屈折率測定装置 (RIMS2000) による。

ka : 1,000 年前

4. 考察

TR1 南のⅧ層に含まれる火山ガラスは、淡褐色や褐色など有色のバブル型が多いこと、屈折率特性、水和があまり進んでおらず噴出年代が比較的新しい可能性が高いことなどから、約 7,300 年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 町田・新井, 1978, 1992, 2003) に由来する可能性が非常に高い。さらに、同定精度を向上させるためには、信頼度の高い EPMA (エレクトロンプローブ X線マイクロアナライザー) を利用しての火山ガラスの主成分化学組成分析が行われると良い。

なお、今回の分析は送付試料を対象としたもので、分析者による現地での土層観察の機会は得られなかった。土層に K-Ah 起源のテフラ粒子が多いことだけでは K-Ah の降灰層準の認定はできず、その降灰層準を求めるためには鉛直方向に沿って規則的に、あるいは土層ごとに採取された複数の試料の分析が必要である。

実は、日本列島のかなり広い範囲で、K-Ah の降灰後に明色の土層が形成されているらしい (例えば群馬県域の淡色黒ボク土, 早田, 1990)。この土層の形成要因については不明な点が多く、南九州地域のいわゆる「二次アカ」土層などのような K-Ah の降灰の直接的影響以外に、植生、気候変化による斜面崩壊・土石流・泥流・洪水の多発、さらにはヒトの山間地域での開発なども考えられる。この問題は考古学研究に関係する可能性も高いことから、今後も、土層の年代のみならず、形成要因などに関する分析などの実施が期待される。

5. まとめ

香南市庭ヶ淵遺跡で採取された試料 (TR1 南-Ⅷ層) を対象に、テフラ検出分析を含めた火山ガラス比分析と、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約 7,300

5. まとめ

年前)に由来する可能性が非常に高いテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

註

- (1) 宮地啓介、2012、『高知県香南市発掘調査報告書 第8集 庭ヶ淵遺跡』、香南市教育委員会、4 - 5頁

文献

- 町田洋・新井房夫、1978、『南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰』、第四紀研究 17、143 - 163 頁
町田洋・新井房夫、1992、『火山灰アトラス』、東京大学出版会、276 頁
町田洋・新井房夫、2003、『新編火山灰アトラス』、東京大学出版会、347 頁
早田勉、1990、『群馬県の自然と風土』、群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編 1 原始古代 1」、37 - 129 頁

第Ⅵ章 総括

第1節 庭ヶ渚遺跡出土土器

1. 器種組成

庭ヶ渚遺跡において出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、青磁、陶器、土製品、石製品、鉄製品である。このうち土器の組成は、大半が縄文土器であり、少量の弥生土器、その他古代～中世と考えられる土器が僅かに出土している。本遺跡の主体をなす縄文土器と弥生土器の器種別構成比率は、図37に示すとおりである。縄文土器は全体の8割近くを占め、そのすべては縄文時代

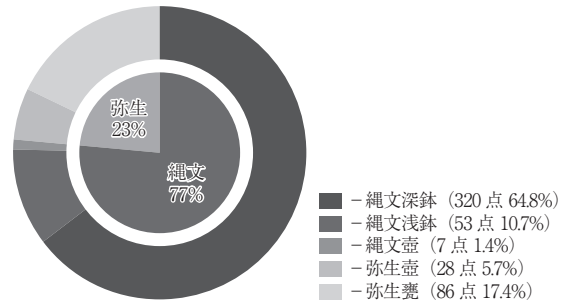


図37 庭ヶ渚遺跡出土縄文・弥生土器器種組成

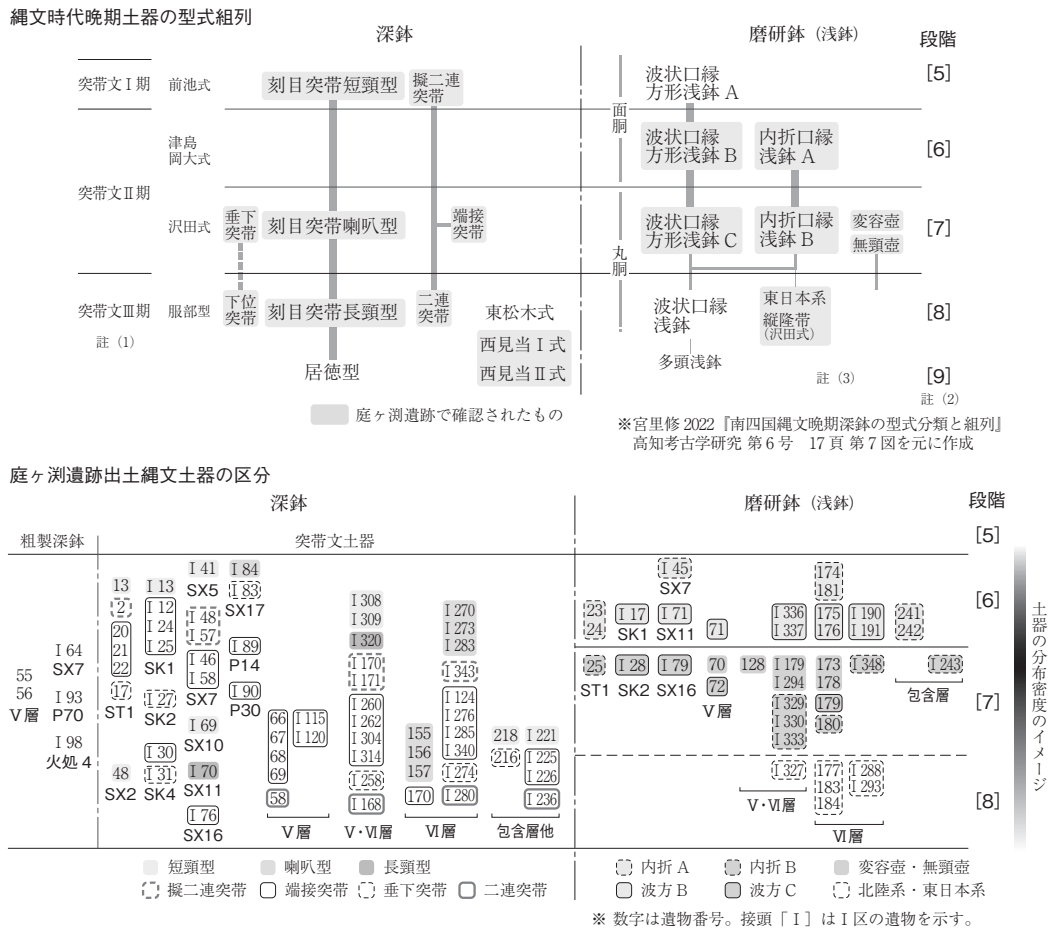
晩期のものであり、その中でも突帯文期Ⅱ～Ⅲ期（後述）に所属するものが主体と考えられる。縄文土器のうち深鉢は8割以上を占め、残りは浅鉢及びその変容形とみられる壺で構成されている。深鉢は刻目突帯文土器が大半を占め、粗製深鉢とみられる土器が僅かに出土している。その他、孔列文土器が包含層（Ⅴ層・Ⅵ層）から出土した。浅鉢は、上記の時期を中心とするもので、内折口縁浅鉢、波状口縁方形浅鉢、変容壺、無頸壺といった器形や、北陸系・東日本系と考えられるものが出土している。弥生土器については、弥生時代前期前半に所属する西見当式土器⁽¹⁾が包含層から一定量（判断できるもので18点）出土している。縄文時代晩期の土器については、宮里修氏⁽²⁾による型式分類・組列が設定されており⁽³⁾⁽⁴⁾、本節ではその分類に準拠して庭ヶ渚遺跡出土縄文土器を検討する。

2. 縄文土器の所属時期

高知県における縄文時代晩期の土器は、一定のまとまりをもつ資料として土佐市上ノ村遺跡、土佐市居徳遺跡などの出土資料が知られる。南四国出土の縄文時代晩期の深鉢と磨研鉢（浅鉢）について、宮里氏により9つの段階が設定されている（2022）。各段階の対応関係及び型式の分類は、図38に示すとおりである。本遺跡出土縄文土器は残存状態が不良な破片が多くを占めるが、口縁部形態などから識別可能な浅鉢を手掛かりに所属時期を検討する。以下、図38に沿って記述する。

浅鉢は内折口縁A及び同B、波状口縁方形浅鉢B及び同Cが、遺構及び包含層出土土器として一定量確認された。これらは6段階及び7段階、すなわち突帯文Ⅱ期とされる津島岡大式及び沢田式併行期に所属する。続く8段階に所属する東日本系と考えられるものや縦隆帯を持つものが包含層出土土器において僅かに認められる一方で、波状口縁方形浅鉢Aなど5段階以前に所属するものはみられない。

深鉢は、時期差の関係にある刻目突帯短頸型、刻目突帯喇叭型、刻目突帯長頸型の3型式が本遺跡出土の該当段階のものとして存在し、各型式に跨って変化する突帯の種類として、端接突帯、二連突帯などがある。上記の3型式を上位の分類基準、突帯の種類を下位の分類基準と捉えて、識別可能なものを図38に列記した。3型式はいずれも遺構及び包含層からの出土土器として確認された。



註(図 38 内)

- (1) 南四国と関係が深い備讃瀬戸地域における突帯文土器については、平井勝(1988)による岡山県北房町谷尻遺跡、山陽町南方前池遺跡、倉敷市広江・浜遺跡、岡山市百間川沢田遺跡の資料の検討により、刻目突帯文土器である前池式・沢田式と先行型式である谷形式との関係を整理したことにより年代軸が構築された。その後、岡山市津島岡大遺跡の資料から前池式と沢田式の間に津島岡大式とされる段階が設定され、小南祐一(2012)による同段階の詳細な検討を経て、突帯文土器がⅠ～Ⅲ期に区分された。総社市服部遺跡の資料による服部型は、器形的特徴から刻目突帯長頭型へとつながる型式と考えられ、小南(2012)により沢田式に続く突帯Ⅲ期に位置付けられた。
- (2) 宮里(2022)による南四国の磨研鉢の詳細な検討により、縄文晩期から弥生移行期にかけて9つの段階が設定された。深鉢については、宮里(2022)により、各段階に対応する型式組列が示された。南四国においては、上ノ村U型、上ノ村T型、先倉岡型、倉岡型、刻目突帯短頭型、刻目突帯喇叭型、刻目突帯長頭型、居徳型という推移を辿る。弥生土器の最古段階と考えられる東松木式は8段階に出現し、その後9段階にかけて西見当Ⅰ・Ⅱ式が存在する。
- (3) 磨研鉢と深鉢の種別及び型式は、宮里(2016・2022)において提示され、詳細に記述されている。庭ヶ測遺跡において確認された種別・型式について概略を列記する。[磨研鉢]内折口縁浅鉢A：面胴から屈折する短い口頸部が内方に立ち上がるもの。内折口縁浅鉢B：丸胴から口頸部が上方に立ち上がるもの。波状口縁方形浅鉢B：面胴から屈折して立ち上がる口頸部が外方に短く延びるもの。波状口縁方形浅鉢C：胴が膨らみをもった丸胴に変わり、痕跡化した胴屈折部が段や凹帯となったもの。変容壺・無頸壺：変容壺は内折鉢がA型からB型へ変化する過程で派生し成立、無頸壺は変容壺と同様の背景のもと壺形土器の肩部を移植することで成立した。[深鉢]時期差の関係をもつ以下の3型式がある。刻目突帯短頭型：胴最大径から口頸部がゆるく開くもの。口縁の外反は小さく、口径と胴最大径は同程度か胴最大径がやや大きい。器壁は厚い。刻目突帯喇叭型：胴最大径からやや頸部を窄めつつ口縁部が大きく外反して開くもの。最大径は口縁部にあり、口頸部と胴部の境に界線を施す。刻目突帯長頭型：胴最大径から長い口頸部が緩やかに外反するもの。最大径は口縁部にあるが喇叭型に比べ開きは小さい。下位突帯を特徴とし、刻目は細く浅い。以上の3型式のほかに、各型式に跨って変化する突帯の種類がある。端接突帯：突帯が口縁端部に接し、口唇と突帯上面が一体となって整形されるもの。垂下突帯：口縁端部に接した突帯が口唇と一体となって整形されるもので、口唇から突帯先端までが長く突帯の断面が長三角形となるもの。擬二連突帯：土器に正対したとき外反する口唇刻目が刻目突帯と同様の装飾効果を持ち、口縁突帯とともに見かけの上で二連突帯となるもの。二連突帯：口縁端部に貼付けによる2条の刻目突帯を巡らしたもの。下位突帯：口縁の下方に位置する細く薄い突帯に浅く小さな刻目が加えられたもの。

図 38 庭ヶ測遺跡出土縄文土器の時期概念図

図38に掲げたものは確定的な判断が可能なものに限っており、この他残存状態の不良な多くの突帯文土器も、3型式のいずれかに属する可能性が高いとみられる。突帯の種類についても同様に、各種が遺構及び包含層から出土している。刻目突帯短頸型は5段階に出現し、7段階において喇叭型が出現するまで存在するとされるもので、庭ヶ渚遺跡出土土器に一定量が認められる事実と整合する。8段階の刻目突帯長頸型や二連突帯を持つものは比較的少なく、この傾向は浅鉢における同段階の低い分布密度に対応しているとみることができる。刻目突帯短頸型から刻目突帯喇叭型への移行には時期的隔たりがあり、この間を埋める型式が発見される可能性があるとされている(宮里2022)。庭ヶ渚遺跡において確認された刻目突帯短頸型は、浅鉢との対応関係から6段階に相当するものと考えられ、同型式の中では新相に相当するものである可能性を持つ。口縁部のみの資料が大半という制約の下で同型式を細分しうる分類基準を見出すことはできないが、庭ヶ渚遺跡出土の突帯文土器が6段階を構成する資料を多く含むという事実を提示することは可能である。

特筆されるものとして、北陸系土器(I 288・I 293・I 327)と孔列文土器(172・I 281・I 318)の出土が挙げられる。北陸系土器は、北陸地方の長竹式土器に類似するが、胎土が異なるもので、整形・施文技法が伝播する過程で他地域において成立した土器が搬入されたものであることが想定される。孔列文土器は、高知県では他に居徳遺跡での出土が知られ、大半は刻目突帯を貼付するものであるが、無刻目突帯のものも僅かに存在する。本遺跡出土資料にも両者がみられ、同時期の所産と考えられるこれらの孔列文土器を出土する様相は両遺跡に共通する。北陸系土器と孔列文土器の所属段階も他の縄文土器に準じ、6～8段階に属するものと考えられる。

弥生土器では、西見当式土器がある程度出土している事実にも注意する必要がある。なお、これらの縄文土器及び弥生土器を包含するV層及びVI層は、土質や堆積状況、土器の出土状況から有意な時期的差異を求めることは困難であり、一体的な層と捉えることが適当と考えられる。

以上から、庭ヶ渚遺跡出土縄文土器の所属時期は、6・7段階に相当する時期、すなわち突帯文Ⅱ期における津島岡大式及び沢田式併行期、あるいはその移行期が主体であり、続く8段階以降に相当する時期、すなわち突帯文Ⅲ期にかけて密度を減じて存続し、さらに弥生時代前期の土器も少量存在するという時期的推移を想定することができる。

第2節 庭ヶ渚遺跡の位置付け

前節で検討した縄文土器の所属時期からみると、庭ヶ渚遺跡は突帯文Ⅱ期に成立するとともに間もなく最盛期を迎え、以降突帯文Ⅲ期に至り急速に衰退した後、弥生時代前期にかけて存続するという経過を辿ると想定される。出土遺物から最盛期に機能したとみられる遺構群があり、それらの廃絶・埋没後、さらに弥生時代前期にかけて何らかの土地利用がなされるが、遺構としての痕跡を残さずに廃絶、そしてそれらの時期の土器を含むV層及びVI層とした包含層が形成されたと考えられる。各遺構の埋土からの出土土器によると、最盛期前後に機能したと考えられる遺構は本調査区の多くを占めるとみられ、層位的に後世のものと考えられるⅡ区SD1～8以外の遺構はほぼ当該時期に該当するものと考えられる。Ⅰ区・Ⅱ区において検出した遺構は重複を伴うものが少なく、多くの遺構は近い時期に存在あるいは同時併存した可能性を持つ。

庭ヶ渚遺跡において特筆される事例として、縄文時代晩期～弥生時代前期に所属すると考えられる竪穴建物跡1棟の検出が挙げられる。平面規模は4.90m、形状は円形を指向するが歪であり、隅

角と捉えられる箇所を有する多角形と認識される。床面は旧地形に即して南側の河道方向への下がり勾配を持ち、最大高低差約25cm、勾配約4%という人為活動において無視できない傾斜を持つ事実が存在する。ST1の埋土及び床面からの出土土器は弥生土器を少量含むものの大半が前節における7段階に属する縄文土器であり、弥生土器を含む総点数は323点（うち34点を図示）、総重量は2,484gである。この他、床面に設置された状況の被熱礫（40）や、石製品が少量出土している。

ST1出土土器の炭素14年代測定から得られた年代値は、 $2630 \pm 20BP$ 、 $2540 \pm 20BP$ であり、SX7出土土器からは $2725 \pm 20BP$ が得られている（第IV章）。この結果は、前節の図38で示した、本遺跡出土の縄文土器の所属段階が第6・7段階を中心とするものであるという分析結果と概ね整合する。庭ヶ測遺跡においては、縄文時代晩期から弥生時代前期に至る時期のある程度の期間（炭素14年代値によれば200年程度）に継続的または断続的に人為活動が営まれ、その後半の時期に竪穴建物（ST1）が機能したという推移を描出することが可能である。

高知県内において縄文時代の竪穴建物跡の可能性のあるものとして報告された遺構は、現在3例が知られる（遺構の確認状況や遺物の出土状況などから、確定的といえるものは松ノ木遺跡の1例である）。庭ヶ測遺跡の事例については、縄文時代晩期の末から弥生時代前期に至る時期に機能した可能性の高い竪穴建物として位置付けられる。

庭ヶ測遺跡は、県中東部の内陸域において、縄文土器の系譜を引く突帯文土器を使用していた集団が、西見当式をはじめとする弥生土器を次第に受容していく様相を示す、縄文時代から弥生時代の移行期に形成された小集落の一例として今後重要となる遺跡である。

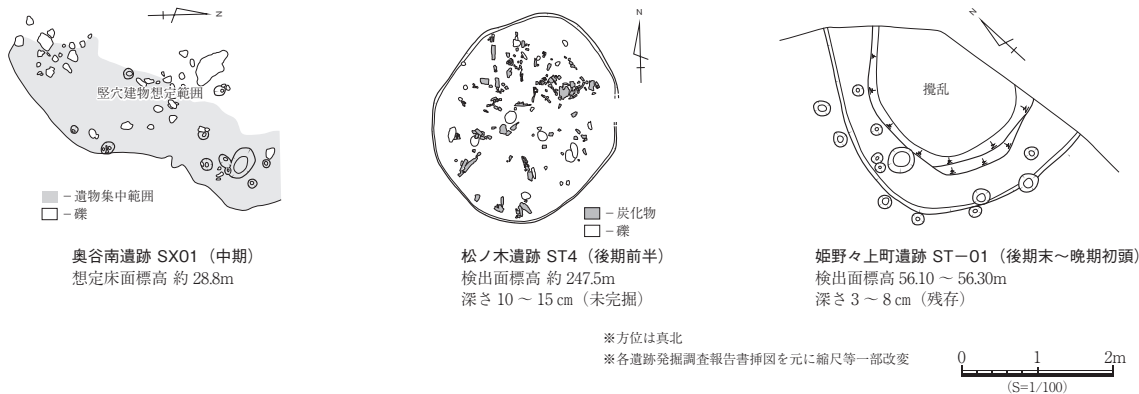


図39 高知県における縄文時代の可能性のある竪穴建物跡

註

- (1) 1955年に岡本健児氏によって発掘調査が行われた田村西見当遺跡において出土した遠賀川式土器の系譜を引く弥生土器で、同氏により入田Ⅰ式よりも新しく大篠式よりも古いものとして型式設定された。短く外反する口縁部と口唇に施す刻目が特徴的であり、古相の西見当Ⅰ式と外面沈線を施す新相の西見当Ⅱ式がある。
- (2) 高知大学 人文社会科学部 総合人間自然科学研究科 准教授（2024年2月現在）
- (3) 宮里修、2022、「南四国縄文晩期磨研鉢の分類と編年」『海南史学 第60号』、海南史学研究会、1～22頁
- (4) 宮里修、2022、「南四国縄文晩期深鉢の型式分類と組列」『高知考古学研究会 第6号』、高知考古学研究会、1～26頁

参考文献

山本哲也、1984、「姫野々上町遺跡」『姫野々上町・新土居宇津ヶ藪・永野遺跡』、葉山村教育委員会
 前田光雄、1992、『松ノ木遺跡Ⅲ』、本山町教育委員会
 松葉礼子・汐見真・岡田文男・大澤正巳・鈴木瑞徳・藤方正治、2003、『居徳遺跡群Ⅴ』、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
 松村信博・山本純代、1999、『奥谷南遺跡Ⅰ』、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

遺物觀察表

凡例

1. 法量は土器を基準に口径 (cm)、器高 (cm)、底径 (cm) で示し、土製品、石製品、鉄製品については、全長 (cm)、全幅 (cm)、全厚 (cm) で示している。
2. () 内の数値は残存値を示している。なお、石製品については残存が不明確な点を考慮し、() を用いない。
3. 石製品、鉄製品については、表の後方にまとめて掲載している。
4. 色調は標準土色帖を基準としている。
5. 出土層位は、本文第三章の図 7・8 等の層位に対応している。出土層位を判別し得なかった遺物については、「包含層」と記載している。
6. I 区の出土遺物については、「宮地啓介 2012『高知県香南市発掘調査報告書 第 8 集 庭ヶ淵遺跡』香南市教育委員会」に遺物実測図を掲載している。また、遺物番号の接頭に「I」を付している。
7. 備考欄の「西見当式」は、断定できるもののみ「I 式」または「II 式」を付している。

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
1	II区	ST1	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、上位で外反する。口縁端部は丸く収める。外面極細い斜位の線状の刻目突帯。内傾接合痕。	
2	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラス多含。	
3	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。外面断面台形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
4	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 黄灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁部の形状はやや歪む。外面断面カマボコ形の刻目突帯。突帯の上下に沈線が巡る。胎土微細ガラスを含む。	
5	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.3)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
6	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	灰褐色 にぶい赤褐色	①②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は丸く収める。口縁部は緩やかな波状を呈する。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
7	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。口縁端部に刻目。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。	
8	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色	①ナデ。②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
9	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面カマボコ形の刻目突帯。刻目は半裁竹管により施す。内傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
10	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土1.5mm程度の白透色砂粒を含む。	
11	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	にぶい橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は細く仕上げる。外面断面三角形の刻目突帯。	
12	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	黄灰色 浅黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細な白透色砂粒を含む。	
13	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	黒褐色 暗灰黄色 灰黄褐色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
14	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	黒褐色 褐灰色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に斜位の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
15	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	黒色 黒褐色 青黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、上位はやや外反する。口縁端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
16	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色	①②ナデ。③口縁部は内湾気味に上がり、端部は細く仕上げる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
17	〃	〃	縄文土器 深鉢	18.9	(5.7)	-	灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く収め外側に折り返して肥厚させる。肥厚面に刻目。外面に煤附着。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
18	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	橙色 にぶい橙色	①ヨコナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
19	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 にぶい黄褐色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁端部は丸く収め、外側に稜を形成する。外面断面三角形の刻目突帯。	
20	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.0)	-	オリーブ黒色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。突帯上位に刺状の刻目を付加する。内傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
21	II区	ST1	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	浅黄色 にぶい黄色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。 外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
22	"	"	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい橙色 灰黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。外 面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度の白透 色砂粒を含む。	
23	"	"	縄文土器 浅鉢	-	(3.1)	-	黒褐色 暗灰黄色	①ヘラミガキ。②ヘラケズリ・ナデ。③胴部は直線的に 外上方に上がり、上位で内側に屈折して口縁部に向かう。 内傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
24	"	"	縄文土器 浅鉢	-	(3.4)	-	黒褐色 灰黄褐色 灰色	①②ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上 位で屈曲して上方に上がる。内傾接合痕。	
25	"	"	縄文土器 浅鉢	-	(3.5)	-	黄灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部上位で段をなし、口縁部 は直線的に内上方に上がる。段の上方に1条沈線が巡る。 胎土微細な白色砂粒を含む。	
26	"	"	弥生土器 壺	-	(3.6)	-	灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収めて外側に 揃む。口縁端部に細い線状の刻目。内傾接合痕。	
27	"	"	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	橙色 明黄褐色 にぶい橙色	①ヘラミガキ。②ナデ。③口縁部は強く外反し、端部は 丸みを帯びた面をなす。外傾接合痕。	
28	"	"	弥生土器 壺	-	(2.0)	-	にぶい黄橙色 灰色 灰白色	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部上位は緩やかに内湾する。 外面胴部に残存部で3条の沈線が認められる。	
29	"	"	弥生土器 壺	-	(1.4)	-	にぶい黄橙色 橙色 浅黄橙色	①ナデ。②ヘラミガキ。③外面胴部に山形文を施文する。	
30	"	"	弥生土器 甕	-	(2.1)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄色 灰白色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを 帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
31	"	ST1 - P19	弥生土器 甕	-	(1.9)	-	橙色 明黄褐色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は外反し、丸み を帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
32	"	"	弥生土器 甕	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端 部外縁に刻目。	
33	"	ST1	弥生土器 甕	-	(8.3)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ヘラケズリ・ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。 ③胴部の破片。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
34	"	"	弥生土器 鉢	-	(2.5)	-	橙色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は中央がやや 凹んだ面をなす。口縁端部外縁に刻目。線状の刻目は 口縁部下位にまで及ぶ。	
41	"	SK1	弥生土器 甕か	-	(1.2)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色/灰色	①②ナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸く収める。 口縁部の形状はやや歪む。胎土微細ガラスを含む。	
42	"	SD2	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	にぶい黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、外側に折り返して 僅かに肥厚させる。口縁端部は丸く収める。口縁端部に 浅い線状の刻目。外傾接合痕。	
43	"	SX1	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	浅黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な 面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
44	"	"	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄橙色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収め る。口縁端部に浅く幅広い刻目。外面断面三角形の刻目 突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
45	"	"	弥生土器 壺	-	(4.0)	-	浅黄色 黒褐色	①ヘラミガキ。②ナデ。③胴部は内湾する。外面に赤色 顔料付着。	
46	"	"	弥生土器 甕	-	(3.2)	8.0	浅黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。②ハケ・ユビオサエ。底部ナデ。③胎土1mm程 度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
47	II区	SX1	土製品 不明	全長 (4.5)	全幅 (3.0)	全厚 0.7	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ・ユビオサエ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。円盤の面は僅かに湾曲する。	
48	〃	SX2	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	黒褐色 暗灰黄色 黒褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面カマボコ形の刻目突帯。胎土微細ガラス多含。	
49	〃	SX3	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄色 オリーブ灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
50	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.4)	-	褐色 〃 褐灰色	①②ナデ。③胴部上位の破片。外面断面三角形の刻目突帯。刻目は高く隆起する突帯から器表付近まで深く施す。胎土微細ガラスを含む。	
51	〃	SX4	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 灰黄褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は面をなす。外面断面三角形の突帯。胎土微細ガラス多含。	
53	〃	P15	弥生土器 甕か	-	(2.9)	-	灰白色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
54	〃	P16	弥生土器 甕	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 〃	①ナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は外傾する面をなし、下端を拡張する。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
55	〃	V層	縄文土器 深鉢	-	(5.1)	-	浅黄色 暗灰黄色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は細く仕上げる。外面口縁部に刻目。内傾接合痕。	
56	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	黄褐色 オリーブ褐色 暗灰黄色	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く収める。内傾接合痕。	
57	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	灰黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。突帯の下に沈線文か。	
58	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	暗灰黄色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は尖気味に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯を2段貼付する。内傾接合痕。	
59	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は粗放な面をなし、外側にやや拡張する。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
60	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.9)	-	にぶい黄褐色 オリーブ黒色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
61	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 浅黄橙色	①ナデ。②胴部上位ハケ。口縁部ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。刻目は摩耗により不明瞭。胎土微細な白透色砂粒を含む。	
62	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 〃 灰黄褐色	①②粗いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
63	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は細く仕上げる。外面断面三角形の刻目突帯。	
64	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	灰色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
65	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(7.5)	-	灰黄色 浅黄色 黄灰色	①ナデ。②粗いナデ。③胴部はやや外反する。外面断面カマボコ形の刻目突帯。刻目は線状に粗く施す。内傾接合痕が明瞭にみられる。	
66	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.4)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収め、やや歪む。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。口縁部上位に刺突状の刻目。	
67	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなす。面内に3mm程度の矩形の刻みを施す。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
68	II区	V層	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。	
69	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	灰白色 橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部はやや粗放に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
70	〃	〃	縄文土器 壺	18.4	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面口縁部に1条沈線が巡る。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	変容壺
71	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.8)	-	灰黄褐色 〃 〃	①②丁寧なナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。波状口縁とみられる。内面口縁部に明瞭な凹線が1条巡る。胎土0.5mm大の角閃石及び微細な白色砂粒を含む。	
72	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 暗灰黄色	①②ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に上がり、端部はやや粗放に丸く収める。波状口縁とみられる。口縁端部に刻目。	
73	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(3.6)	-	にぶい黄褐色 明赤褐色 黄灰色	①②ナデ。③胴部上位～口縁部は内湾し、端部は丸みを帯びた面をなす。波状口縁をなすものとみられる。外面口縁部に凹線状の線が1条巡る。胎土微細ガラスを含む。	
74	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(6.0)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	①ナデ。②ナデ・ヘラミガキ。③胴部上位は内湾する。内傾接合痕。胎土2mm大の白透色砂粒を含む。微細な白色砂粒多含。	
75	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(3.1)	-	暗灰黄色 にぶい黄橙色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は内湾して上方に立ち上がり、端部は丸く収める。胎土0.5mm大の白透色砂粒を含む。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒多含。	
76	〃	〃	弥生土器 壺	-	(3.2)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色 〃	①ナデ・ユビオサエ。②丁寧なナデ。③胴部～頸部は僅かに外反する。外面残存部に3条の沈線が巡る。胎土0.5mm大の角閃石及び微細ガラスを含む。	
77	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①ナデ。②丁寧なナデ。③胴部上位は内湾して上がる。外面胴部に2条沈線が巡る。外傾接合痕。	
78	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.8)	-	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。外面口縁部に刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
79	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 灰色	①②ハケ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	
80	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目。	
81	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.3)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 〃	①②ナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目を密に施す。	
82	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.2)	-	橙色 〃 にぶい黄褐色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	
83	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.6)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に沈線状の線が1条巡る。口縁端部外縁に疎らな刻目。	
84	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.3)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反して開き、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。	
85	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	暗灰黄色 灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反して開き、端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
86	〃	〃	弥生土器 甕か	-	(4.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②丁寧なナデ。③胴部は緩やかなS字状のカーブを描く。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
87	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.1)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①②ナデ。③外面胴部に6条1単位の垂下条線が認められる。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
88	II区	V層	弥生土器 甕	-	(3.5)	9.1	灰白色 浅黄橙色 黄灰色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③平底。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
89	〃	〃	弥生土器 壺か甕	-	(3.7)	9.0	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①ナデ。底部指頭圧痕。②ハケ。③平底。胴部下位は外上方に立ち上がる。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。微細な白色砂粒多含。	
90	〃	〃	弥生土器 甕	-	(4.1)	8.2	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰色	①ナデ。工具痕が残る。②ハケ・胴部下位ユビオサエ。③平底。底部外縁は稜をなす。胴部は内湾気味に上がる。	
91	〃	〃	弥生土器 甕	-	(4.5)	8.6	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ。②ハケ・ナデ。③平底。底部は厚みを持つ。	
92	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.8)	-	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色/黄灰色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③平底。	
93	〃	〃	土師器 皿か杯	-	(1.9)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部～口縁部は内湾し、口縁部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
94	〃	〃	土師器 杯か碗	-	(2.1)	-	淡黄色 浅黄橙色 〃	①②ナデ。③体部は内湾気味に上がり、口縁部は外方に開く。口縁部は丸く収め、玉縁状に肥厚させる。	
95	〃	〃	土師器 杯	-	(1.2)	8.4	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は稜をなす。胎土微細ガラスを含む。	
96	〃	〃	土師器 杯	-	(1.7)	7.6	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は内湾して立ち上がる。底部回転糸切り痕。胎土微細ガラスを含む。	
97	〃	〃	土師器 杯	-	(1.7)	8.2	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は内湾気味に立ち上がる。底部回転糸切り痕。胎土微細ガラスを含む。	
98	〃	〃	土師器 杯	-	(1.4)	8.8	にぶい橙色 〃 橙色	①②ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は直線的に立ち上がる。底部ヘラ切り。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
99	〃	〃	土師器 碗	-	(1.0)	6.4	浅黄橙色 〃 〃	①②ナデ。③輪高台。断面台形の高台を貼付する。接地面は平坦面をなす。高台外面はユビオサエにより凹む。胎土はやや密。	
100	〃	〃	土師器 碗	-	(2.1)	6.6	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に短く開き、端部は面をなす。体部は内湾して立ち上がる。胎土微細な褐色砂粒を含む。	
101	〃	〃	土師器 羽釜	-	(1.9)	-	橙色 〃 にぶい黄橙色	①②ナデ。③鋳部は水平に近い角度で伸び、端部は丸みを帯びた面をなす。	
102	〃	〃	須恵器 壺か甕	-	(5.6)	-	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③胴部上位で稜をなす。頸部はやや外傾して上方に上がる。外面自然釉が薄くみられる。焼成堅緻。	
103	〃	〃	須恵器 壺	-	(3.1)	-	灰色 〃 にぶい褐色	①②回転ナデ。③丸底。胴部は内湾して上がる。焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
104	〃	〃	須恵器 甕	-	(5.4)	-	灰黄褐色 黄灰色 〃	①ナデ。②タタキ。③胴部の破片。胎土1.5mm大までの黒色砂粒多含。	
105	〃	〃	須恵器 甕	-	(5.2)	-	灰黄褐色 灰褐色 灰白色	①ナデ。②平行タタキ。③胴部は内湾する。胎土2mm大までの黒色砂粒多含。形質の類似する須恵器破片が溶着する。	
106	〃	〃	須恵器 捏鉢	-	(3.0)	-	黄灰色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部は内湾気味に上がり、端部は中央がやや凹む面をなす。焼成良好堅緻。胎土はやや密。	
107	〃	〃	須恵器 杯	-	(3.3)	-	灰黄色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がる。口縁部は丸く収め、外縁で稜をなす。胎土は密。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
108	II区	V層	須恵器 杯	15.8	(2.1)	-	灰白色 灰色 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部のかえりはやや内傾して直線的に上がり、端部は細く仕上げる。受部は水平に伸び、端部は丸く収めて先端は稜をなす。	
109	〃	〃	須恵器 杯	-	(2.0)	-	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは外反気味に立ち上がり、端部は細く仕上げる。受部は僅かに上方に伸び、端部は丸く収める。	
110	〃	〃	須恵器 椀	-	(1.5)	6.8	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部は丸みを帯びた面をなす。	8世紀中頃か
111	〃	〃	土師器 杯	12.2	(3.6)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 〃	①②回転ナデ。③体部はやや稜をなし、口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
112	〃	〃	瓦器 椀	-	(1.9)	-	灰オリーブ色 灰色 灰オリーブ色	①②ナデ。③体部は内湾気味に上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
113	〃	〃	瓦器 椀	-	(1.4)	6.2	オリーブ黒色 灰オリーブ色 浅黄褐色	①②ナデ。③輪高台。断面三角形の高台を貼付する。体部は内湾気味に立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
114	〃	〃	陶器 瓶	-	(7.1)	-	灰色 暗灰黄色 灰色	①②回転ナデ。③胴部下位は内湾して上がる。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒多含。	
120	〃	V・VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	橙色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
121	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
122	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい橙色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。	
123	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
124	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部にかけて直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
125	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	灰白色 〃 灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
126	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	灰色 浅黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
127	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい橙色 〃 にぶい黄褐色/オリーブ黒色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。胎土2mm程度の白色砂粒を含む。	
128	〃	〃	縄文土器 壺	-	(3.2)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 灰色	①②ヘラミガキ。③外面胴部上位で段をなし、内傾して口縁部に向かう。胎土微細ガラスを含む。	変容壺
129	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.1)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 灰白色	①②口縁部ヨコナデ。③頸部で屈曲し、口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は面をなす。口縁端部に刻目。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
130	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 橙色 にぶい黄褐色	①ヨコナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は強く外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	西見当式
131	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.5)	-	橙色 にぶい橙色 暗灰黄色	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。	
132	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰白色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
133	II区	V・VI層	弥生土器 甕	-	(1.3)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色	①②ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は外傾する面をなす。口縁端部に刻目。	
134	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	浅黄色 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外傾接合痕。	
135	〃	〃	弥生土器 甕	-	(4.1)	-	暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③胴部は緩やかに内湾する。外面胴部は僅かな段をなす。外傾接合痕。外面に煤付着。	
136	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.6)	10.2	にぶい橙色 褐色	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ。③平底。胴部下位は直線的に上がる。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
137	〃	〃	土師器 椀か	-	(3.1)	-	灰黄褐色 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がり、角度を変えて口縁部は外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
140	〃	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	黄灰色 暗灰黄色 黄灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部の面内に刻目。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
141	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	灰白色 にぶい黄橙色 灰白色	①②ヨコナデ。③口縁部上位で緩やかに外方に屈曲し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	
142	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。内傾接合痕。	
143	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。口縁端部は面をなし、外側にやや拡張する。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
144	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	褐灰色 灰白色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部はやや尖気味に丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。	
145	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	灰黄褐色 褐色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がる。口縁端部は丸く収め、外側を肥厚させる。口縁端部に押圧による刻み。外面断面カマボコ形の刻目突帯。	
146	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄褐色 黒褐色	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土2mm大の白透色砂粒を若干含む。	
147	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	灰白色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。口縁端部は丸みを帯びた面をなし、外側を僅かに拡張する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
148	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄褐色 暗灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部はやや外反する。口縁端部は面をなし、外側をやや肥厚させる。口縁端部に2段の圧痕状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
149	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面微隆起による刻目突帯。	
150	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい赤褐色 明赤褐色 赤褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
151	〃	〃	縄文土器 深鉢	29.8	(4.3)	-	黒色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
152	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	橙色 〃	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面台形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
153	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
154	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 にぶい黄褐色	①条痕。②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。内傾接合痕。外面断面三角形の刻目突帯。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
155	II区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(4.3)	-	にぶい黄橙色 褐灰色 にぶい黄橙色	①②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面断面薄い台形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
156	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	にぶい褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
157	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	にぶい赤褐色 褐灰色 にぶい褐色	①粗いナデ。②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。内外面に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
158	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	浅黄色 にぶい黄橙色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面薄い台形の刻目突帯。内傾接合痕。	
159	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	浅黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
160	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	褐灰色 にぶい橙色 灰黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外面断面薄い台形の刻目突帯。	
161	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい褐色 にぶい赤褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
162	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
163	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	にぶい橙色 〃 〃	①②ナデ。③胴部上位～口縁部に向けて直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。	
164	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰黄褐色 〃 褐灰色	①②ナデ。③胴部上位から内傾して口縁部に向かう。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
165	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	にぶい黄橙色 浅黄褐色 灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
166	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	にぶい赤褐色 明赤褐色 灰色	①②ナデ。③胴部上位はやや外反して口縁部に向かう。外面断面台形の刻目突帯。	
167	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	褐色 〃 にぶい赤褐色	①②丁寧なナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。内面に沈線状の線が1条巡る。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
168	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	黄灰色 灰白色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反する。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
169	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.3)	-	黒褐色 〃 褐灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
170	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい橙色 〃 淡黄色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
171	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(6.2)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①条痕。②粗いナデ。③胴部上位はやや内傾して上がる。内傾接合痕。胎土1mm大の白透色砂粒を含む。	
172	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の無刻目突帯。突帯上半に外面からの焼成前穿孔による孔列文を配する。	孔列文土器
173	〃	〃	縄文土器 壺	-	(4.9)	-	灰黄褐色 褐灰色 にぶい黄褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は外方に屈曲し、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	変容壺
174	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 〃 黒褐色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で屈折し、口縁部は短く外反する。口縁端部は丸く収める。内面屈折部は凹線状に凹む。内面口縁部に赤色顔料が薄く付着する。胎土角閃石及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
175	II区	VI層	縄文土器 浅鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	①ヘラミガキ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。波状口縁。内面口縁部に深い凹線状の線が1条巡る。内傾接合痕。	
176	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.6)	-	黒褐色 〃 〃	①②ヘラミガキ。③胴部上位で屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は丸く収める。波状口縁。口縁部内外面に1条沈線。内傾接合痕。	
177	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.8)	-	褐灰色 〃 灰黄褐色	①丁寧なナデ。②ヘラミガキ。③口縁部はやや外反する。波状口縁。波頂部に押圧による2ヶ所の刻み。内面口縁部に2条沈線。胎土微細ガラス多含。	東日本系
178	〃	〃	縄文土器 壺	-	(2.4)	-	にぶい褐色 〃 〃	①②ヘラミガキ。③胴部上位は内傾して上がり、屈曲して口縁部は上方に上がる。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。胎土金雲母片を含む。微細ガラス多含。	無頸壺
179	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.2)	-	灰色 〃 黒色	①②ヘラミガキ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。波状口縁とみられる。外面1条沈線。口縁部付近に穿孔か。胎土微細ガラスを含む。	
180	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(4.3)	-	褐灰色 にぶい褐色 暗灰黄色	①ヘラミガキ。②ヘラケズリ・ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がり、口縁部にかけて内側に屈曲する。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
181	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄褐色 〃 灰色	①ヘラミガキ。②ヘラケズリ・ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上位で内側に屈折して口縁部に向かう。内傾接合痕。	
182	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.3)	-	褐色 〃 暗灰黄色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で段をなして口縁部は外上方に上がる。	
183	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.0)	-	灰黄褐色 にぶい橙色 暗灰黄色	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部は内湾する。外面縦隆帯とみられる縦位の突帯を貼付する。胎土微細ガラス多含。	東日本系 縦隆帯 (沢田式)
184	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.3)	-	灰褐色 灰黄褐色 〃	①ナデ。②ヘラミガキ。③胴部はやや内湾する。外面窓状の区画内にヘラによる斜行沈線文。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	東日本系
185	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.2)	7.4	黒褐色 橙色 黒褐色	①ヘラミガキ。②ナデ。③平底。外面底部は凹凸を呈する。胎土微細ガラスを含む。	
186	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.7)	-	橙色 〃 にぶい黄褐色	①②ナデ。③外面微隆起による刻目突帯。突帯の中央及び上下に計3条の沈線が巡る。	
187	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	①②ナデ。③胴部上位から外反して頸部に至る。頸部胴部境界に横位の沈線が1条巡る。頸部に複線山形文とみられる沈線を施す。	
188	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	浅黄色 〃 灰黄色	①②ナデ。③胴部上位は内湾する。外面ヘラによる葉脈状の沈線を施す。胎土微細ガラスを含む。	
189	〃	〃	弥生土器 甗	19.2	(1.6)	-	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部縦位ハケ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。胎土1mm大の白透色砂粒を含む。	西見当式
190	〃	〃	弥生土器 甗	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 にぶい黄褐色	①②ハケ・ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	
191	〃	〃	弥生土器 甗	-	(1.7)	-	浅黄色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外傾接合痕。	
192	〃	〃	弥生土器 甗	-	(1.7)	-	橙色 〃 橙色/灰色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。	
193	〃	〃	弥生土器 甗	-	(1.3)	-	暗灰黄色 〃 にぶい黄色	①ナデ。②ナデ。口縁部に指頭圧痕。③口縁部は外反する。口縁端部は外傾する面をなし、下端を拡張する。面に粗くナデた痕。口縁端部内縁及び外縁に刻目。	
194	〃	〃	弥生土器 甗	-	(1.7)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
195	II区	VI層	弥生土器 甕	-	(1.6)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄色 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	
196	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.5)	-	にぶい黄橙色 橙色 灰黄褐色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
197	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.8)	5.2	黒褐色 にぶい黄橙色 〃	①ナデ。工具痕が認められる。②ナデ。③突出する平底。胎土 0.5mm大の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
198	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.2)	9.6	浅黄褐色 〃 黄灰色	①②ナデ。③平底。底部外縁はやや丸みを帯びる。	
199	〃	〃	弥生土器 甕か	-	(2.3)	8.2	灰黄褐色 浅黄褐色 褐灰色/赤橙色	①②ナデ。③平底。外面底部は稜をなし、胴部は内湾気味に上がる。	
200	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.8)	8.4	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	①ナデ。②ハケ。底部ヘラナデ。③平底。胴部は内湾気味に上がる。	
201	〃	〃	弥生土器 鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
202	〃	〃	土師器 杯	15.2	(1.6)	-	赤褐色 にぶい褐色 橙色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内面口縁部に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
212	〃	包含層	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収めて外縁でやや稜をなす。外傾接合痕。	
213	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	にぶい黄褐色 〃 暗灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は細く仕上げる。口縁端部外縁に刻目。外面断面台形の刻目突帯。	
214	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
215	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
216	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(8.0)	-	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	①条痕。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に押圧刻み。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
217	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	浅黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面台形の刻目突帯。	
218	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黄褐色 〃 黄灰色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
219	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	灰色 にぶい橙色 灰色	①②ナデ。③胴部上位はやや外反して口縁部に向かう。外面断面カマボコ形の刻目突帯。	
220	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	橙色 にぶい橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反する。内面に沈線が1条巡る。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
221	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 〃 褐灰色	①②ナデ。③胴部上位はやや外反して口縁部に向かう。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
222	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 〃 オリーブ黒色	①②ナデ。③胴部上位で屈曲し、内傾して口縁部に向かう。外面断面三角形の刻目突帯。	
223	〃	〃	縄文土器 浅鉢	21.1	(3.0)	-	褐灰色 灰黄褐色 灰オリーブ色	①②ヘラミガキ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
224	II区	包含層	弥生土器 壺	-	(2.2)	10.6	浅黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色/橙色	①ナデ。工具痕が認められる。②ナデ。③やや突出する平底。胎土微細ガラスを含む。	
225	〃	〃	土師器 杯	-	(1.5)	7.2	浅黄褐色 〃 〃	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③薄い円盤状の底部。体部は直線的に立ち上がる。胎土微細な褐色砂粒を含む。	
226	〃	〃	土師器 杯	-	(1.6)	6.8	灰白色 〃 灰色	①摩耗。②回転ナデ。③柱状高台風の底部。体部は内湾して立ち上がる。	
227	〃	〃	土師器 杯	-	(1.7)	6.5	浅黄褐色 黄褐色 淡黄色	①②ナデ。③低い柱状高台風の底部。底部切り離しは摩耗により不明瞭。	
228	〃	〃	土師器 碗	-	(1.9)	6.6	淡黄色 〃 〃	①②摩耗。③低い柱状高台風の底部。高台外面はユビオサエにより凹凸をなす。体部は内湾して立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
229	〃	〃	土師器 碗	-	(1.7)	6.2	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台は垂直に近い角度で下がり、端部は面をなす。面内に沈線状の線1条を有する。体部は内湾して立ち上がる。	
230	〃	〃	土師器 羽釜	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③鏝部は下膨れで短く上がり、端部は中央がやや凹む面をなす。胎土微細な褐色及び白色の砂粒を含む。鏝部径24.5cm。	
231	〃	〃	須恵器 甕	-	(8.3)	-	灰色 〃 〃	①同心円状当具痕。②タタキ後ハケ。③胴部の破片。胎土微細な白色砂粒を含む。	
232	〃	〃	須恵器 高杯	-	(2.3)	-	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③脚部はハの字状に開く。脚部杯部境界は丸みを帯びて屈曲する。杯部は直線的に上がる。	
233	〃	〃	須恵器 碗	15.4	(1.9)	-	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く収め、外縁はやや稜をなす。	
234	〃	〃	青磁 碗	-	(2.2)	-	灰白色 〃 〃	③内面体部下位に沈線が1条巡る。内面施釉。外面体部下位及び高台露胎。精良な胎土。	
235	〃	表採	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	灰白色 〃 暗灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
236	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	にぶい黄褐色 〃 灰色	①ナデ。②丁寧なナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
237	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなして外側をやや拡張する。口縁端部に刻目。外面断面カマボコ形の刻目突帯。	
238	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	灰白色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。	
239	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	橙色 〃 灰オリーブ色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
240	〃	〃	縄文土器 深鉢	23.0	(3.9)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 暗灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は粗放な面をなす。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
241	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.2)	-	灰黄褐色 黒褐色 灰黄色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で屈折して口縁部は内傾して上がる。口縁部上位で垂直方向に屈曲して上がり、端部は丸く収める。外面口縁部に残存部で2条の沈線が巡る。	
242	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.7)	-	灰黄褐色 黒褐色 暗灰色	①ヘラミガキ。②ナデ。③胴部は直線的に外上方に上がり、上位で屈折して口縁部は外上方に上がる。	
243	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.1)	-	褐灰色 黄灰色 にぶい黄褐色	①②ヘラミガキ。③胴部上位～口縁部に向けて外反する。口縁部付近に補修孔とみられる焼成後穿孔。胎土金雲母片、0.5mm程度の白透色砂粒、微細ガラスを含む。	搬入品

Ⅱ区 遺物観察表 244～246

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
244	Ⅱ区	表採	須恵器 杯	-	(2.3)	-	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは内傾して上がり、端部は細く仕上げる。受部は水平に短く伸び、端部は丸く収める。	
245	〃	〃	須恵器 捏鉢	-	(4.8)	-	灰色 〃 明青灰色	①②回転ナデ。③胴部上位は直線的に上がり、屈曲して口縁部は上方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
246	〃	〃	土製品 不明	全長 (1.4)	全幅 (1.3)	全厚 0.4	橙色 〃 〃	①②ナデ。③外面にマス形の模様を有する。器面は僅かに外反する。精良な胎土。	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量 (cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
35	II区	ST1	楔形石器	1.7	1.5	0.7	剥片を利用する。断面は凸レンズ状を呈する。表面と裏面で直交する軸方向の対向剥離が認められる。チャート製。重量 2g	
36	〃	〃	石錐	3.6	3.0	0.6	敲打により獲得した剥片を利用する。表面に対向剥離が認められる。チャート製。重量 4g	
37	〃	〃	石錘	4.0	1.6	1.7	断面三角形の円礫を素材とする。両端部に糸を巻き付けた痕跡が残る。褐色に発色する。粗粒砂岩製。重量 9g	
38	〃	〃	叩石	6.4	5.8	3.8	円礫を素材とする。一端が面をなす。面の外縁に被熱赤変が認められる。片面はやや凹面をなし、細かい凹凸がみられる。側縁に敲打痕が残る。重量 171g	
39	〃	〃	台石	18.0	15.3	7.4	円礫を台石として利用したものと考えられる。表面は凸状に丸みを帯び、裏面はやや平坦面をなす。表裏面に敲打痕が残る。粗粒砂岩製。重量 3,543g	
40	〃	〃	被熱礫	31.0	29.6	14.2	亜円礫。両側面に割口がみられる。原礫面の外縁付近を中心に被熱赤変が認められる。粗粒砂岩製。重量約 16kg	
52	〃	SX4	叩石	16.9	20.0	5.3	扁平な円礫を素材とする。表面に敲打痕が認められる。側面に敲打による凹みがみられる。表面の側縁部及び割口付近に被熱赤変が認められる。中粒砂岩製。重量 2,452g	
115	〃	V層	石鏃	1.4	1.4	0.2	押圧剥片を用いる。五角形状を呈する。基部は凹状を呈する。先端の一部を欠く。両側面の輪郭は曲線的。サヌカイト製。重量 1g 未満	
116	〃	〃	不明	2.7	0.8	0.4	二次加工が認められる剥片。サヌカイト製。重量 1g	
117	〃	〃	不明	2.9	1.1	0.9	角柱状を呈し、端部は丸みを帯びる。一端は欠損する。端部に細かい敲打痕が認められ、僅かに赤色顔料の痕跡が残る。細粒砂岩製。葉理が観察される。重量 4g	
118	〃	〃	石斧	7.6	2.6	1.0	短冊状を呈し、刃部に向けやや幅を減じる。両刃を呈する。基部を面取りする。両側縁は丸みを帯び、面取りが明瞭でない。重量 33g	
119	〃	〃	不明	9.0	6.1	1.6	板状の亜円礫を素材とする石器か。表裏面及び側面に赤色顔料が明瞭に残る。泥岩製。重量 109g	
138	〃	V・VI層	石斧か	6.8	1.2	0.6	棒状を呈する。細い基部から刃部に向けて幅を増す。基部は面取りする。刃部は欠損するとみられる。結晶片岩製。重量 8g	
139	〃	〃	搔器	9.3	5.1	1.2	敲打により分割した扁平な礫を素材とする。刃部の片面には使用によるとみられる剥離が認められる。頁岩製。重量 80g	
203	〃	VI層	石鏃	1.7	1.3	0.2	剥片を加工する。先端の一部を欠く。風化が著しい。サヌカイト製。重量 1g 未満	
204	〃	〃	楔形石器	2.2	2.0	0.7	剥片を利用する。表面と裏面で直交する軸方向の対向剥離が認められる。チャート製。重量 3g	
205	〃	〃	石錐	3.3	0.7	0.7	棒状の剥片。両面から敲打を施す。サヌカイト製。重量 1g	
206	〃	〃	搔器	7.5	2.3	1.1	基部付近の両側縁に抉入を形成する。片側の端部に使用によるとみられる微細剥離が連続して認められる。サヌカイト製。重量 15g	
207	〃	〃	叩石	11.4	7.0	5.6	扁平な円礫を素材とする。約 1/2 は欠損する。表裏面の中央付近及び両側縁に敲打痕が残る。片側の側縁に赤色顔料の痕跡が残る。中粒砂岩製。重量 601g	
208	〃	〃	叩石	11.0	6.3	4.9	扁平な円礫を素材とする。約 1/2 は欠損する。端部に敲打痕が残る。中～粗粒砂岩製。重量 432g	

Ⅱ区 遺物観察表 石製品

番号	調査区	遺構層位	器形	法量 (cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
209	Ⅱ区	Ⅵ層	叩石	11.6	6.5	5.4	扁平な円礫を素材とする。約 1/2 は欠損する。表面の中央付近に敲打痕が残る。中粒砂岩製。重量 499g	
210	〃	〃	叩石	9.6	5.9	3.5	敲打により割れる。表裏面に敲打痕及び擦痕、側縁に敲打痕が認められる。中粒砂岩製。重量 272g	
211	〃	〃	叩石	10.7	10.2	5.1	円礫を素材とする。表面の中央が凹む。側面の全周に敲打痕が明瞭に残る。繰り返される敲打により周縁がつぶれて面をなす。裏面に僅かに擦痕が残る。砂岩製。重量 789g	
247	〃	表採	台石	17.6	11.3	8.1	円礫を素材とする。表面は丸みを帯びた稜をなし、裏面は平坦面をなす。平坦面及び側縁部に敲打痕が残る。粗粒砂岩製。重量 2,221g	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 1	TR2	II 層	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は外傾する面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 2	〃	〃	弥生土器 ミチユア土器	6.0	(3.0)	-	橙色 にぶい橙色 橙色	①丁寧なナデ。②ヘラミガキ。③壺形の土器。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は丸く収める。	
I 3	〃	〃	土師質土器 椀	-	(1.7)	4.6	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③円盤状高台。底部切り離しは摩耗により不明瞭。	
I 4	〃	〃	土師質土器 椀	-	(1.5)	5.8	浅黄橙色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③貼付けによる輪高台。高台はやや内湾して下がり、端部は面をなす。	
I 5	〃	〃	土師質土器 椀	-	(1.4)	7.4	灰白色 〃 〃	①②摩耗。③貼付けによる輪高台。高台端部は面をなす。	
I 6	〃	〃	土師質土器 椀	-	(1.1)	8.2	浅黄橙色 〃 黄灰色	①摩耗。②回転ナデ。③貼付けによる輪高台。高台端部は面をなす。	
I 7	〃	〃	土師質土器 椀	-	(1.3)	5.6	黄色 浅黄色 灰白色	①②摩耗。③紐状の輪高台を貼付する。内面底部はやや凹む。	
I 8	〃	〃	土師質土器 皿	7.6	1.5	5.8	橙色 〃 〃	①摩耗。②回転ナデ。③小皿。平底。口縁端部は丸く収める。底部切り離しは摩耗により不明瞭。胎土微細ガラスを含む。	
I 9	I 区	SK1 検出面	弥生土器 甕	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、外側に折り返してやや肥厚させる。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 10	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.3)	-	褐色 〃 〃	①②ナデ。③胴部上位はやや内湾して内側に上がる。外面筋状の凸線が巡る。胎土 1mm 程度までの金雲母片及び微細ガラス多含。	
I 11	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	橙色 〃 にぶい橙色	①②粗いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。口縁端部に浅い刻目。外面断面台形の刻目突帯。	
I 12	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.4)	-	黄灰色 浅黄色 褐灰色	①ヘラミガキ。②丁寧なナデ。③口縁端部は粗放な面をなす。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 13	〃	SK1 1 層	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい橙色 灰褐色 浅黄橙色	①②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 14	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③胴部上位は僅かに外反して口縁部に向かう。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 15	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.7)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄色 灰褐色	①②ナデ。③平底。底部外縁はやや稜をなし、胴部は直線的に外上方に上がる。内傾接合痕。	
I 16	〃	SK1 2 層	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 にぶい赤褐色	①②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
I 17	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄褐色 〃 灰色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で段状に屈曲し、口縁部は外反して開く。波状口縁。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。内面 1 条沈線が巡る。	
I 18	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.9)	-	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	①②条痕。③胴部は僅かに内湾して上がる。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 19	〃	SK1 3 層	縄文土器 深鉢	-	(4.7)	-	にぶい黄褐色 明黄褐色 灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒多含。	
I 20	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土 0.5mm 大の角閃石及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 21	I 区	SK1 3層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	黒褐色 褐灰色 〃	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 22	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	灰黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 23	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.3)	-	にぶい黄橙色 灰黄褐色 灰色	①②条痕。③胴部は直線的に上がる。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 24	〃	SK1 4層	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	にぶい黄橙色 〃 灰白色	①②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 25	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.4)	-	灰黄褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部は外反気味に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内面口縁部に焼成後の非貫通穿孔。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 26	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	橙色 明赤褐色 〃	①②ナデ。③胴部上位はやや外反して口縁部に向かう。外面断面三角形の低い刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 27	〃	SK2	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 28	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.8)	-	黒褐色 〃 〃	①ヘラミガキ。②ナデ。③口縁部はやや内湾して上がり、端部は丸く収める。波状口縁。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 29	〃	SK3	縄文土器 深鉢	-	(5.9)	-	褐灰色 浅黄橙色 〃	①②条痕。③胴部は直線的に上がる。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 30	〃	SK4	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	黒褐色 にぶい橙色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 31	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい黄褐色 〃 にぶい褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上方に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外面断面円形の紐状の刻目突帯を貼付する。胎土微細ガラスを含む。	
I 32	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい橙色 にぶい褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に浅い刻目。外面断面台形の刻目突帯。	
I 33	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.9)	-	黒褐色 にぶい黄色 〃	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部はやや尖気味に丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。突帯の上方に1ないし3条の沈線。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 34	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	暗灰黄色 にぶい黄色 オリーブ黒色	①②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収めて外側を僅かに肥厚させる。肥厚部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 35	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	黒褐色 にぶい褐色 〃	①②ナデ。③口縁端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に浅い刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 36	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.1)	-	浅黄色 浅黄褐色 〃	①②ナデ。③胴部は直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 37	〃	SX4	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	黄灰色 明黄褐色 灰色	①②ナデ。③胴部は直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 38	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	にぶい黄橙色 黄灰色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 39	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.9)	-	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は強く外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。胎土0.5mm程度までの角閃石を含む。	
I 40	〃	SX5	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	黒褐色 にぶい褐色 褐灰色	①②粗いナデ。③口縁部はやや内湾し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 41	I 区	SX5	縄文土器 深鉢	32.7	(2.3)	—	褐灰色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。	
I 42	〃	SX6	縄文土器 深鉢	—	(1.9)	—	黄灰色 暗灰黄色 灰色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁端部は尖気味に仕上げる。口縁端部外縁に刻目。内面口縁部に1条沈線。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 44	〃	SX7 検出面	縄文土器 深鉢	—	(4.3)	—	浅黄橙色 〃 暗オリーブ灰色	①②ナデ。③胴部上位は僅かに内湾して上がる。外面断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度までの白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 45	〃	〃	縄文土器 浅鉢	21.7	(2.2)	—	褐灰色 黒褐色 灰黄褐色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で屈曲して口縁部は内傾して上がる。口縁部上位で垂直方向に屈曲して上がり、端部は丸く収める。外面胴部屈曲部の上側に1条沈線。	
I 46	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(4.4)	—	浅黄色 〃 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に線状の刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 47	〃	SX7 1層	縄文土器 深鉢	—	(3.4)	—	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 48	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(5.0)	—	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②条痕。③口縁部は外反し、端部は面をなして外側に拡張する。口縁端部外縁に線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 49	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(3.2)	—	褐灰色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③胴部上位はやや内湾する。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 50	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(4.3)	—	黄灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 51	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(5.1)	—	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 〃	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③胴部～口縁部はやや内湾して上方に上がる。口縁端部はやや尖気味に丸く収める。口縁端部に刻目。	
I 52	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(7.8)	—	黒褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②条痕。③胴部は緩やかなS字状に湾曲する。内傾接合痕。外面突帯が存在する可能性有。胎土微細ガラスを含む。	
I 53	〃	SX7 2層	縄文土器 深鉢	—	(7.6)	—	にぶい黄褐色/黒褐色 にぶい黄褐色/灰黄褐色 にぶい黄褐色	①②ナデ。③胴部上位は緩やかに屈曲し、口縁部に向けて上方に上がる。外面胴部屈曲部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
I 54	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(3.7)	—	褐灰色 にぶい黄橙色 灰色	①②条痕。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 55	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(4.4)	—	暗灰黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③胴部は内湾する。外面条線文。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 56	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(7.4)	—	褐灰色 にぶい橙色 黄灰色	①②条痕。③外面条線文。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 57	〃	SX7 3層	縄文土器 深鉢	19.8	(7.4)	—	黒色 褐灰色 にぶい赤褐色	①粗いナデ。②条痕。③胴部上位で緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 58	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(1.8)	—	オリーブ黒色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 59	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(2.4)	—	にぶい黄色 〃 暗灰黄色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に浅い刻目。外面断面扁平な三角形の刻目突帯。	
I 60	〃	〃	縄文土器 深鉢	—	(3.3)	—	黄灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 61	〃	SX7	縄文土器 深鉢	—	(3.9)	—	にぶい黄色 浅黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に斜位の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 62	I 区	SX7	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	黒褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 63	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	黄灰色 〃 褐灰色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 64	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	橙色 灰黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 65	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.7)	-	灰黄褐色 黒褐色 灰黄褐色	①ナデ。②ヘラミガキ。③口縁部は僅かに内湾して上がり、端部は面をなす。胎土金雲母片を若干含む。微細ガラスを含む。	
I 66	〃	SX8	縄文土器 深鉢	-	(7.0)	-	暗灰黄色 〃 黒色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は尖気味に仕上げる。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
I 67	〃	〃	縄文土器 深鉢	31.0	(7.5)	-	灰黄色 灰黄褐色 暗褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土 1.5mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 68	〃	SX9	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	暗灰黄色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	①②条痕。③胴部はやや内湾して上がる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 69	〃	SX10	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄橙色 暗灰黄色 浅黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 70	〃	SX11	縄文土器 深鉢	-	(6.7)	-	灰色 明赤褐色 灰色	①②ナデ。③胴部はやや内湾する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 71	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.1)	-	灰黄褐色 にぶい黄橙色 暗灰色	①ヘラミガキ。②丁寧なナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放な面をなす。波状口縁とみられる。内面口縁部に1条沈線。	
I 72	〃	〃	弥生土器 甕か	-	(1.3)	-	にぶい橙色 〃 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は外方に開き、端部は面をなす。口縁端部内縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 73	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.3)	-	橙色 にぶい橙色 〃	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。	
I 74	〃	SX13	縄文土器 深鉢	-	(1.2)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②剥離。③口縁端部は面をなし、内面寄りに沈線状の凹みが認められる。	
I 75	〃	SX15	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	黒褐色 黄褐色 黄灰色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放な面をなす。口縁端部外縁に線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 76	〃	SX16	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	黄灰色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に仕上げる。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 77	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	浅黄色 灰黄褐色 オリーブ黒色	①ナデ。②条痕。③胴部上位に補修孔とみられる外面からの焼成後穿孔。	
I 78	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.1)	-	黒褐色 灰褐色 〃	①ナデ。②粗いナデ。③胴部は直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 79	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(3.7)	-	暗灰黄色 灰黄褐色 黒褐色	①ヘラミガキ。②ナデ。③胴部は直線的に外上方に上がり、口縁部はやや屈曲する。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。波状口縁。口縁部の内外面に1条沈線。胎土微細ガラスを含む。	
I 80	〃	SX17	縄文土器 深鉢	-	(4.7)	-	黒褐色 灰黄褐色 灰色	①粗いナデ。②条痕。③胴部は僅かに内湾する。内傾接合痕。	
I 81	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	浅黄褐色 にぶい橙色 灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 82	I 区	SX17	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	黄灰色 橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 83	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面口縁部に扁平な刻目突帯。内傾接合痕。	
I 84	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(6.6)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面断面カマボコ形の刻目突帯。外面条線文。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 85	〃	SX18	弥生土器 壺	15.2	(2.2)	-	にぶい橙色 〃 灰オリーブ色	①②ヘラミガキ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。	
I 86	〃	P8	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄褐色 〃 暗青灰色	①粗いナデ。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 87	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	灰黄褐色 浅黄橙色 暗灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収めて外側をやや拡張する。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 88	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	暗灰黄色 〃 褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 89	〃	P14	縄文土器 深鉢	18.0	(4.8)	-	黒褐色 灰色 黒褐色	①粗いナデ。②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 90	〃	P30	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	黒褐色 浅黄色 〃	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 91	〃	P36	弥生土器 甕	-	(7.4)	-	浅黄橙色 にぶい黄褐色 褐色	①ナデ。②ハケ・ユビオサエ。③胴部上位で擬口縁状に断面平坦面をなす。	
I 92	〃	P45	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	褐色 黒褐色 褐色	①②ナデ。③胴部は直線的に上がる。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 93	〃	P70	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	暗灰褐色 にぶい黄褐色 浅黄橙色	①②ナデ。③胴部上位は内傾して上がり、やや角度を変えて口縁部は上方に上がる。口縁端部は丸く収め、外側を僅かに肥厚させる。外面口縁部に1条沈線。	
I 94	〃	P71	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	にぶい黄色 〃 にぶい黄褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 95	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	暗オリーブ褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 98	〃	火処4	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	にぶい黄褐色 〃 オリーブ黒色	①ナデ。②条痕。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。内傾接合痕。	
I 99	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 100	〃	〃	縄文土器 深鉢	28.4	(6.9)	-	浅黄色 明黄褐色 灰色	①②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は尖気味に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土1.5mm程度までの白透色砂粒を含む。	
I 101	〃	包含層	土師器 羽釜	-	(1.0)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	②鏝部ナデ③鏝部は水平に伸び、端部は面をなす。面内に1条の浅い沈線状の線。胎土微細ガラス多含。	
I 102	〃	〃	弥生土器 壺	-	(1.1)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に短く開き、端部は丸く収める。	
I 103	〃	〃	弥生土器 壺	-	(3.3)	-	橙色 にぶい黄褐色 〃	①②ナデ。③外面胴部上位に多条沈線。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 104	I 区	包含層	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ。③外面胴部上位に1条沈線。胎土微細ガラスを含む。	
I 105	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰色	①ナデ。②ハケ・ヘラミガキ。③外面胴部上位に残存部で3条の沈線。胎土微細ガラス多含。	
I 106	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	にぶい橙色 〃 〃	①②ナデ。③平底。	
I 107	〃	〃	弥生土器 甕	-	(5.0)	-	にぶい黄橙色 灰黄色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部に深い刻目。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	西見当式
I 108	〃	〃	弥生土器 甕	17.7	(4.0)	-	褐灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③胴部上位～口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	西見当式
I 109	〃	〃	弥生土器 甕	-	(6.3)	-	にぶい橙色 褐灰色 灰黄色	①ナデ。②横位ハケ後縦位ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は緩やかに外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	西見当 I 式
I 110	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.7)	-	にぶい橙色 〃 灰白色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。	西見当式
I 111	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目。	
I 112	〃	〃	弥生土器 甕	-	(7.4)	-	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。外傾接合痕。	
I 113	〃	〃	弥生土器 甕	-	(4.6)	8.2	橙色 〃 にぶい褐色	①ナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③平底。	
I 114	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.5)	4.0	にぶい黄橙色 〃 暗灰黄色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③平底。底部外縁はやや丸みを帯びる。	
I 115	〃	V 層	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄橙色 〃 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 116	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。突帯の上下は沈線状に凹む。内傾接合痕。	
I 117	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 〃 暗灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 118	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰黄褐色 褐灰色 灰黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗な面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 119	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	黒色 暗褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 120	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	にぶい黄橙色 〃 オリーブ黒色	①②条痕。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 121	〃	VI - 1・ 2 層	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	灰黄色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土 0.5 mm 程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 122	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.4)	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰黄色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は尖気味に仕上げる。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 123	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	オリーブ黒色 淡黄色 灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 124	I区	VI-1・2層	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	オリーブ黒色 灰白色 褐灰色	①②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 125	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	灰白色 淡黄色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 126	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい橙色 〃 黄灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
I 127	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は丸く収める。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 128	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収めて外側を肥厚させる。口縁端部に刻目。	
I 129	〃	VI-3層	縄文土器 深鉢	-	(1.9)	-	暗灰黄色 〃 褐灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 130	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	オリーブ黒色 黒褐色 灰褐色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。内傾接合痕。	
I 131	〃	〃	土製品 不明	全長 (3.4)	全幅 (2.1)	全厚 (0.6)	にぶい赤褐色 〃 灰色	①②ヘラミガキ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。両面に赤色顔料を塗布する。胎土0.5mm程度の角閃石を含む。微細ガラス多含。	
I 136	〃	V層	土師質土器 皿か杯	15.8	(1.3)	-	浅黄橙色 〃 〃	①②摩耗。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。	
I 145	〃	V・VI層	弥生土器 壺	-	(1.6)	-	浅黄橙色 〃 暗灰色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面の一部及び外面に赤色顔料が付着する。	
I 146	〃	〃	弥生土器 壺	-	(3.1)	-	にぶい橙色 〃 灰黄褐色 〃 灰色	①②ナデ。③胴部上位に抉りによる段を有する。胎土1.5mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 147	〃	〃	弥生土器 甕	28.0	(1.8)	-	浅黄褐色 〃 にぶい黄褐色 〃 暗オリーブ灰色	①ナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は面をなして下端をやや拡張する。口縁部下端に刻目。	
I 148	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。	西見当式
I 149	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.4)	-	にぶい黄褐色 〃 灰色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は面をなす。口縁部外縁に刻目。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	西見当式
I 150	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.5)	-	にぶい黄褐色 〃 浅黄褐色	①②口縁部ヨコナデ。③貼付口縁。口縁部は水平な面をなし、外側に拡張する。	非在地系か
I 151	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.0)	-	灰黄色 浅黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③外面2条沈線による区画内に刺突文を施す。	
I 152	〃	VI層	弥生土器 壺	-	(3.6)	12.0	にぶい黄褐色 〃 にぶい橙色 〃 灰黄褐色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③平底。胎土微細ガラスを含む。	
I 153	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.2)	7.0	〃 〃 褐色	①ナデ。②ハケ。底部ナデ。③平底。底部外縁は外側にやや張り出す。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 154	〃	包含層	弥生土器 甕	-	(2.3)	-	〃 にぶい橙色 〃	①ナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 155	〃	V・VI層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	暗灰黄色 浅黄褐色 暗灰黄色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。口縁部内外縁に半裁竹管による刻目。外面口縁部に多条沈線。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 156	I 区	V・VI 層	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	橙色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収めて外側でやや稜をなす。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 157	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰白色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面断面扁平な三角形の刻目突帯。	
I 158	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	灰色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土白色砂粒を含む。	
I 159	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 160	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 161	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	オリーブ黒色 にぶい黄橙色 黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は薄い面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 162	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反する。口縁端部は面をなし、外側をやや拡張する。外面断面カマボコ形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 163	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.2)	-	黒褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	①条痕。②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度までの白透色砂粒を含む。	
I 164	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.7)	-	淡黄色 灰色 〃	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放な面をなす。外面口縁部付近に断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 165	〃	〃	縄文土器 深鉢	30.7	(15.3)	-	灰黄褐色 にぶい褐色 褐灰色	①②条痕。③胴部上位は内傾し、口縁部は上方に上がる。口縁端部は尖気味に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 166	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.0)	-	橙色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は細く仕上げる。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 167	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 灰白色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部に浅い線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 168	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は中央がやや凹む面をなす。口縁端部は突帯状に拡張し、刻目を施す。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 169	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	黒色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 170	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.8)	-	灰黄褐色 黄褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 171	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.7)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 172	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。内面口縁部に1条沈線。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 173	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	黄灰色 にぶい褐色 褐灰色	①②条痕。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 174	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 175	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	灰黄褐色 〃 〃	①粗いナデ。②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 176	I 区	V・VI 層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 灰黄褐色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
I 177	〃	〃	縄文土器 浅鉢	17.4	(5.5)	-	黒褐色 〃 〃	①②ヘラミガキ。③口縁部は上方に上がり、端部は水平な面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
I 178	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.8)	-	にぶい橙色 〃 黒褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。波状口縁の可能性有。内面口縁部に1条沈線。	
I 179	〃	〃	縄文土器 壺	-	(2.5)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ヘラミガキ。③胴部上位～口縁部にかけて内傾して上がる。外面1条沈線。胎土微細ガラスを含む。	変容壺
I 180	〃	VI 層	縄文土器 深鉢	-	(1.6)	-	灰黄褐色 暗灰黄色 〃	①②条痕。③口縁端部は細く仕上げる。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 181	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	暗灰色 〃 〃	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁端部は粗放な面をなす。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 182	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	暗灰黄色 灰白色 暗灰色	①ナデ。②摩耗。③口縁部は上方に上がり、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 183	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	①②条痕。③口縁端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 184	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	灰黄褐色 〃 褐色	①ナデ。②条痕。③口縁端部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面断面台形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 185	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい黄褐色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。口縁端部に線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 186	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	黄灰色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③波状口縁とみられる。口縁端部は丸く収める。口縁端部に浅い線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 187	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.3)	-	黒褐色 灰黄褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③外面斜位の2条沈線。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 188	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	明褐色 灰褐色 黄灰色	①②条痕。③胴部上位は内湾する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 189	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.9)	-	褐色 にぶい橙色 褐色	①ナデ。②摩耗。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 190	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.9)	-	にぶい橙色 〃 黒褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。波状口縁とみられる。内面及び外面口縁部に1条沈線。胎土0.5mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 191	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.4)	-	黒褐色 灰黄褐色 黒色	①ヘラミガキ。②丁寧なナデ。③口縁部は短く外反する。波状口縁とみられる。口縁端部は狭く粗放な面をなす。口縁端部に刻目。内面口縁部に凹線状の線が巡る。	
I 192	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(4.5)	-	にぶい黄褐色 〃 オリーブ黒色	①②ヘラミガキ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 193	〃	〃	土製品 不明	全長 5.8	全幅 5.8	全厚 1.2	灰褐色 橙色 にぶい赤褐色	①②ナデ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。	
I 201	〃	包含層	弥生土器 壺	-	(2.5)	-	橙色 〃 〃	①ナデ。②ハケ・ナデ。③外面胴部上位に削り出しによる段を形成する。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 202	〃	〃	弥生土器 壺	-	(2.8)	-	橙色 〃 にぶい黄褐色	①ナデ。②ハケ。③外面胴部上位に残存部で1条の沈線。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 203	I 区	包含層	弥生土器 壺	-	(3.6)	9.2	にぶい赤褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②ナデ。ヘラミガキ。③平底。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含む。	
I 204	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.5)	7.5	灰黄褐色 にぶい橙色 にぶい橙色/灰黄褐色	①②ナデ。③平底。胎土 1.5mm 程度までの白透色砂粒を含む。	
I 205	〃	〃	弥生土器 甕	-	(5.5)	7.6	灰黄色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ・ユビナデ。②ナデ。③やや突出する平底。	
I 206	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.3)	7.4	橙色 〃 灰黄褐色	①②ナデ。③やや突出する平底。底部外縁は外側に僅かに拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
I 207	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.5)	-	にぶい橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部に指頭圧痕。③頸部で屈曲し、口縁部は外上方に短く開く。貼付口縁。口縁端部は面をなす。	
I 208	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.5)	-	にぶい橙色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は外上方に短く上がり、端部は面をなす。口縁部外縁に深い刻目。	西見当式
I 209	〃	〃	弥生土器 甕	-	(4.5)	-	灰黄色 浅黄色 灰黄色	①ナデ。②ハケ。口縁部ユビオサエ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部に押圧による浅い刻目。外面 2 条沈線。外傾接合痕。	西見当 II 式
I 210	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.3)	-	明黄褐色 にぶい黄橙色 〃	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外傾接合痕。胎土 1.5mm 程度までの白透色砂粒を含む。	西見当式
I 211	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.7)	-	にぶい黄橙色 〃 灰白色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。胎土 1.5mm 程度までの白透色砂粒を含む。	西見当式
I 212	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ナデ。③外面断面三角形の突帯。外傾接合痕。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含む。	
I 213	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.2)	-	橙色 〃 灰黄色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。	西見当式
I 214	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	明黄褐色 にぶい黄橙色 〃	①②ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く収め、外側に折り返して肥厚させる。口縁端部に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 215	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 〃	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。口縁端部及び外面口縁部下位に刺突状の刻目を施す。胎土 1mm 程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	西見当式
I 216	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.3)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③外面刻目を伴う段部を有する。外傾接合痕。	
I 217	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.7)	-	にぶい黄橙色 〃 にぶい黄橙色/褐灰色	①②ナデ。③口縁部は短く外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。	西見当式
I 218	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.2)	-	にぶい褐色 にぶい橙色 灰黄褐色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収め、外側に肥厚させる。外面口縁部肥厚部に刻目。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 219	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.1)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部外縁に線状の刻目。外傾接合痕。	
I 220	〃	〃	弥生土器 甕	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 221	〃	〃	縄文土器 深鉢	28.9	(3.3)	-	にぶい橙色 浅黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含む。	
I 222	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	オリーブ黒色 褐灰色 〃	①②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 223	I 区	包含層	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。	
I 224	〃	〃	縄文土器 深鉢	22.8	(3.4)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 暗灰黄色	①②ナデ。③口縁部はやや内傾して上がり、端部は面をなす。口縁端部内縁に刻目。内面口縁部に1条沈線。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。胎土0.5mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 225	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 226	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 褐色灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は尖気味に仕上げる。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土1.5mm程度までの白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 227	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 褐色灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 228	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 黄灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は尖気味に丸く収めて外側をやや肥厚させる。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 229	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	黒褐色 灰黄褐色 褐色灰色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部は粗放に丸く収める。口縁端部に深い線状の刻目を疎に施す。外面刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 230	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	黒褐色 にぶい橙色	①ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁端部は面をなす。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 231	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	暗灰黄色 黄褐色 灰黄褐色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。内傾接合痕。	
I 232	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	浅黄色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収め、外側でやや稜をなす。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 233	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁端部はやや尖気味に丸く収め、外側を薄く肥厚させる。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 234	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.5)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部に浅い線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土0.5mm程度までの金雲母片及び微細ガラスを含む。	
I 235	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	浅黄色 にぶい黄色 黄灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。胎土3mm程度までの白透色砂粒を含む。	
I 236	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯を2段貼付する。	
I 237	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	①②粗いナデ。③外面斜位の沈線が計3条みられる。内傾接合痕。	
I 238	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.8)	-	浅黄橙色 にぶい黄褐色 暗灰色	①②ナデ。③外面横位の沈線が1条みられる。内傾接合痕。	
I 239	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.5)	-	浅黄色 橙色 明黄褐色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 240	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	黄灰色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。口縁端部内外縁に線状の刻目。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 241	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 242	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①②ナデ。③外面扁平な刻目突帯。突帯の下側に粗雑な沈線。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 243	I 区	包含層	縄文土器 浅鉢	-	(2.2)	-	暗灰黄色 黒褐色 〃	①ヘラミガキ。②丁寧なナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目。内面口縁部に1条沈線。胎土微細ガラスを含む。	
I 244	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②丁寧なナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラス多含。	
I 245	〃	〃	土製品 不明	全長 3.7	全幅 3.5	全厚 0.5	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ヘラミガキ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。胎土微細ガラス多含。	
I 250	〃	〃	弥生土器 壺	-	(6.0)	-	橙色 〃 灰オリーブ色	①ナデ。②ヘラミガキ。③外面2条沈線の間に列点文。胎土1mm程度までの白透色砂粒及び角閃石を含む。	
I 251	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.8)	-	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい黄橙色	①ハケ・ナデ。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部外縁に刻目。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	西見当式
I 252	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.3)	-	浅黄色 〃 〃	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。口縁端部に刻目。	西見当式
I 253	〃	V・VI 層	縄文土器 壺	-	(3.5)	-	にぶい褐色 〃 オリーブ黒色	①②ヘラミガキ。③外面胴部上位で稜をなして屈曲し、口縁部は外上方に短く上がる。口縁端部は丸く収める。外傾接合痕。胎土0.5mm程度の金雲母片及び微細ガラスを含む。	
I 254	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄色 〃 暗灰黄色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収めて外側にやや拡張する。口縁端部に線状の刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 255	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.1)	-	明黄褐色 にぶい黄橙色 〃	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 256	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい橙色 橙色 赤橙色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 257	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.8)	-	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。口縁端部に線状の刻目。内面口縁部に粗雑な沈線が1条巡る。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 258	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	オリーブ黒色 暗灰黄色 暗灰色	①条痕。②口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや歪む。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に扁平な刻目突帯。	
I 259	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	灰黄褐色 にぶい黄色 黄灰色	①②粗いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は面をなす。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の刻目突帯。外面口縁部に朱が僅かに付着する。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 260	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	灰色 〃 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 261	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄褐色 〃 灰色	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 262	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.1)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反気味に開き、端部は細く仕上げ上げる。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。突帯の上位に刺突状の刻目。	
I 263	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(6.0)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 にぶい橙色	①粗いナデ。②縦位の条痕。③内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 264	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	暗灰黄色 〃 黄灰色	①②ナデ。③外面残存部に複数条を1単位とする縦位の沈線を複数施す。胎土微細ガラスを含む。	
I 265	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	橙色 にぶい黄褐色 褐灰色	①ナデ。②条痕。③外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 266	〃	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	褐灰色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 267	I 区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.2)	-	浅黄橙色 〃 灰色	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土1mm程度までの白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 268	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	灰黄褐色 褐灰色 〃	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 269	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁部はやや歪む。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 270	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	暗灰黄色 にぶい黄色 灰色	①②条痕。③口縁部は外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 271	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は細く仕上げる。外面口縁部付近に断面カマボコ形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 272	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	暗灰黄色 浅黄色 黒褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は尖気味に丸く収める。口縁部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 273	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.5)	-	にぶい黄褐色 浅黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 274	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	黒褐色 暗灰黄色 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は丸く収める。口縁部に刻目。内面口縁部に深く幅広の沈線。外面口縁部に断面扁平な三角形の刻目突帯。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 275	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.4)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②条痕。③口縁部は尖気味に丸く収める。口縁部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土0.7mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 276	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	灰黄色 〃 暗灰色	①②ナデ。③口縁部は粗放な面をなす。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 277	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 浅黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は尖気味に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 278	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	灰色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。内面口縁部に凹線状の線が1条巡る。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 279	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.8)	-	にぶい橙色 橙色 灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は細く仕上げる。外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 280	〃	〃	縄文土器 深鉢	17.3	(5.7)	-	灰白色 灰黄褐色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部は外反し、端部は中央がやや凹む粗放な面をなす。口縁部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 281	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	にぶい黄褐色 浅黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。突帯の下側に直径3mm、間隔2cm程度の外面からの穿孔による孔列文。内傾接合痕。	孔列文 土器
I 282	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 283	〃	〃	縄文土器 深鉢	20.1	(7.3)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	①②条痕。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁部は粘土を内側にナデつける。口縁部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。	
I 284	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.2)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②条痕。③外面断面カマボコ形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 285	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	暗灰黄色 〃 灰黄色	①②ナデ。③口縁部は丸く収める。外面口縁部に断面扁平な三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 286	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	にぶい橙色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は上方に上がり、端部は面をなす。口縁部外縁に刻目。内傾接合痕。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 287	I 区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(5.5)	-	黒褐色 灰黄褐色 にぶい褐色	①②条痕。③内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 288	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(5.7)	-	にぶい黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。②ヘラミガキ。③外面 X 字状の斜行沈線の両側に刻目を施す。胎土 1mm 程度の白透色砂粒を含み、金雲母片を含む。微細ガラス多含。	北陸系
I 289	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.5)	-	暗灰黄色 灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③胴部上位はやや外反する。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 290	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.5)	-	にぶい黄橙色 暗灰黄色 黄灰色	①ナデ。②条痕。③口縁部は上方に上がり、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 291	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.3)	-	灰黄褐色 にぶい橙色 暗灰色	①ナデ。②粗いナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 292	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.9)	-	明黄褐色 〃 浅黄褐色	①②ナデ。③口縁端部は粗放な面をなす。外面爪状の押圧によるとみられる刻目を残存部で 2 段施す。	非在地系か
I 293	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.7)	-	黒褐色 〃 暗灰黄色	①②ヘラミガキ。③外面多条沈線。	北陸系
I 294	〃	〃	縄文土器 壺	-	(5.9)	-	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①②条痕。③胴部上位は緩やかな S 字状のカーブを描く。外面沈線文。内傾接合痕。外面炭化物附着。胎土微細な白色砂粒を含む。	変容壺
I 295	〃	包含層	弥生土器 壺	-	(3.9)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色 暗灰黄色	①②ナデ・ヘラミガキ。③口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。外面口縁部に段を作り出し、突帯状をなす。外傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 296	〃	〃	弥生土器 壺	-	(1.4)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土金雲母片、角閃石、微細ガラスを含む。	
I 297	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.4)	-	浅黄色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外傾接合痕。	西見当式
I 298	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.5)	-	にぶい黄橙色 〃 暗灰黄色	①②ナデ。③口縁端部は丸く収める。外面口縁部に断面カマボコ形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 299	〃	〃	弥生土器 甕	-	(1.2)	-	灰白色 浅黄橙色 暗灰色	①②ナデ。③口縁端部は粗放に丸く収め、外側を拡張する。口縁端部外縁に刻目。	
I 300	〃	〃	弥生土器 甕	-	(2.7)	-	にぶい黄色 にぶい黄橙色 〃	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は尖気味に丸く収める。	
I 301	〃	V・VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.6)	-	にぶい黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。胎土微細ガラスを含む。	
I 302	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	黒褐色 黄灰色 灰黄褐色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は粗放に丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 303	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 〃 オリーブ黒色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。線状の刻目は突帯の上下に延長する。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 304	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.5)	-	暗灰黄色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁端部は尖気味に丸く収める。口縁端部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。	
I 305	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.3)	-	橙色 にぶい橙色 〃 黄色	①②ナデ。③口縁端部は面をなす。口縁端部外縁に刻目。外面断面台形の刻目突帯。	
I 306	〃	〃	縄文土器 深鉢	25.0	(7.5)	-	にぶい黄色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部内外縁に刻目。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 307	I 区	V・VI 層	縄文土器 深鉢	—	(2.4)	—	灰黄褐色 にぶい褐色 ク	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 308	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(2.5)	—	にぶい黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 309	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(2.7)	—	黒褐色 にぶい褐色 灰褐色	①②条痕。③口縁部は僅かに外反し、端部は面をなす。口縁端部に浅い刻目。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 310	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(3.6)	—	にぶい黄褐色 ク オリーブ黒色	①②粗いナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放な面をなして外側を拡張する。口縁端部拡張部に刻目。外面口縁部付近に断面カムボコ形の刻目突帯。外傾接合痕。	
I 311	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(2.6)	—	橙色 にぶい橙色 灰オリーブ色	①②ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は粗放な面をなす。口縁端部に刻目。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。刻目は摩耗により不明瞭。	
I 312	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(1.9)	—	暗灰黄色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁端部は粗放に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 313	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(4.7)	—	暗灰黄色 にぶい黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなす。波状口縁とみられる。口縁端部内外縁に刻目。内面口縁部に1状沈線。胎土微細ガラス多含。	
I 314	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(4.8)	—	暗灰黄色 灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 315	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(2.1)	—	暗灰黄色 浅黄色 オリーブ黒色	①②ナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
I 316	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(1.7)	—	灰褐色 にぶい赤褐色 ク	①②丁寧なナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。	
I 317	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(1.7)	—	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	①②丁寧なナデ。③外面不規則に交差する斜行沈線。	
I 318	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(2.9)	—	灰黄色 浅黄褐色 灰黄色	①②ナデ。③外面直径5mm、間隔3cm程度の外面からの焼成前穿孔による孔列文。残存部の穿孔は非貫通に仕上げられる。	孔列文 土器
I 319	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(4.7)	—	浅黄色 灰黄色 黄灰色	①②条痕。③口縁部は外反し、端部は尖気味に丸く収める。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。線状の刻目は突帯の上半～口縁端部外縁にまで及ぶ。内傾接合痕。	
I 320	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(6.2)	—	黒褐色 暗褐色 灰褐色	①②ナデ。③口縁部はやや屈曲して上方に上がり、端部は丸く収めて外側に揃む。口縁端部に刻目。外面断面三角形の刻目突帯を2段貼付する。内傾接合痕。胎土微細ガラス多含。	
I 321	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(3.5)	—	黄灰色 浅黄褐色 黄灰色	①②ナデ。③外面凹線状の線が1条巡る。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 322	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(3.9)	—	にぶい橙色 灰黄褐色 にぶい橙色	①②粗いナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 323	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(4.6)	—	灰黄褐色／黒色 暗褐色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなして外側をやや肥厚させる。外面線状痕。内傾接合痕。	
I 324	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(2.7)	—	灰黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部に1条沈線。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 325	ク	ク	縄文土器 深鉢	—	(4.4)	—	黄灰色／灰白色 淡黄色 灰白色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は外側に丸く収める。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。やや焼成不良。	
I 326	ク	ク	縄文土器 浅鉢	—	(2.8)	—	灰黄褐色 褐色 明褐灰色	①②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。波状口縁とみられる。外面1条の線状痕。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 327	I 区	V・VI層	縄文土器 浅鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がる。外面多条沈線。	北陸系
I 328	〃	〃	縄文土器 浅鉢	18.9	(2.7)	-	明赤褐色 〃 黄灰色	①②ヘラミガキ。③口縁部は僅かに内湾して上方に上がり、端部は丸く収める。内外面に赤色塗彩を施す。内傾接合痕。胎土 0.7mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
I 329	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(4.4)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 にぶい赤褐色	①②ヘラミガキ。③胴部上位で逆くの字状に屈曲し、口縁部は内側に上がる。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。	
I 330	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(5.7)	-	にぶい褐色 〃 にぶい赤褐色	①ヘラミガキ。②丁寧なナデ。③胴部は内湾気味に外上方に上がり、上位で逆くの字状に屈曲する。	
I 331	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(4.2)	-	褐色 〃 褐色/灰オリーブ色	①②ヘラミガキ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。波状口縁とみられる。	
I 332	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(3.3)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 〃	①②ナデ。③口縁部は僅かに内湾して上がり、端部は丸く収める。	
I 333	〃	〃	縄文土器 浅鉢	32.2	(9.2)	-	灰黄褐色 灰褐色 褐灰色	①②ヘラミガキ。③胴部は内湾気味に上がる。胴部上位で逆くの字状に屈曲し、口縁部は外反気味に上方へ上がる。口縁端部は丸く収める。外面口縁部の一部に赤色顔料が付着する。	
I 334	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.4)	-	灰黄褐色 〃 〃	①②ヘラミガキ。③口縁部は僅かに内湾して上がり、端部は丸く収める。波状口縁とみられる。	
I 335	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.7)	-	にぶい赤褐色 〃 褐色	①②ヘラミガキ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面口縁部下位に沈線。	
I 336	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(1.6)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ヘラミガキ。②摩耗。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。波状口縁。内面1条沈線が巡る。	
I 337	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(4.0)	-	浅黄色 にぶい黄色 灰黄色	①②ヘラミガキ。③胴部は直線的に外上方に上がる。胴部上位で屈曲し、口縁部に向けて外上方に上がる。波状口縁とみられる。胎土 0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
I 338	〃	VI層	縄文土器 深鉢	-	(3.3)	-	明黄褐色 〃 灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁端部外縁に刻目。外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 339	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。口縁端部に刻目。外面刻目突帯。内傾接合痕。	
I 340	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.8)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 灰色	①②条痕。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面口縁部に断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 341	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.7)	-	褐灰色 灰黄褐色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。外面断面三角形の刻目突帯。胎土微細ガラスを含む。	
I 342	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.1)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 オリーブ黒色	①ナデ。②粗いナデ。③外面断面三角形の刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
I 343	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(3.9)	-	灰黄色 灰白色 暗灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部は外反し、端部は尖気味に丸く収める。口縁端部に刻目。外面口縁部付近に断面三角形の刻目突帯。	
I 344	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(4.2)	-	灰黄褐色 褐灰色 〃	①②条痕。③口縁部はやや外反し、端部は粗放に丸く収める。外面断面カマボコ形の刻目突帯。突帯は7mm程度外方に突出する。内傾接合痕。外面炭化物付着。	
I 345	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(2.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面断面扁平な三角形の刻目突帯。内傾接合痕。	
I 346	〃	〃	縄文土器 深鉢	-	(1.7)	-	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②粗いナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。口縁部はやや歪む。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
				口径	器高	底径			
I 347	I 区	VI層	縄文土器 深鉢	-	(5.2)	-	暗灰黄色 におい黄橙色 灰色	①②ナデ。③胴部上位は外反して上がる。外面扁平な刻目突帯。内傾接合痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	
I 348	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(5.0)	-	黄灰色 におい黄褐色 黄灰色	①ヘラミガキ。②ヘラケズリ・ヘラミガキ。③胴部は内湾気味に外上方に上がり、上位で逆くの字状に屈曲して口縁部に向かう。外面屈曲部の上側に1条沈線。胎土微細ガラス多含。	
I 349	〃	〃	縄文土器 浅鉢	-	(2.0)	6.8	黒褐色 明黄褐色 黄灰色	①ヘラミガキ。②底部及び胴部ヘラミガキ。③平底。底部外縁は稜をなす。胎土微細ガラスを含む。	
I 350	〃	〃	土製品 不明	全長 4.6	全幅 4.1	全厚 0.7	オリーブ黒色 暗灰黄色 黄灰色	①②ナデ。③円盤状の土製品。土器片を円形に整形する。胎土微細ガラスを含む。	

I 区 遺物観察表 石製品

番号	調査区	遺構層位	器形	法量 (cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
I 43	I 区	SX7 1層	石鏃	1.8	1.6	0.5	やや粗雑な作りの石鏃。凸レンズ状に中央部に厚みが残る。刃部形成の押圧剥離はやや不整で、自然による剥離も利用したとみられる。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 96	〃	火処 4	石鏃	1.2	1.1	0.4	平基の石鏃。平面二等辺三角形を呈する。両面摩擦が顕著。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 97	〃	火処 4	被熱礫	6.8	4.5	1.0	扁平な重円礫。平面形状は不整な長方形ないし平行四辺形で、角部は丸みを帯びる。片面に赤色顔料が付着する。微細ガラスを含む。粗粒砂岩製。46g	
I 132	〃	V層	石鏃	1.6	1.6	0.3	凹基の石鏃。平面正三角形に近い形状を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 133	〃	VI層	石鏃	1.6	1.3	0.3	僅かな凹状を呈する平基の石鏃。平面二等辺三角形に近い形状を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 134	〃	〃	楔形石器	2.1	2.0	0.3	青灰色ないし緑灰色の剥片を素材とする。両面軸方向を同じくする対向剥離により成形する。チャート製。重量 1g	
I 135	〃	包含層	礫石器	13.5	6.7	4.1	円礫を利用する。片面は中央がやや凸となる。長軸の両端に敲打痕が残る。泥岩ないし頁岩製。重量 542g	
I 137	〃	V層	自然礫	8.1	4.5	3.0	円礫。人為的な加工痕や擦痕等はみられない。緑色片岩製。重量 197g	
I 138	〃	VI層	石斧	2.5	2.1	0.4	小型の磨製石斧。両側縁をやや面取りする。刃部は僅かに弧を描く。蛇紋岩製。重量 3g	
I 139	〃	包含層	礫石器	6.3	3.3	2.1	楕円形の自然礫を利用する。一端に僅かな打痕が残る。片面及び長軸側縁に赤色顔料が斑に付着する。中粒砂岩製。重量 61g	
I 140	〃	VI層	石鏃	1.6	1.1	0.3	僅かな凹状を呈する平基の石鏃。平面二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 141	〃	〃	石鏃	1.2	1.2	0.3	僅かな凹状を呈する平基の石鏃。平面正三角形に近い二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 142	〃	〃	石鏃	1.1	1.4	0.2	凹基の石鏃。平面形は幅広の二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 143	〃	V層	石鏃	1.9	1.5	0.4	平基の石鏃。平面二等辺三角形を呈する。基部・刃部とも直線的な形状。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 144	〃	VI層	石鏃	1.7	1.3	0.3	薄い剥片を素材とする平基の石鏃。基部は僅かに弧状に張り出す。平面二等辺三角形を呈する。押圧剥離により刃縁を形成する。片面は押圧剥離の痕跡が少ない。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 194	〃	V・VI 層	石錐	3.8	3.5	0.4	薄い剥片を素材とする。尖端部を両側からの打撃により作り出す。サヌカイト製。重量 4g	
I 195	〃	V層	剥片石器	8.2	6.2	2.1	円礫を素材とする叩石を剥片石器として転用したものとみられる。表面及び側縁に敲打痕が残る。末端片は鋭利となり、部分的に微細なつぶれがみられる。微細ガラスを含む。中粒砂岩製。重量 93g	
I 196	〃	包含層	磨石	11.8	11.4	5.7	不整形の円礫を素材とする。一面を磨面とする。磨面は僅かな膨らみを持つ平坦面をなす。粗粒砂岩製。重量 696g	
I 197	〃	VI層	剥片石器	1.5	1.2	0.3	スクレイパー類の可能性のある剥片石器。片面がやや凸状を呈する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 198	〃	〃	石鏃	1.5	1.3	0.2	平基の石鏃。平面形は二等辺三角形を呈する。押圧剥離は刃縁周辺に留まる。サヌカイト製。重量 1g 未満	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量 (cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
I 199	I 区	VI層	石鏃	1.9	1.6	0.2	平基の石鏃。平面二等辺三角形を呈する。両面からの押圧剥離により刃縁を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 200	〃	〃	石斧	2.0	2.6	1.2	磨製石斧の刃部とみられる。片刃をなすとみられる。蛇紋岩製。重量 4g	
I 246	〃	〃	不明	2.4	1.4	1.4	水晶片。色調はやや白濁する透明色。一端が尖る。尖頭部は先端からの剥離が観察される。重量 5g	
I 247	〃	〃	搔器	1.6	1.2	0.3	平面三角形を呈する。二辺が直線で、一辺がやや弧状に張り出す。三辺とも片面からの急角度による剥離を連続させる。サヌカイト製。重量 1g 未満。	
I 248	〃	〃	石鏃	1.4	1.6	0.3	薄い剥片を素材とする凹基の石鏃。平面正三角形を呈する。刃部の二辺は僅かに弧状に張り出す。両面からの押圧剥離により刃部を形成する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 249	〃	〃	砥石	5.9	4.3	1.7	板状の礫を素材とする。三方向が割れにより欠損する。一面に擦痕が観察される。表面の一部が僅かに褐色に変色する。微細ガラスを含む。細粒砂岩製。重量 58g	
I 352	〃	VI層	目的剥片	1.6	1.5	0.3	石鏃の素材剥片の可能性有。剥離の打点は残存しない。両面の剥離軸は直交する。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 353	〃	包含層	石鏃	1.6	1.6	0.2	未製品の可能性有。押圧剥離により尖頭部を作り出す。片面側からの刃縁形成剥離はほぼみられない。サヌカイト製。重量 1g 未満	
I 354	〃	VI層	礫石器	6.3	3.5	1.3	円礫を利用する。弧状を呈し、一側面に擦痕が残る。粗粒砂岩製。重量 30g	
I 355	〃	〃	叩石・磨石	6.3	5.6	5.8	丸みを帯びた不整な四角錐状の円礫を利用する。ハンマー及び砥石として使用されたと考えられる。僅かな凹凸を持つ各面には擦痕が観察される。丸みを帯びた角部に敲打痕が集中する。材質は菱鉄鉱ノジュール。重量 314g	
I 356	〃	包含層	叩石	14.2	9.6	4.7	平面楕円形の円礫を利用する。一端に敲打痕の可能性のある痕跡が残る。長軸の片側縁に赤色顔料が僅かに付着する。片面の広範囲が褐色に変色する。中～粗粒砂岩製。重量 914g	
I 357	〃	VI層	石斧	8.9	6.4	3.1	磨製石斧。両面からの研磨により刃部を形成する。刃部は両側縁の一部まで鋭利に仕上げる。片面は敲打により部分的に剥離する。蛇紋岩製。重量 213g	
I 358	〃	包含層 (SK1直上)	石核	6.1	4.6	4.3	暗赤色の角礫を素材とする。二側面を敲打により打ち欠いたとみられる。チャート製。重量 131g	
I 359	〃	表採	剥片	8.5	4.6	2.1	厚みのある剥片。原礫面となる両面のやや軸をずらした位置に打点が明瞭に残る。サヌカイト製。重量 78g	

I 区 遺物観察表 鉄製品

番号	調査区	遺構層位	器形	法量 (cm)			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
I 351	I 区	V 層	不明	(3.8)	0.5	0.5	錐状の鉄製品。基部から先端と想定される方向に細くなる。両端は欠損する。断面形状は方形とみられる。重量 2.7g	

写真図版



Ⅱ区 ST1 上面 礫検出状態(北より)



Ⅱ区 東壁(西より)

図版2



Ⅱ区 南壁(北東より)



Ⅰ区・Ⅱ区 遺構完掘状態(西より)



Ⅱ区 ST1 東西バンク 西半部 セクション(南より)



Ⅱ区 ST1 東西バンク 東半部 セクション(南より)

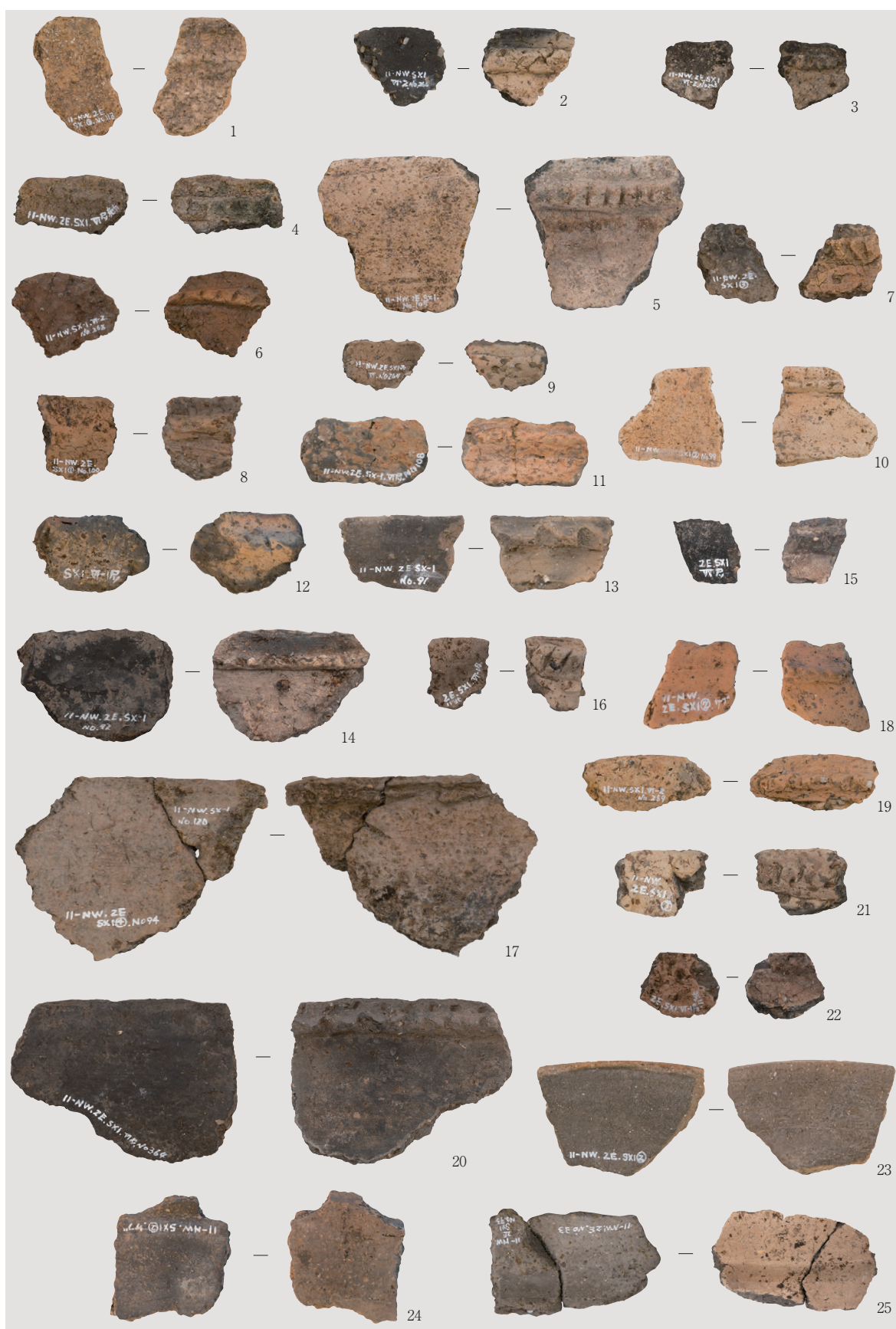
図版4



Ⅱ区 ST1 完掘状態(南東より)

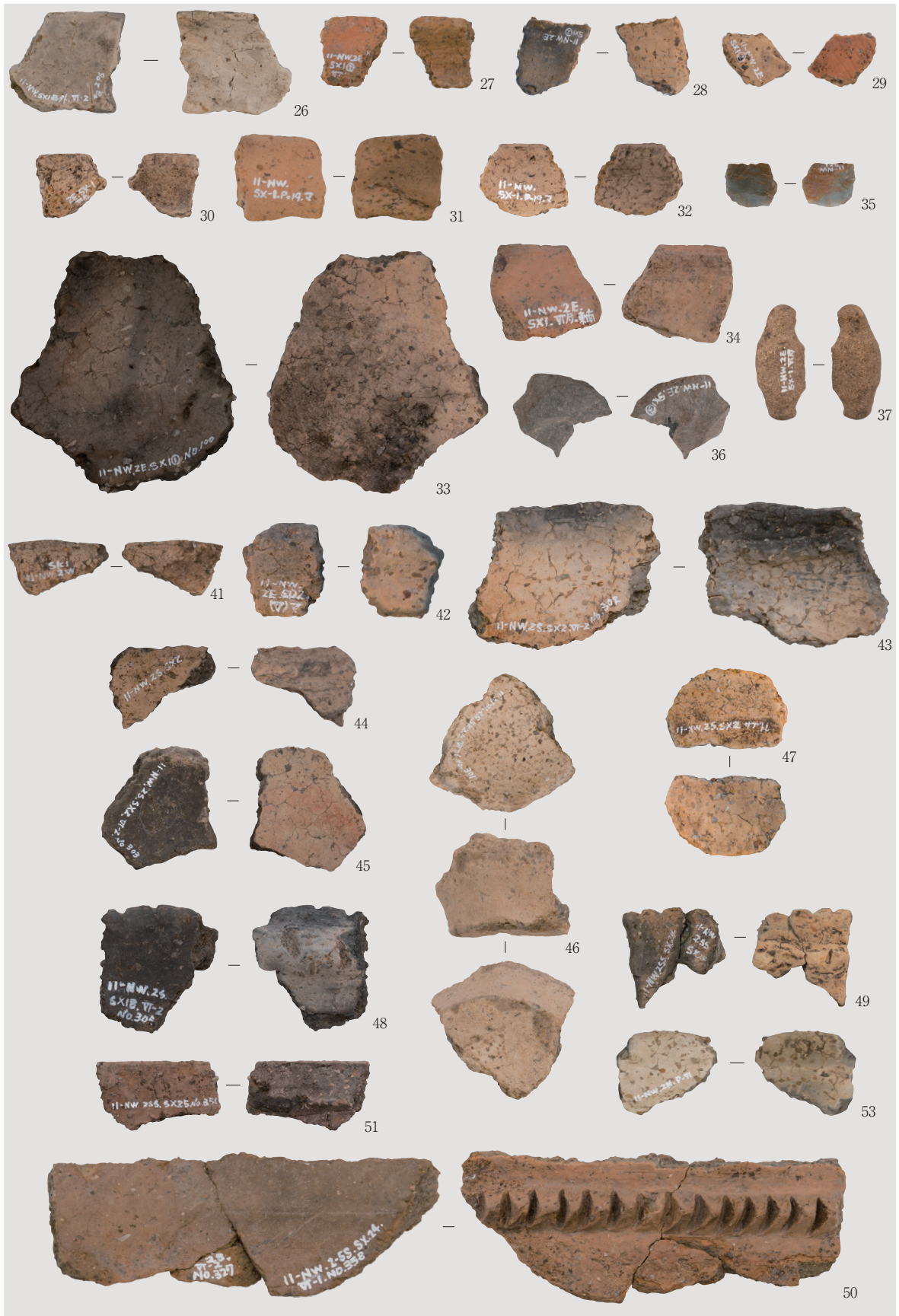


Ⅱ区 ST1 掘削作業風景(南西より)

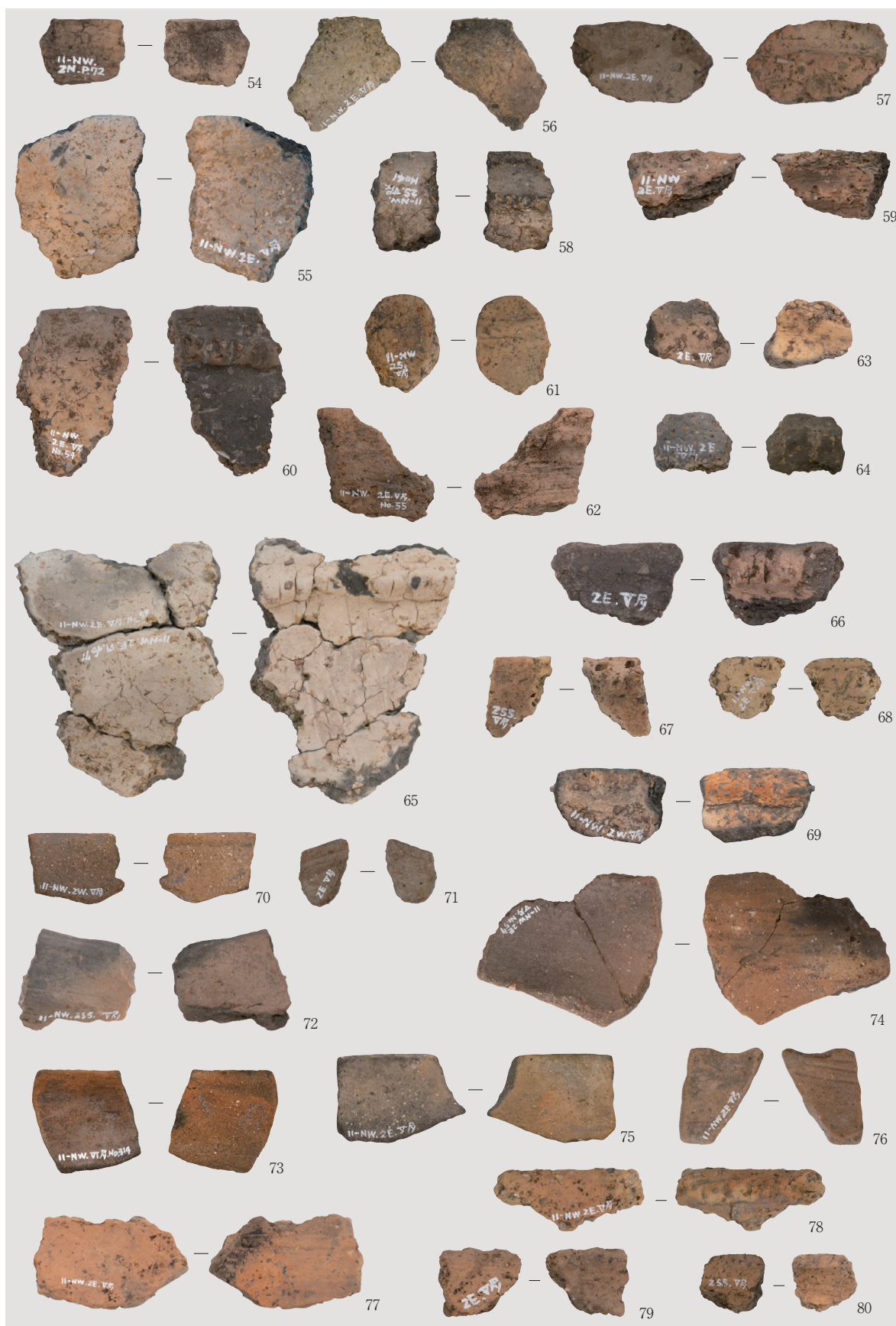


II区 ST1 出土遺物

图版6



II区 ST1/SK1/SD2/SX1~4/P15 出土遺物

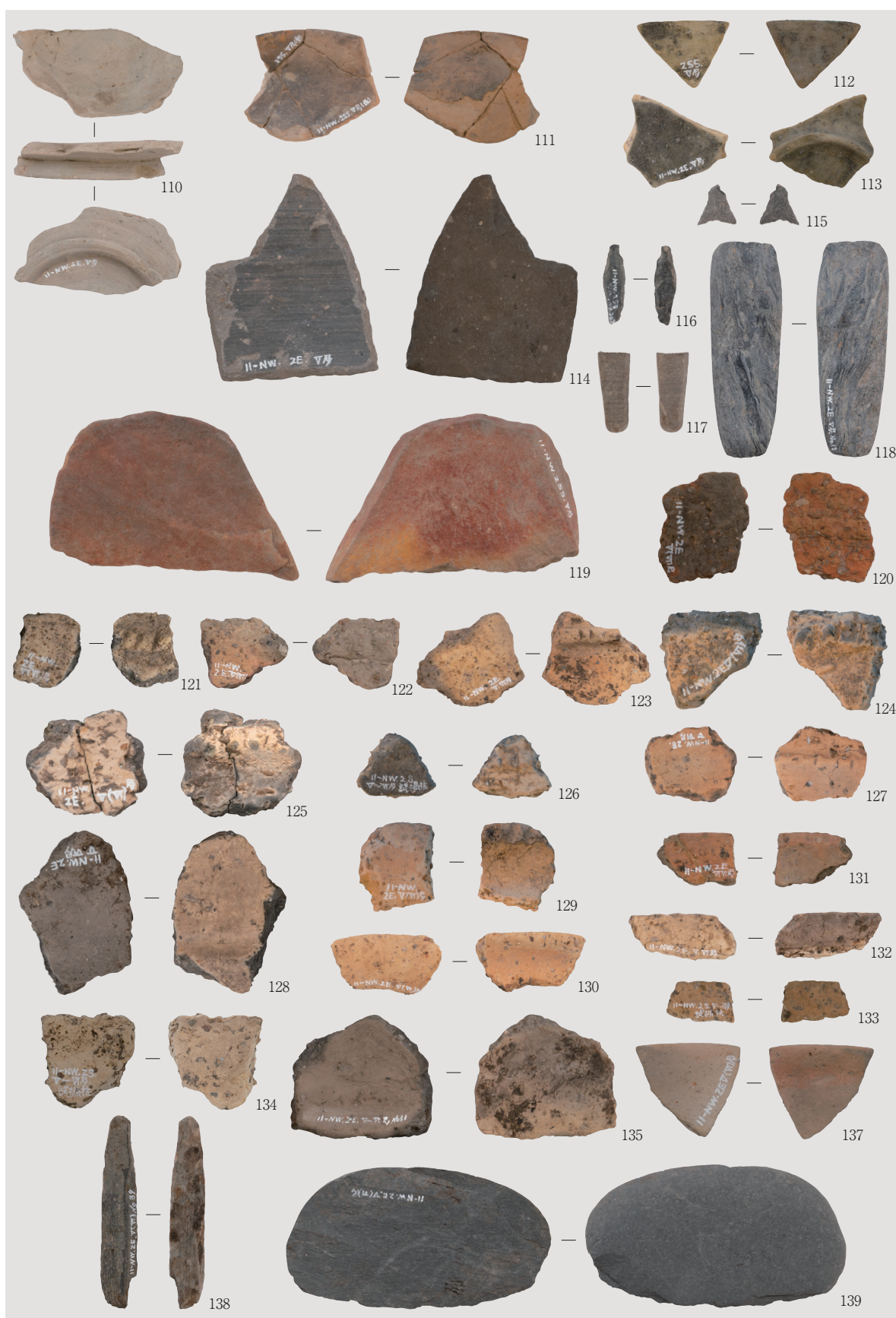


II区 P16/V層 出土遺物

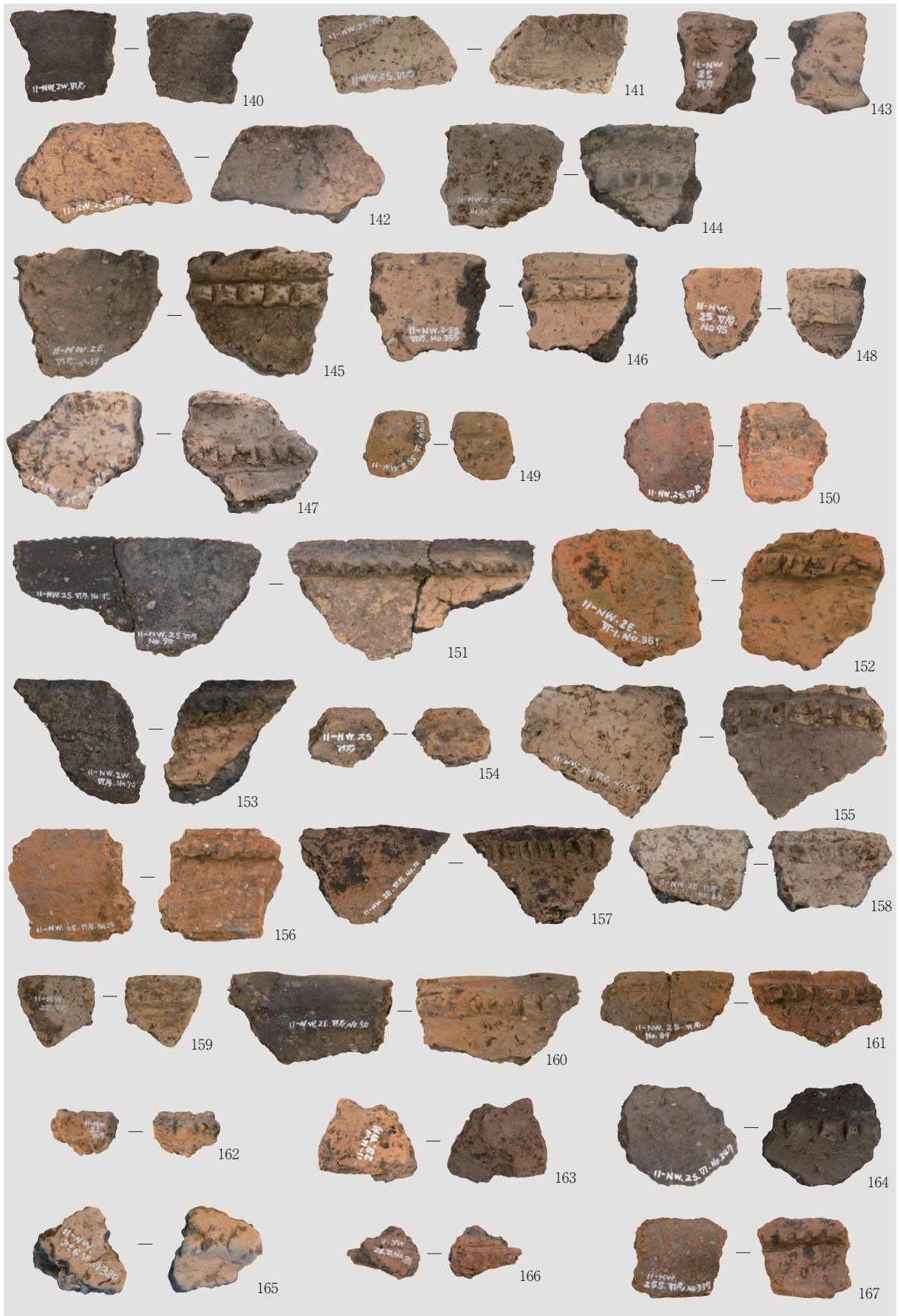
图版 8



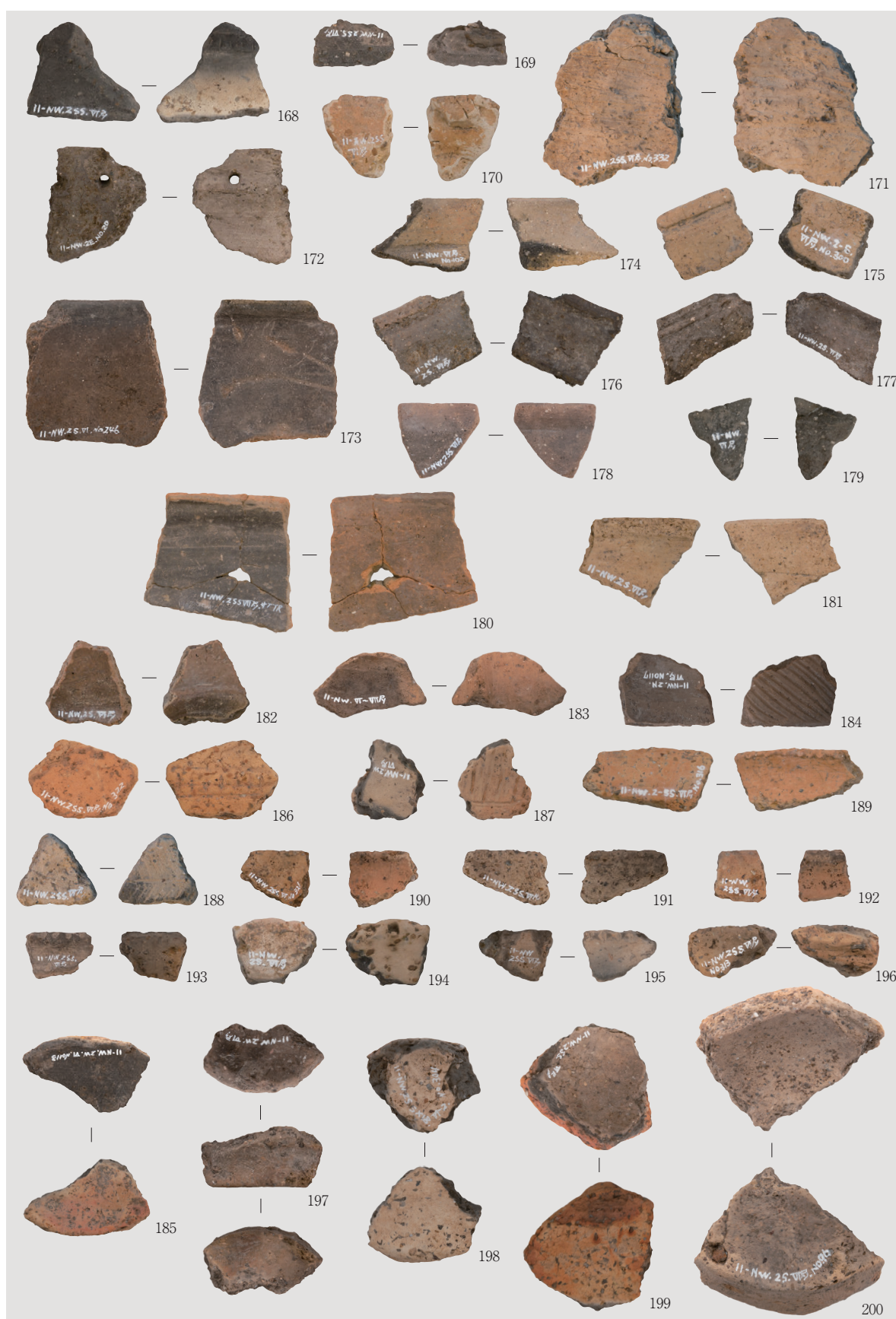
II区 V層 出土遺物



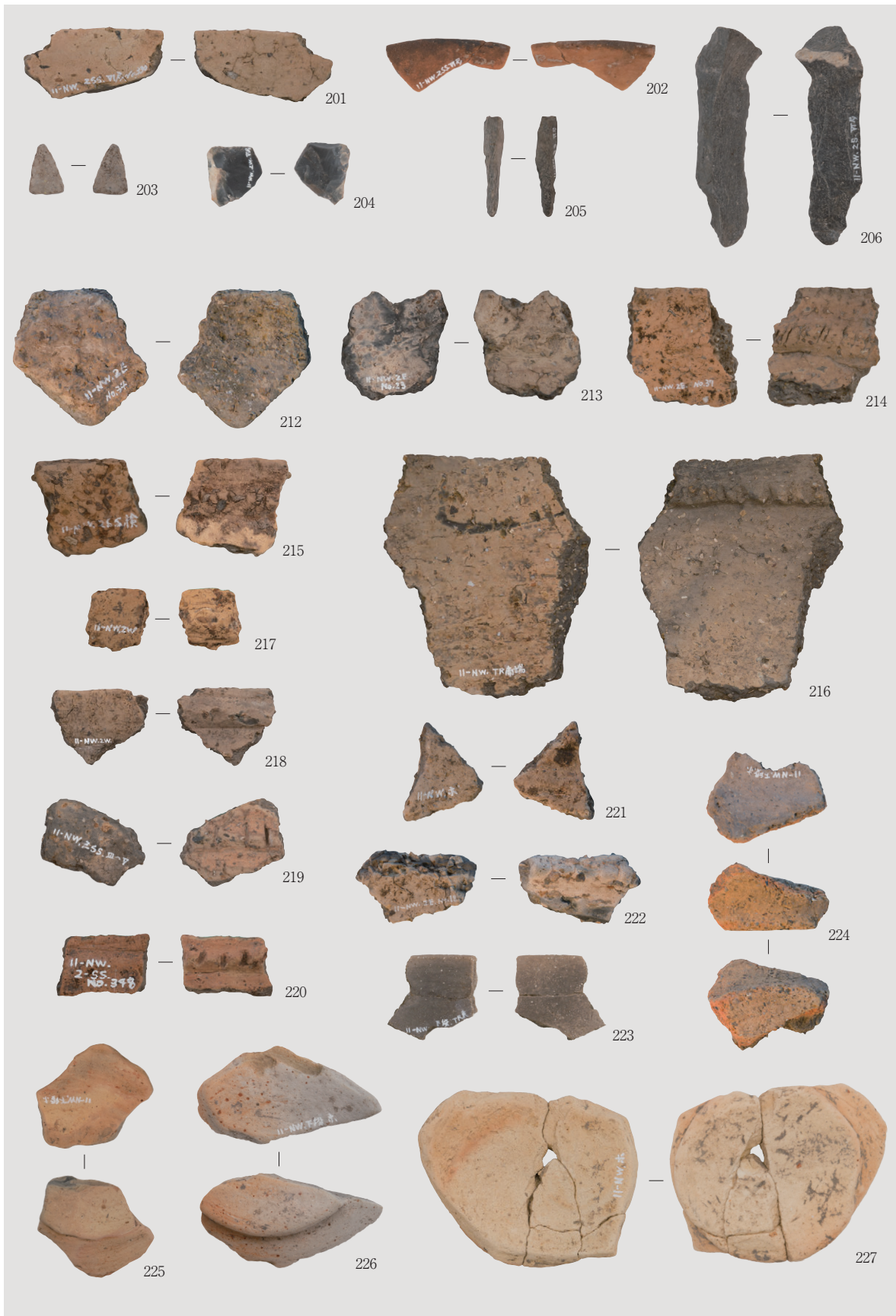
II区 V層/V・VI層 出土遺物



II区 VI層 出土遺物



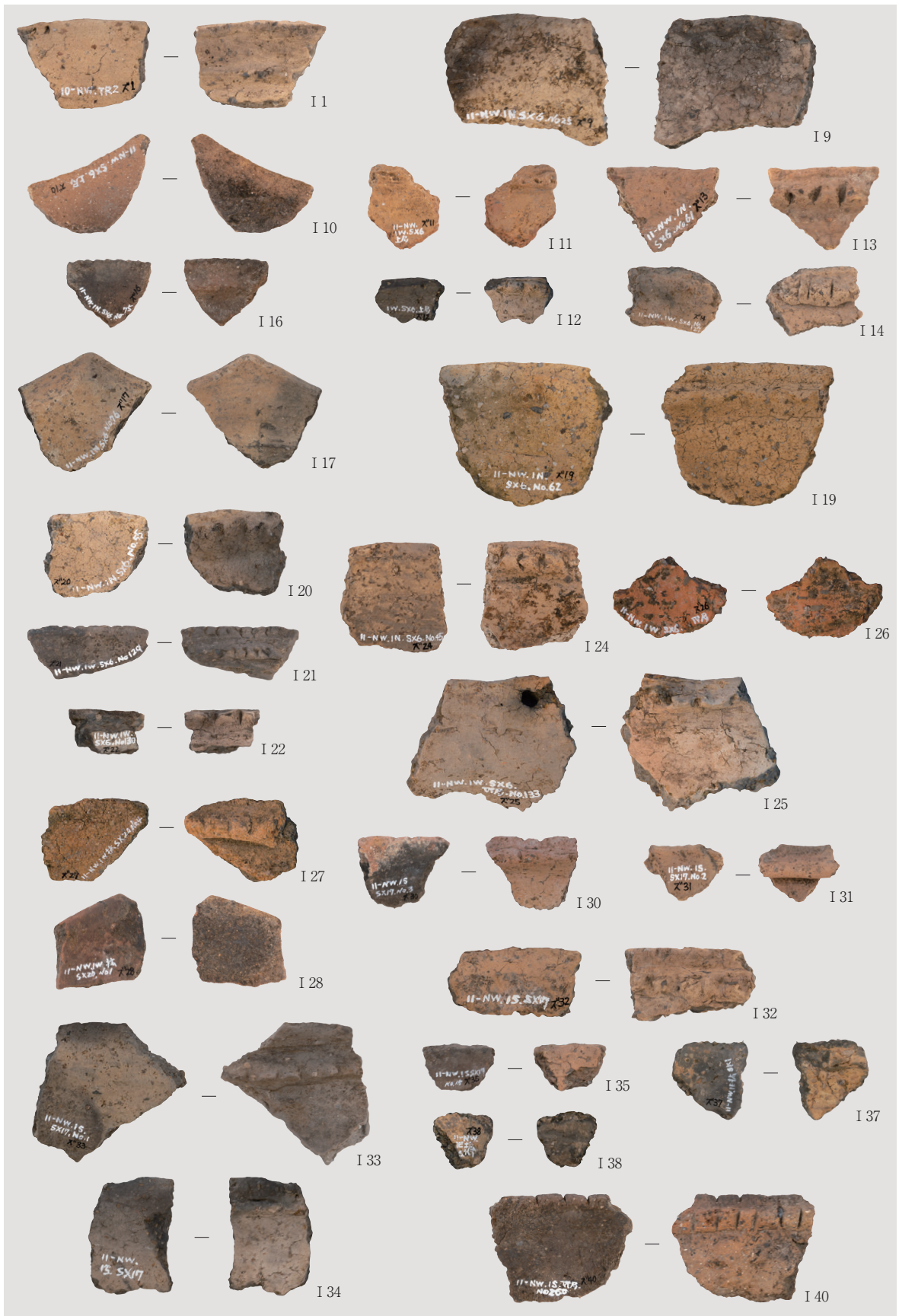
II区 VI層 出土遺物



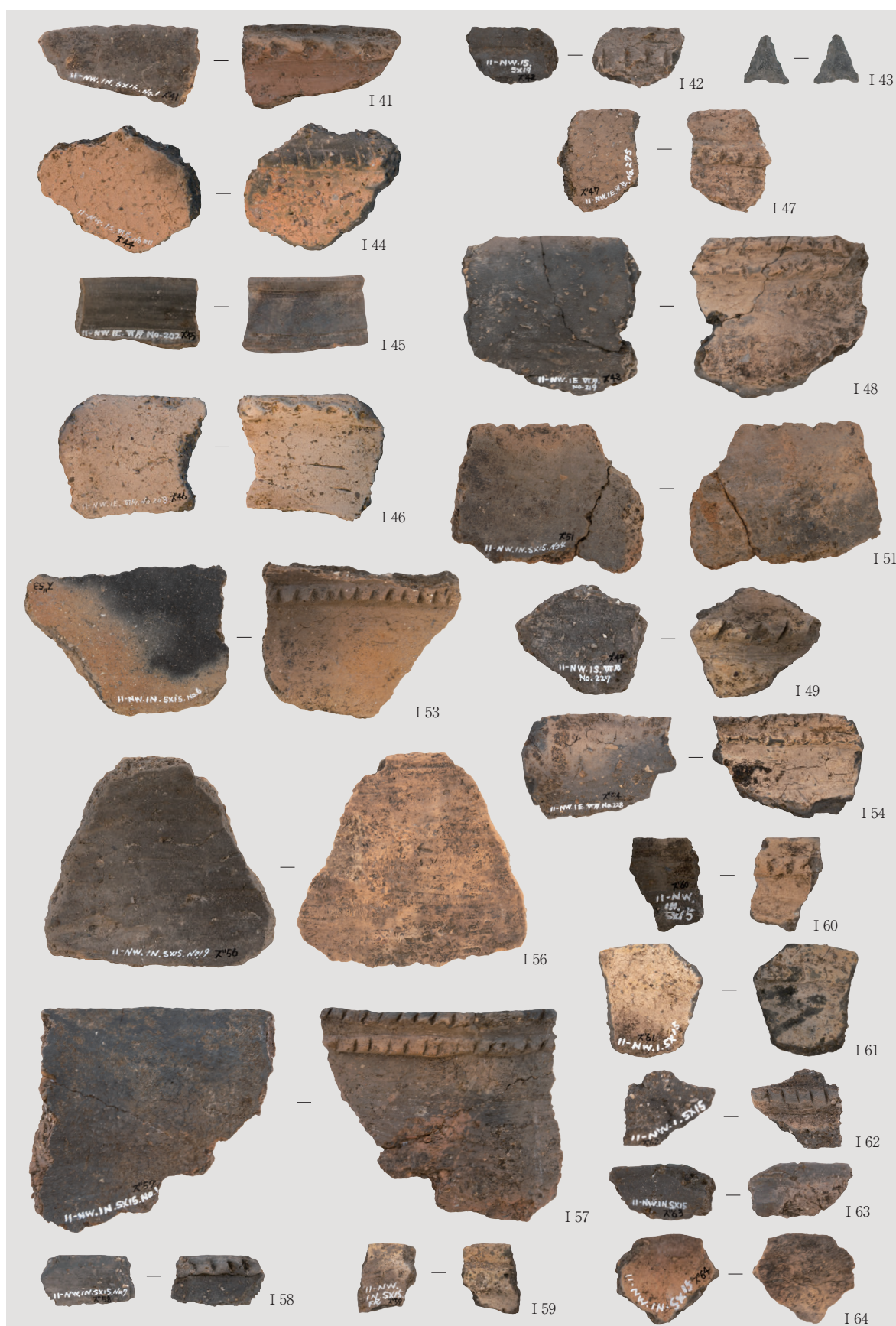
II区 VI層／包含層 出土遺物



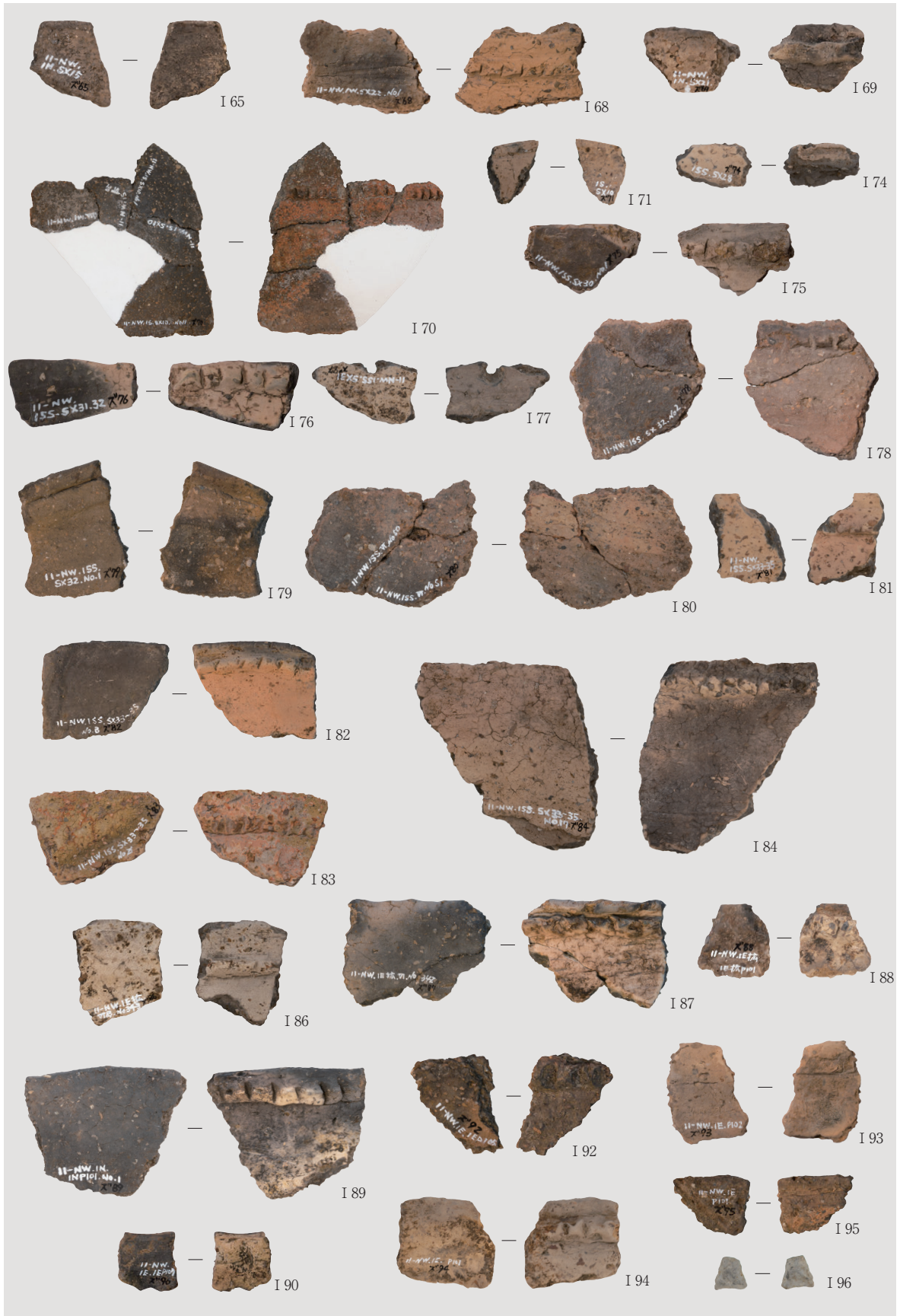
II区 包含層／表採 出土遺物



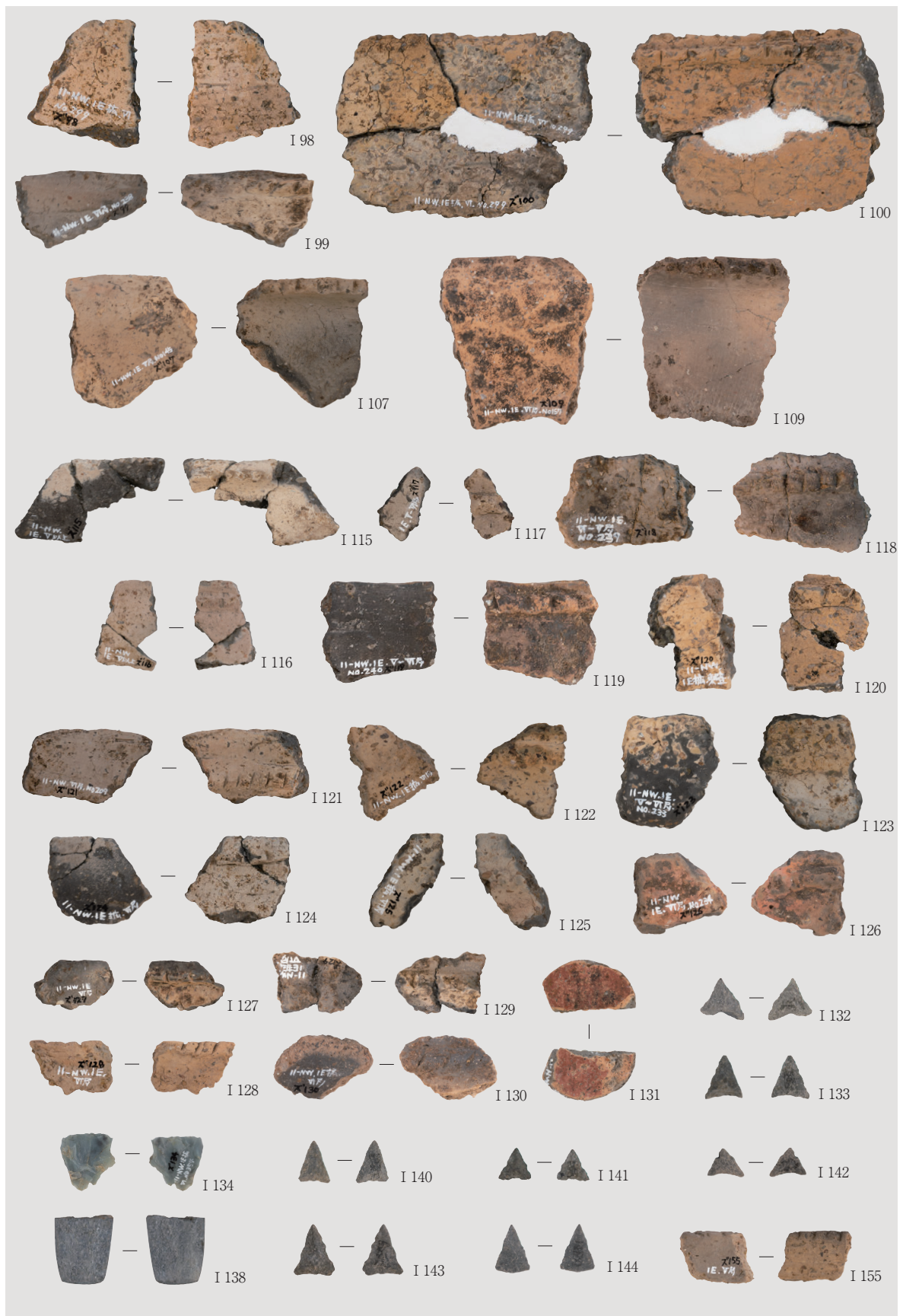
TR2 II層 / I区 SK1·2·4 / SX4·5 出土遺物



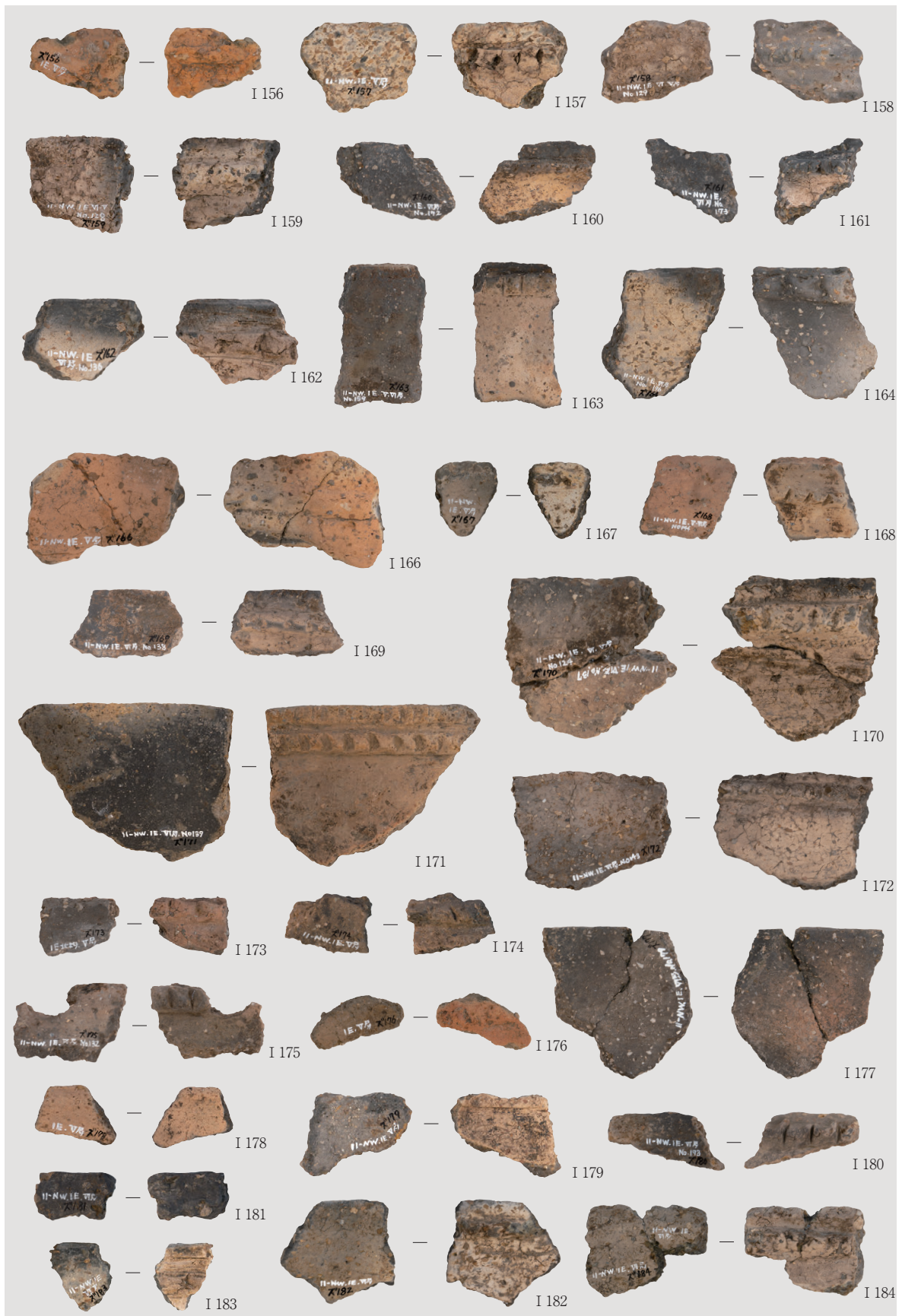
I 区 SX5~7 出土遺物



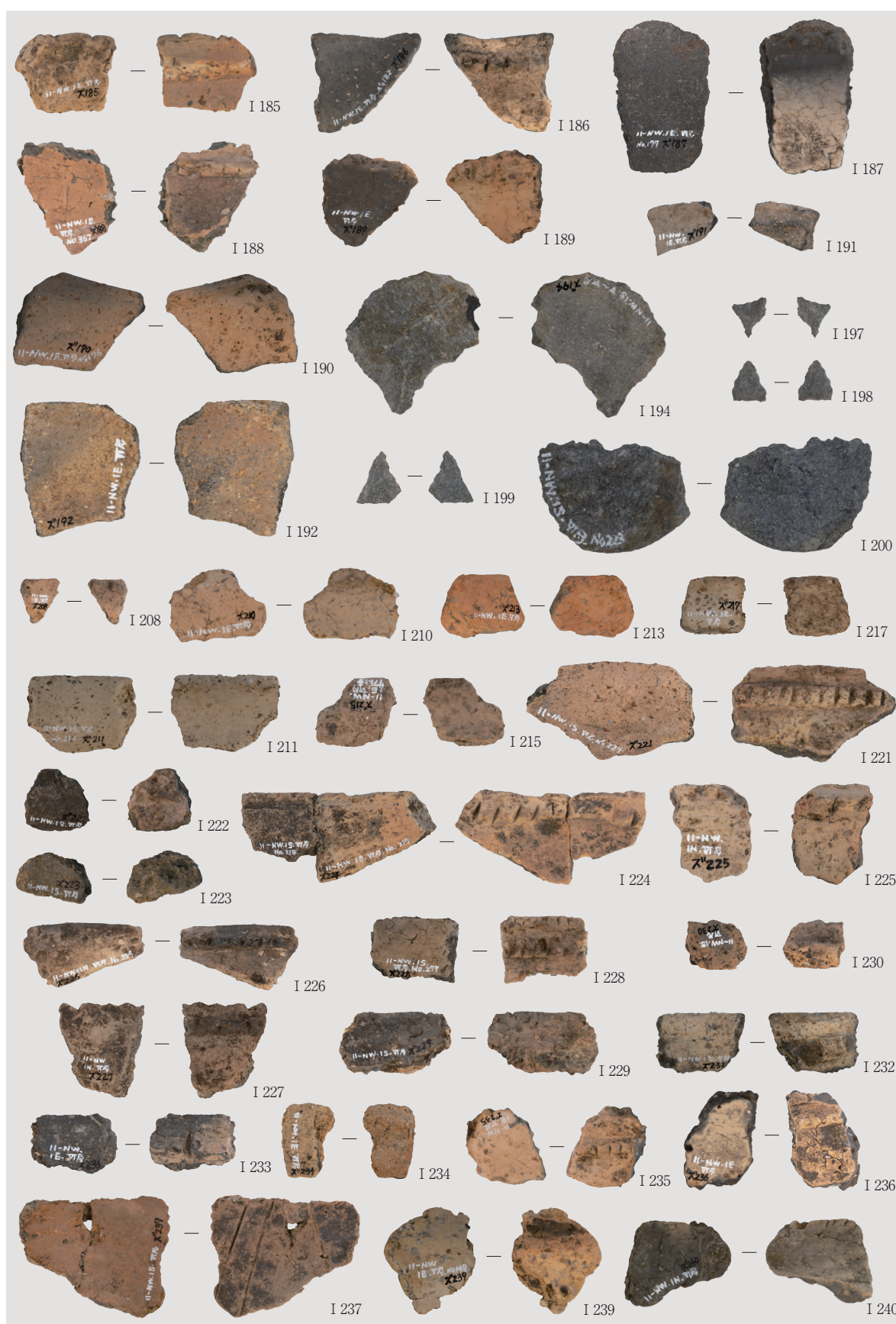
I 区 SX7·9~11·13·15~17 / P8·14·30·45·70·71 / 火刃4 出土遺物



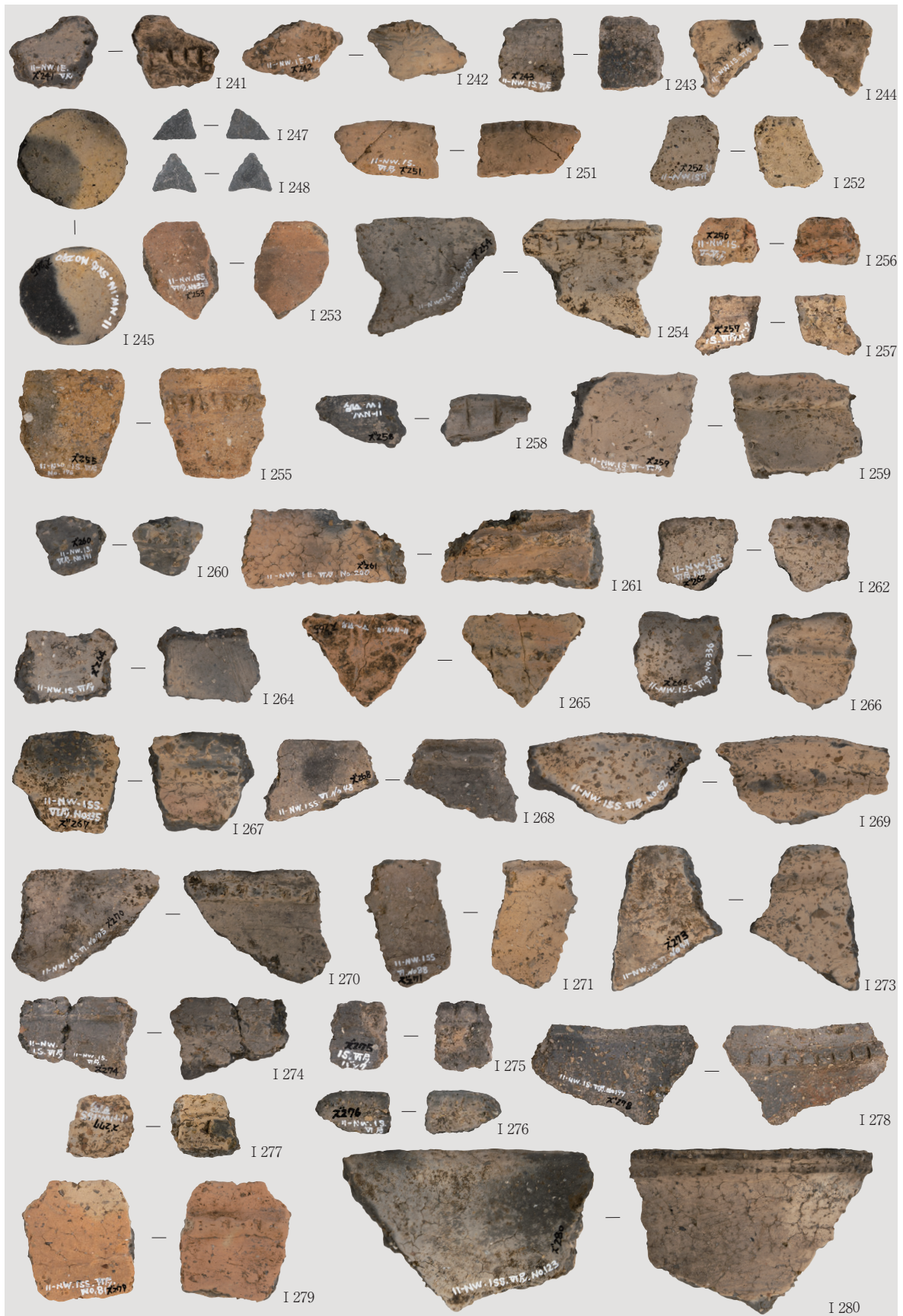
I 区 火処4/包含層/V層/V・VI層/VI層 出土遺物



I区 V·VI層/VII層 出土遺物



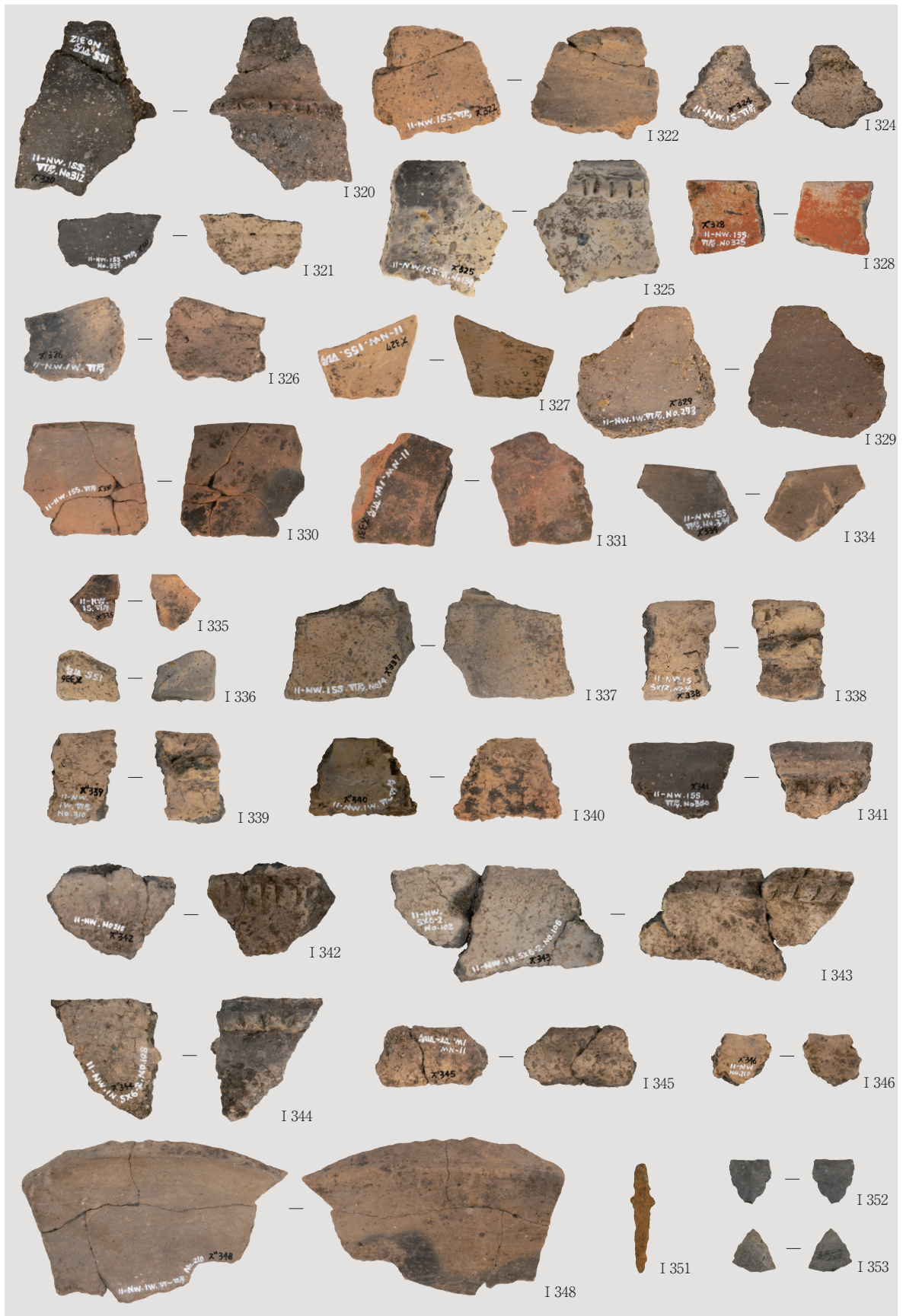
I 区 VI層／包含層 出土遺物



I 区 V·VI層/VI層/包含層 出土遺物



I 区 V·VI層/VI層 出土遺物



I区 V層/V·VI層/VI層/包含層 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にわがふちいせき							
書名	庭ヶ淵遺跡Ⅱ							
副書名	市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編著者名	松井喬行・遠部慎・早田勉							
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）							
所在地	〒781-5453 高知県香南市香我美町山北1553-1							
発行年月日	2024年2月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にわがふちいせき 庭ヶ淵遺跡	〒781-5451 高知県 香南市香我美町 上分2974番地他	39211	180060	33° 33' 57"	133° 45' 45"	2011.7.8 ～ 2011.10.6	約300㎡	市道整備事業
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
庭ヶ淵遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古代 中世	竪穴建物跡 1棟 土坑 1基 溝跡 8条 性格不明遺構 4基 ピット 22個 （Ⅱ区検出分）	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 瓦器 土師質土器 貿易陶磁器 陶器 土製品 石製品 鉄製品	遺構及び包含層から 刻目突帯文土器が出土 した。 孔列文土器3点、長竹 式土器に類似する北陸 系土器3点が出土した。 縄文時代晩期末から 弥生時代前期と考えら れる竪穴建物跡1棟を検 出した。			
要約	<p>庭ヶ淵遺跡は、平成22年度に市道整備事業に伴い実施された試掘調査により発見された遺跡である。縄文時代晩期と考えられる刻目突帯文を施す深鉢や磨研浅鉢のほか、石鎌をはじめとする石製品、弥生時代前期の土器、古代～中世の遺物が出土した。本書所収の第Ⅱ調査地区においては、炭素14年代値が$2630 \pm 20\text{BP}$、$2540 \pm 20\text{BP}$を示す土器を出土する竪穴建物跡などの遺構を検出した。香南市の内陸部において縄文時代から弥生時代の移行期に形成された小集落の存在を示す重要な遺跡である。</p>							

高知県香南市発掘調査報告書第22集

庭ヶ淵遺跡Ⅱ

市道堀ノ内南北線整備工事に伴う発掘調査報告書

2024年2月

発行 高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター

〒781-5453

高知県香南市香我美町山北1553-1

Tel. 0887-54-2296

印刷 川北印刷株式会社